

# 一宮市 一般高齢者アンケート

～第9期一宮市高齢者福祉計画の策定に向けて～

## 【調査結果報告書】

令和5年3月

一宮市



## 目次

1	調査の概要	1
	ア. 調査の目的	1
	イ. 調査概要	1
	ウ. 報告書の見方	1
2	調査結果	2
	ア. 調査票の回答者について	2
	イ. あなた（宛名のご本人）ご自身のことについて	2
	ウ. からだを動かすことについて	7
	エ. 食べることについて	12
	オ. 毎日の生活について	14
	カ. 地域活動や就労について	25
	キ. たすけあい・支えあいについて	29
	ク. 心身の健康について	34
	ケ. 認知症について	38
	コ. 防災について	40
	サ. 高齢者福祉や介護保険について	43
3	生活機能評価	55

# 1 調査の概要

## ア. 調査の目的

本調査は、「第9期一宮市高齢者福祉計画（介護保険事業計画を含む）」を策定するにあたり、高齢者の方の生活や健康の実態を把握し、計画づくりや施策の立案に活用することを目的として実施しました。

## イ. 調査概要

調査対象者：市内在住の65歳以上（要介護1～5の方を除く）の市民2,500人（無作為抽出）

調査方法：郵送配布、郵送回収・Web回答

調査期間：令和5年1月6日（金）～令和5年1月24日（火）

回収率：72.4%（回収数：1,810件）

## ウ. 報告書の見方

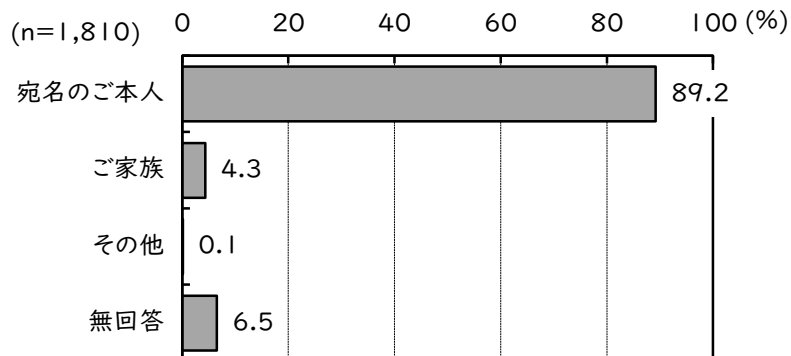
- 図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。複数回答のグラフ表記については以下のとおりです。
  - MA%（Multiple Answer）： 選択肢から当てはまるものすべてを回答する場合
  - 3LA%（Limited Answer）： 選択肢から当てはまるものを3つまで回答する場合
- 図表中の「無回答」とは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中における設問の選択肢については簡略化している場合があります。
- 本文中における「圏域」とは日常生活圏域を指し、分け方は以下のとおりです。
  - 中・西地区：宮西・神山・今伊勢町・奥町連区
  - 北地区：葉栗・北方町・木曽川町連区
  - 北・東地区：貴船・西成・浅井町連区
  - 南・東地区：大志・向山・富士・丹陽町・千秋町連区
  - 南地区：大和町・萩原町連区
  - 南・西地区：起・小信中島・三条・大徳・朝日・開明連区
- 圏域別の集計表の網掛けについては以下の通りです（無回答、わからないを除いた順）。  
《最も割合の高いもの》網掛けと太文字 《2番目に割合が高いもの》網掛け
- 本文中の「前回」、「前回調査」とは、令和2年1月に実施した「第8期一宮市高齢者福祉計画の策定に向けてのアンケート調査」のことを指します。

## 2 調査結果

### ア. 調査票の回答者について

問1 この調査票にご記入いただいている方はどなたですか。(○は1つだけ)

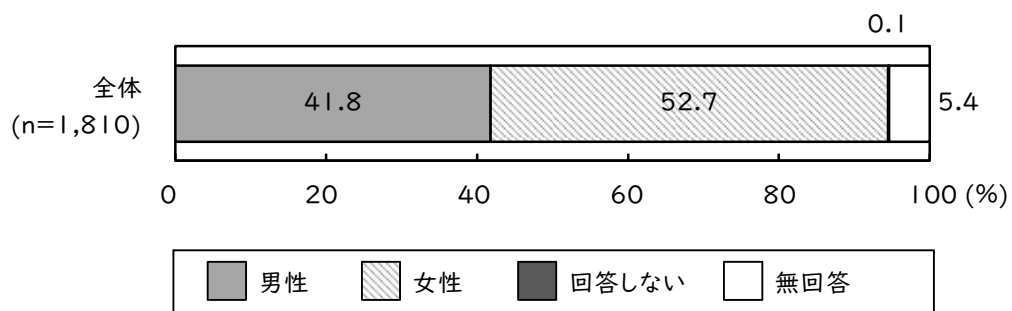
「宛名のご本人」が89.2%と、大半を占めています。



### イ. あなた（宛名のご本人）ご自身のことについて

問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

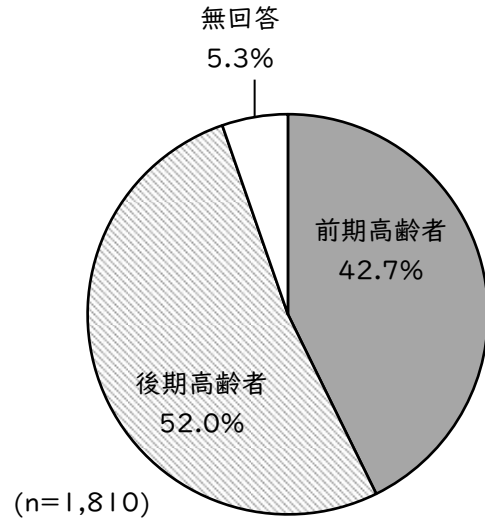
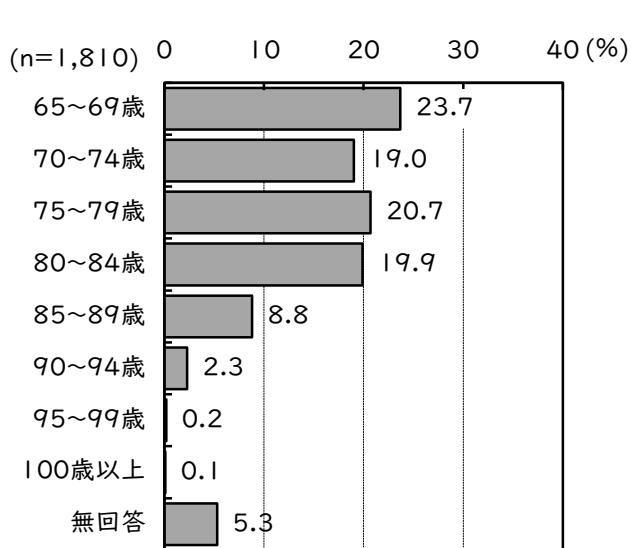
「男性」が41.8%、「女性」が52.7%となっています。



問3 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つだけ)

「65～69歳」が23.7%と最も高く、次いで、「75～79歳」が20.7%、「80～84歳」が19.9%、「70～74歳」が19.0%、「85～89歳」が8.8%となっています。

前期高齢者・後期高齢者の別でみると、「前期高齢者」が42.7%、「後期高齢者」が52.0%となっています。

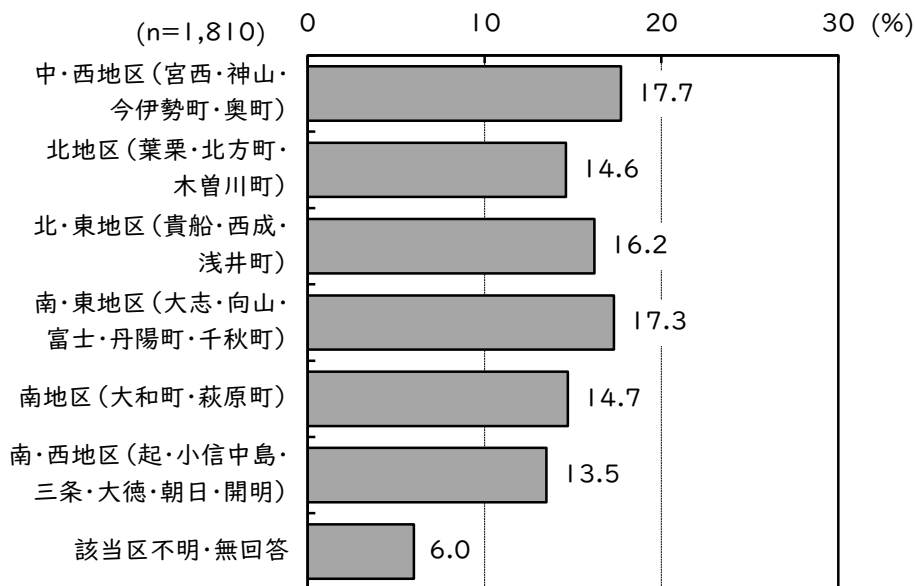
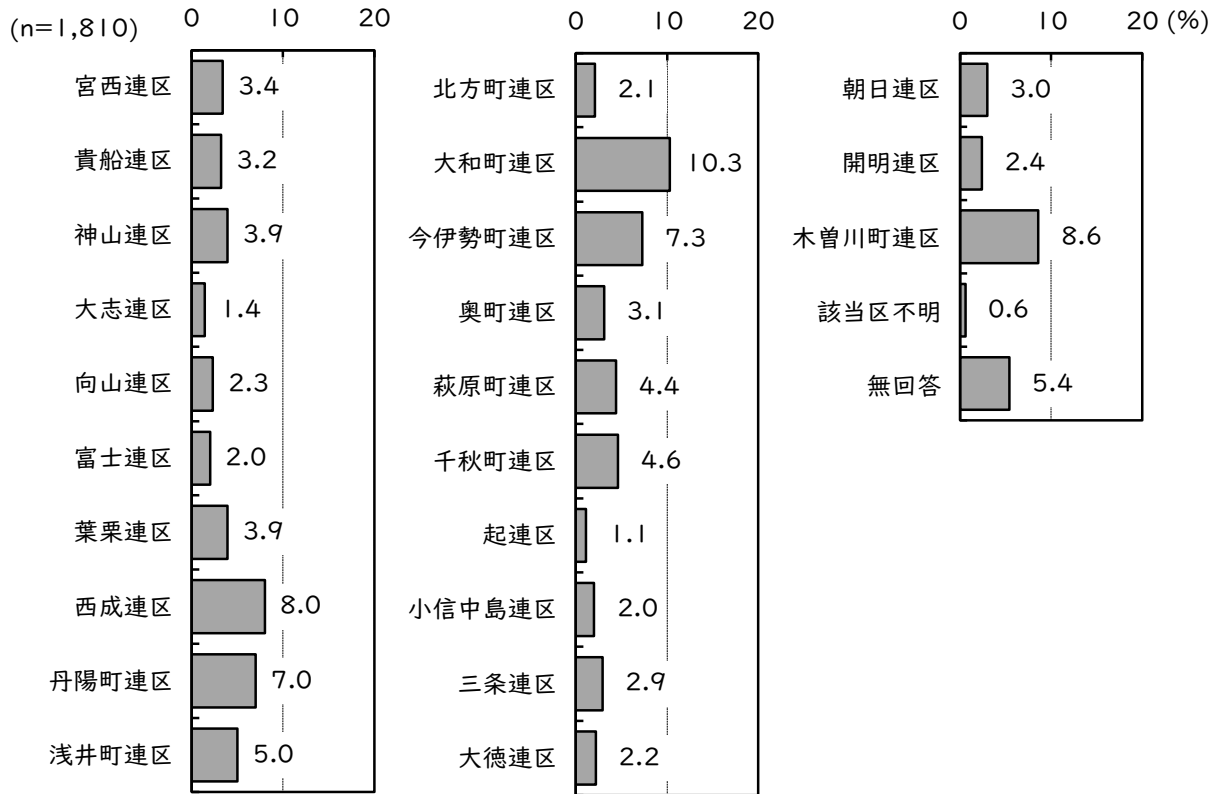


※割合は実数から計算しているため、年齢の割合の合計と「前期高齢者」、「後期高齢者」の割合は一致しない。

問4 あなたは、どちらにお住まいですか。(○は1つだけ)

「大和町連区」が10.3%と最も高く、次いで、「木曾川町連区」が8.6%、「西成連区」が8.0%、「今伊勢町連区」が7.3%、「丹陽町連区」が7.0%となっています。

圏域でみると、「中・西地区(宮西・神山・今伊勢町・奥町)」が17.7%と最も高くなっています。

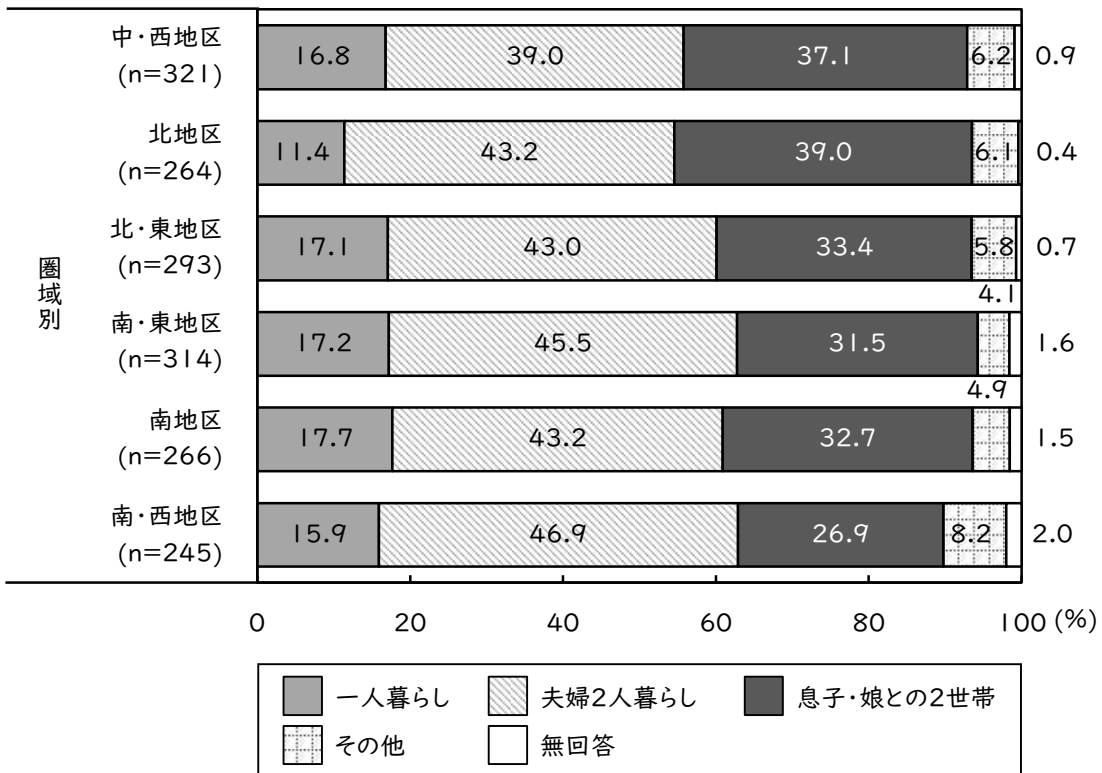
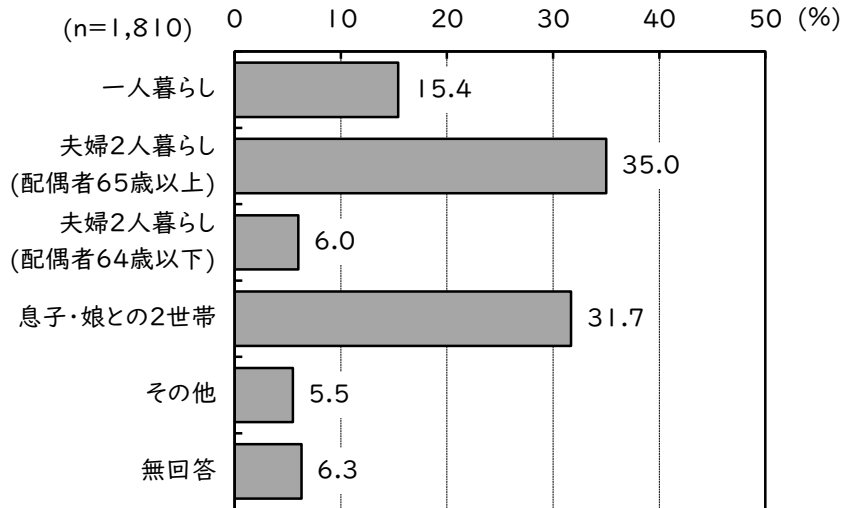


※割合は実数から計算しているため、連区の割合の合計と地区の割合は一致しない。

問5 あなたの家族構成をお教えてください。(○は1つだけ)

「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が35.0%と最も高く、次いで、「息子・娘との2世帯」が31.7%、「一人暮らし」が15.4%、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」が6.0%となっています。「夫婦2人暮らし」については41.0%となっています。

圏域別に世帯構成を4区分で見ると、どの地区も「夫婦2人暮らし」が最も高くなっています。「一人暮らし」の割合については、《北・東地区》、《南・東地区》、《南地区》で高くなっています(北・東地区：17.1%、南・東地区：17.2%、南地区：17.7%)。

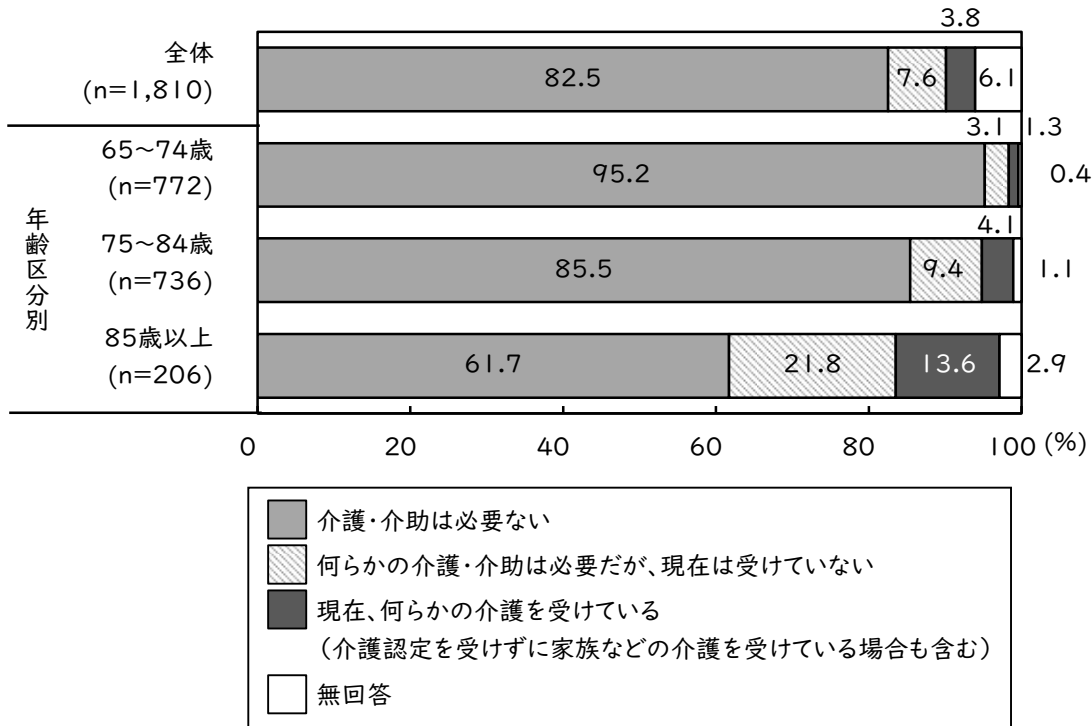




問6 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つだけ)

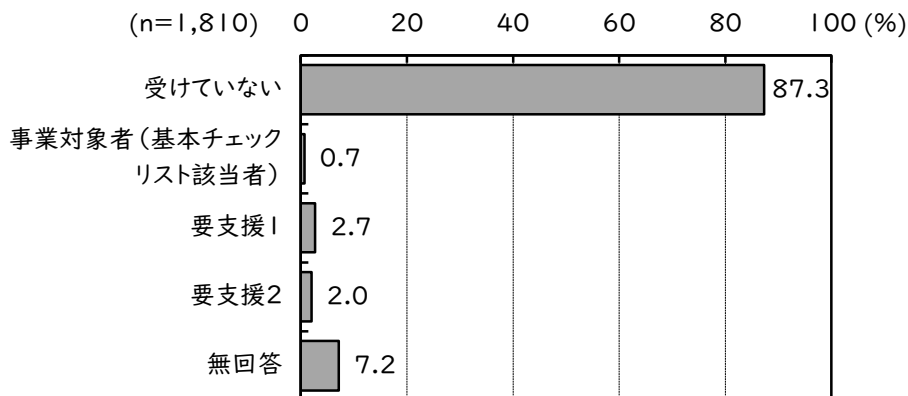
《全体》では、「介護・介助は必要ない」が 82.5%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 7.6%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が 3.8%となっています。

「介護・介助は必要ない」の割合は年齢区分が上がるほど低くなり、《65～74 歳》では 95.2%、《75～84 歳》では 85.5%、《85 歳以上》では 61.7%と、《75～84 歳》から《85 歳以上》にかけての減少が大きくなっています。



問7 あなたの要介護度等は次のどれに該当しますか。(○は1つだけ)

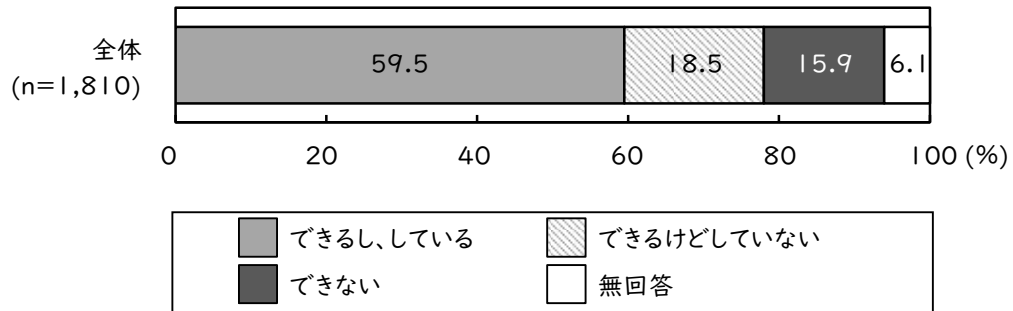
「受けていない」が 87.3%、「事業対象者（基本チェックリスト該当者）」が 0.7%、「要支援1」が 2.7%、「要支援2」が 2.0%となっています。



## ウ. からだを動かすことについて

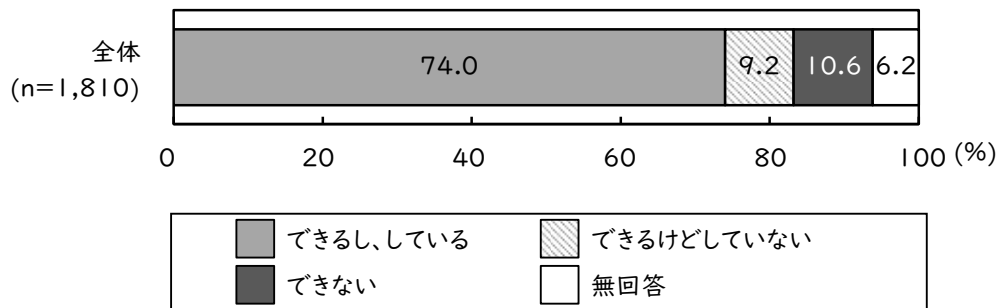
問8 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○は1つだけ)

「できるし、している」が59.5%、「できるけどしていない」が18.5%、「できない」が15.9%となっています。



問9 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つだけ)

「できるし、している」が74.0%、「できるけどしていない」が9.2%、「できない」が10.6%となっています。



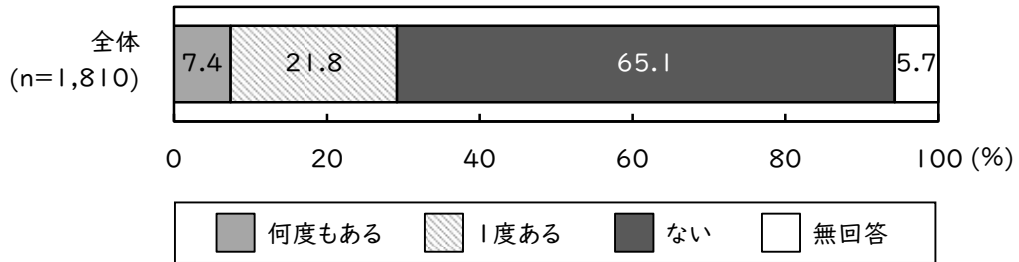
問10 15分位続けて歩いていますか。(○は1つだけ)

「できるし、している」が71.1%、「できるけどしていない」が15.5%、「できない」が7.3%となっています。



問 11 過去 1 年間に転んだ経験がありますか。(○は 1 つだけ)

「何度もある」が 7.4%、「1 度ある」が 21.8%、「ない」が 65.1%となっています。



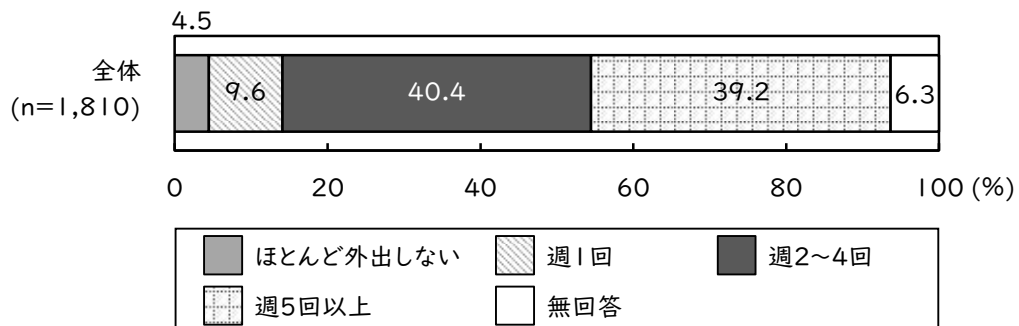
問 12 転倒に対する不安は大きいですか。(○は 1 つだけ)

「やや不安である」が 31.5%と最も高く、次いで、「あまり不安でない」が 27.7%、「不安でない」が 22.5%となっています。『不安がある』（「とても不安である」+「やや不安である」）は 43.8%、『不安でない』（「不安でない」+「あまり不安でない」）は 50.2%となっています。



問 13 週に 1 回以上は外出していますか。(○は 1 つだけ)

「週 2～4 回」が 40.4%と最も高く、次いで、「週 5 回以上」が 39.2%、「週 1 回」が 9.6%、「ほとんど外出しない」が 4.5%となっています。



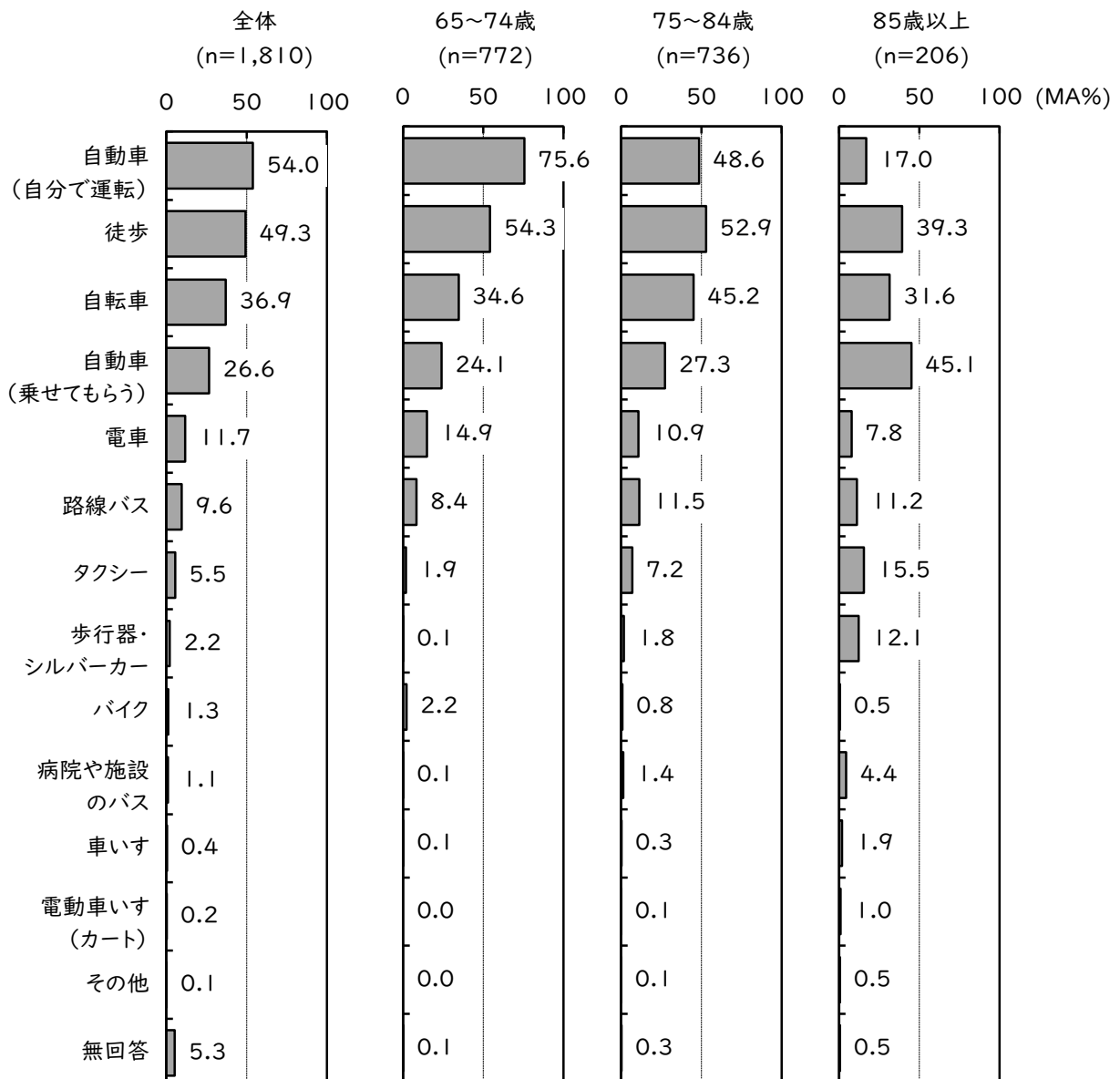
問 14 外出する際の移動手段は何ですか。(○はいくつでも)

《全体》では、「自動車（自分で運転）」が 54.0%と最も高く、次いで、「徒歩」が 49.3%、「自転車」が 36.9%、「自動車（乗せてもらう）」が 26.6%となっています。

年齢区分別でみると、《65～74歳》、《75～84歳》では、「自動車（自分で運転）」（65～74歳：75.6%、75～84歳：48.6%）、「徒歩」（65～74歳：54.3%、75～84歳：52.9%）、「自転車」（65～74歳：34.6%、75～84歳：45.2%）が上位3位となっていますが、《85歳以上》では、「徒歩」、「自転車」、「自動車（乗せてもらう）」が上位3位となっており（順に 39.3%、31.6%、45.1%）、《65～74歳》では、「自動車（自分で運転）」、《75～84歳》では「徒歩」、《85歳以上》では「自動車（乗せてもらう）」が最も高くなっています。

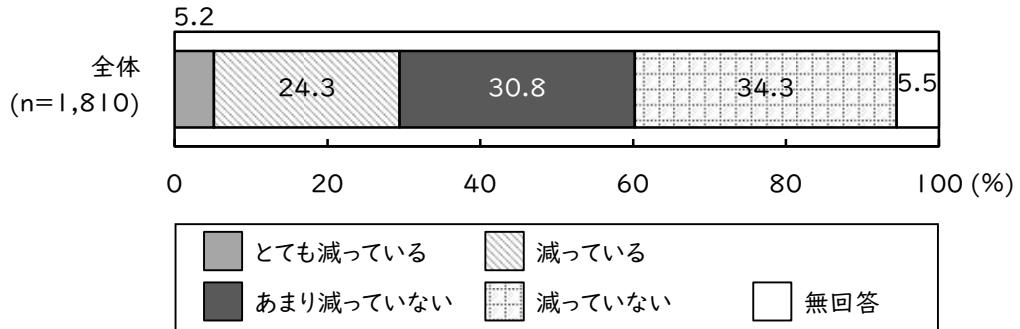
《全体》の上位3位のうち、「自動車（自分で運転）」については、年齢区分が上がるほど割合が低くなり、減少幅も大きくなっています。

【年齢区分別】



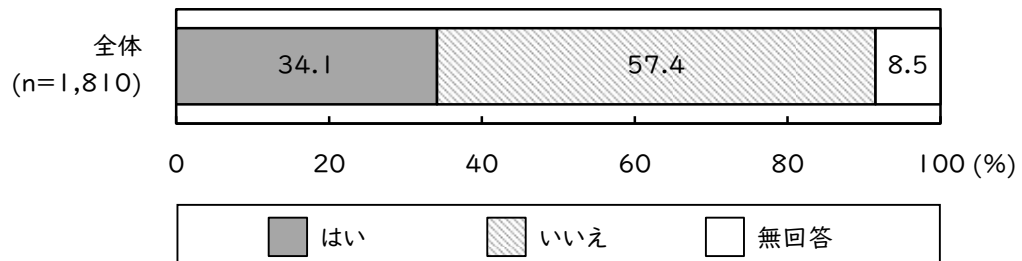
問 15 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(○は1つだけ)

「減っていない」が34.3%と最も高く、次いで、「あまり減っていない」が30.8%、「減っている」が24.3%となっています。『減っている』（「とても減っている」+「減っている」）は29.5%、『減っていない』（「減っていない」+「あまり減っていない」）は65.1%となっています。



問 16 外出を控えていますか。(○は1つだけ)

「はい」が34.1%、「いいえ」が57.4%となっています。



〈外出を控えている方のみ（問 16 で「はい」の方）〉

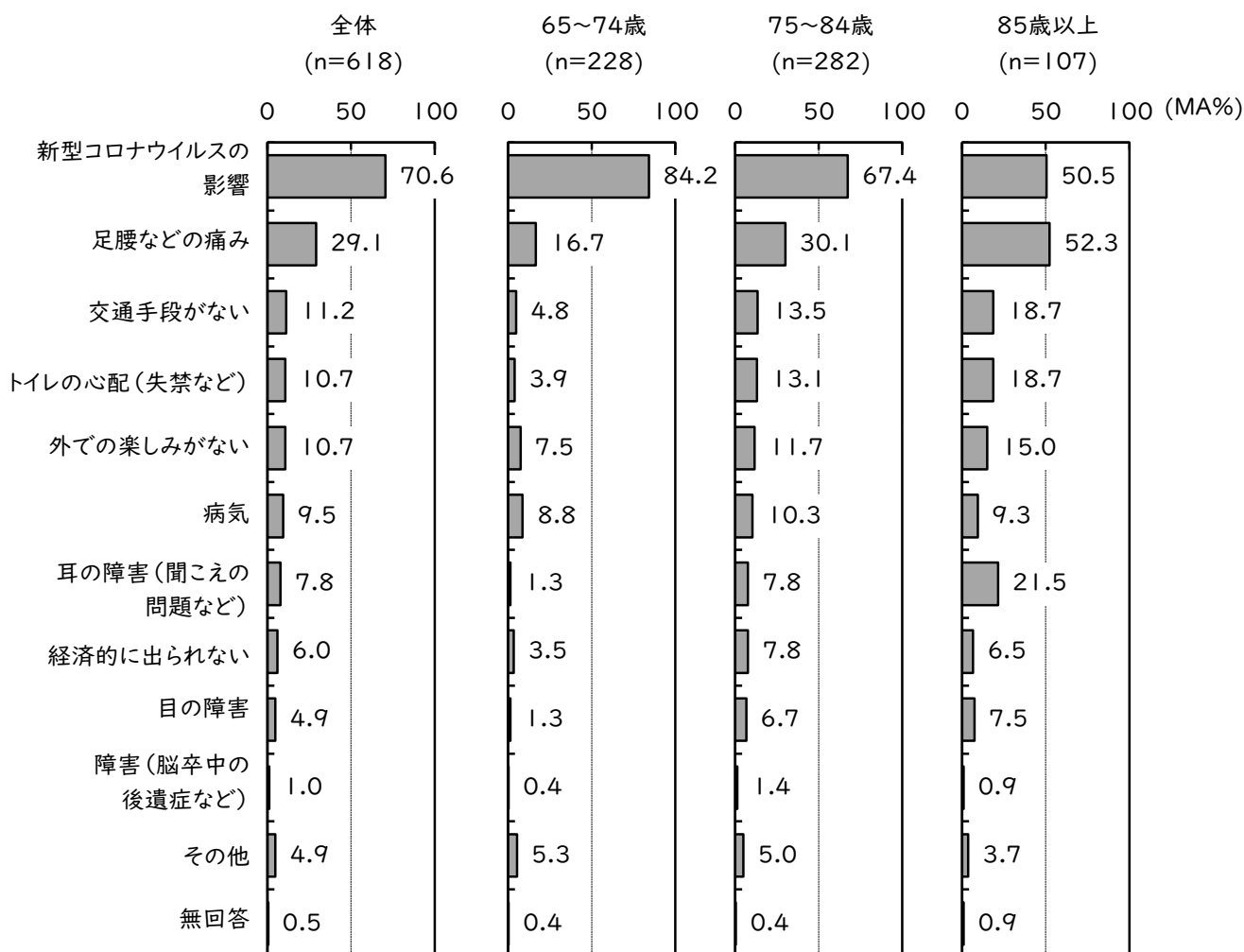
問 17 外出を控えている理由は、次のどれですか。（○はいくつでも）

《全体》では、「新型コロナウイルスの影響」が 70.6%と最も高く、次いで、「足腰などの痛み」が 29.1%、「交通手段がない」が 11.2%、「トイレの心配（失禁など）」、「外での楽しみがない」がそれぞれ 10.7%となっています。

年齢区分別でみると、どの区分も「新型コロナウイルスの影響」（65～74 歳：84.2%、75～84 歳：67.4%、85 歳以上：50.5%）、「足腰などの痛み」（65～74 歳：16.7%、75～84 歳：30.1%、85 歳以上：52.3%）が上位 2 位となっていますが、《65～74 歳》、《75～84 歳》では「新型コロナウイルスの影響」が最も高く、《85 歳以上》では「足腰などの痛み」が最も高くなっています。

《全体》の上位 3 位のうち、「足腰の痛み」、「交通手段がない」については、年齢区分が上がるほど割合が高くなり、増加幅も大きくなっています。一方、「新型コロナウイルスの影響」は、年齢区分が上がるほど割合が低くなっています。

【年齢区分別】

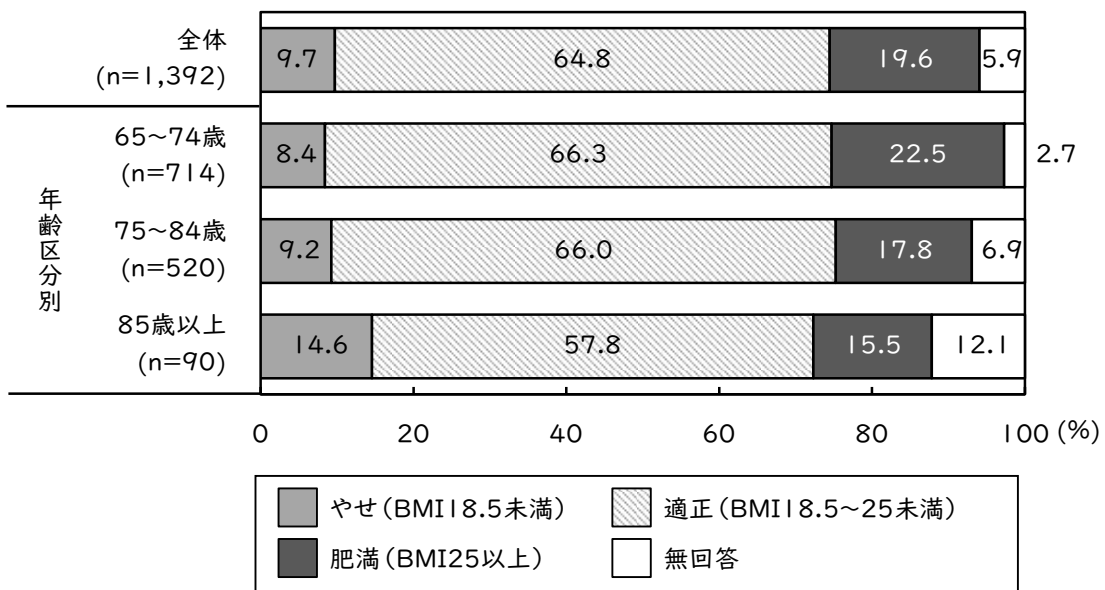


## Ⅰ. 食べることについて

### 問 18 身長・体重についてお答えください。(数字記入)

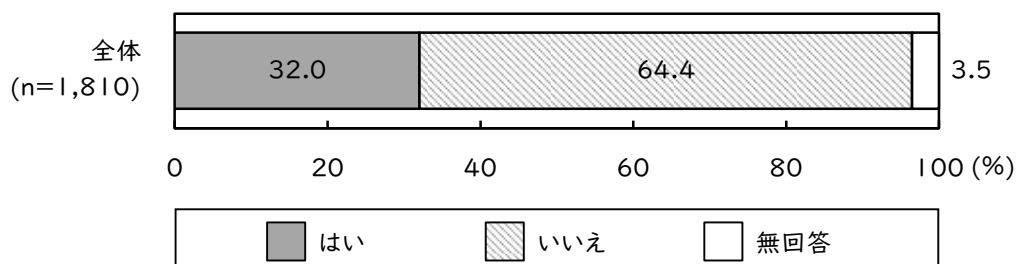
身長・体重からBMIを算出すると、《全体》では、「やせ型」が9.7%、「適正」が64.8%、「肥満」が19.6%となっています。

「やせ型」の割合は年齢区分が上がるほど高くなり、《65～74歳》では8.4%、《75～84歳》では9.2%、《85歳以上》では14.6%となっています。「肥満」の割合については《65～74歳》で最も高く、22.5%となっています。



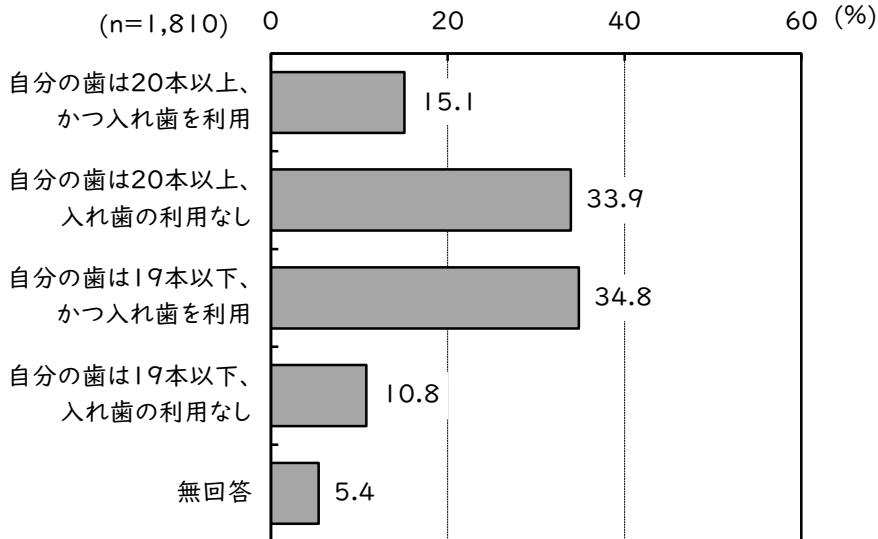
### 問 19 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○は1つだけ)

「はい」が32.0%、「いいえ」が64.4%となっています。



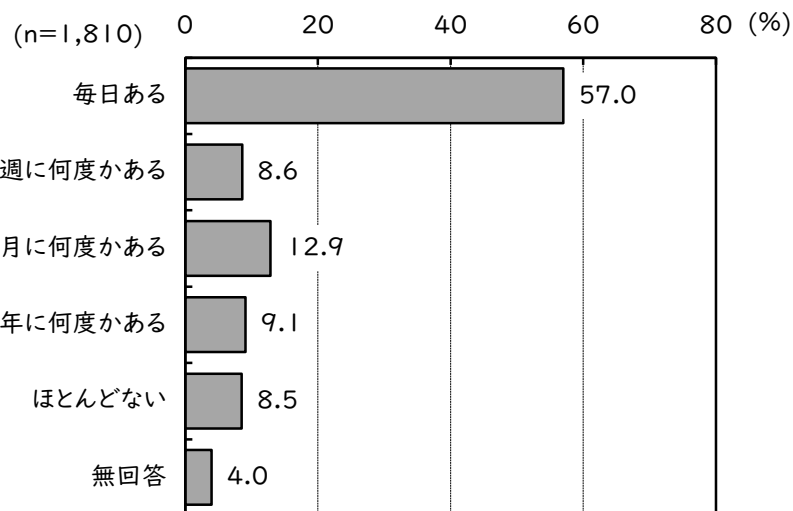
問 20 歯の数と入れ歯の利用状況をお答えください。(○は1つだけ)

「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が34.8%と最も高く、次いで、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が33.9%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が15.1%となっています。



問 21 どなたかと食事をともしる機会がありますか。(○は1つだけ)

「毎日ある」が57.0%と最も高く、次いで、「月に何度かある」が12.9%、「年に何度かある」が9.1%となっています。

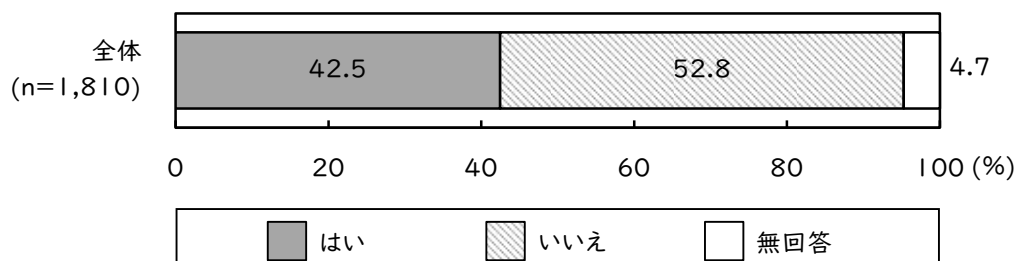




## オ. 毎日の生活について

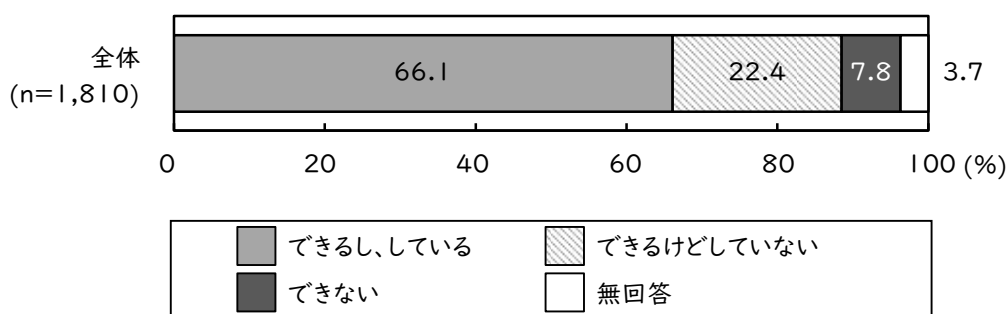
問 22 物忘れが多いと感じますか。(○は1つだけ)

「はい」が42.5%、「いいえ」が52.8%となっています。



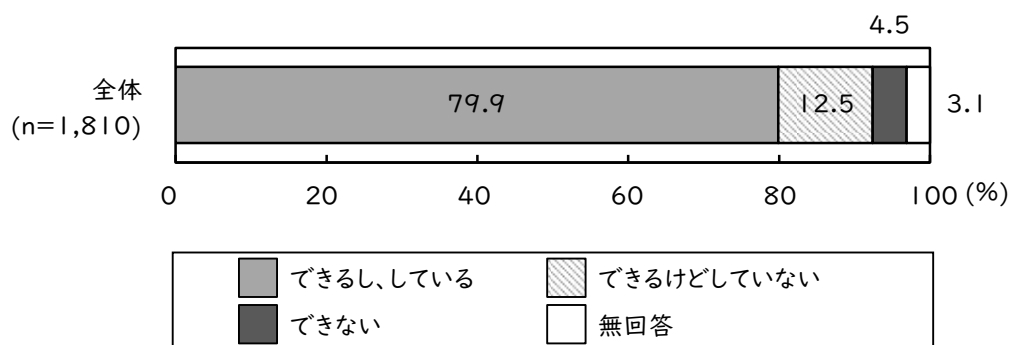
問 23 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可) (○は1つだけ)

「できるし、している」が66.1%、「できるけどしていない」が22.4%、「できない」が7.8%となっています。



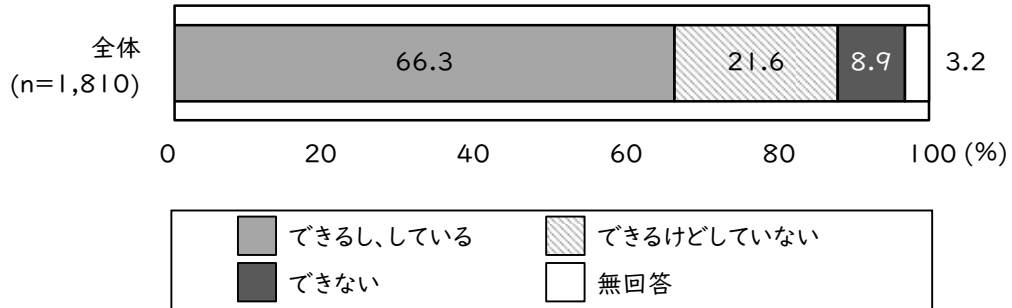
問 24 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(○は1つだけ)

「できるし、している」が79.9%、「できるけどしていない」が12.5%、「できない」が4.5%となっています。



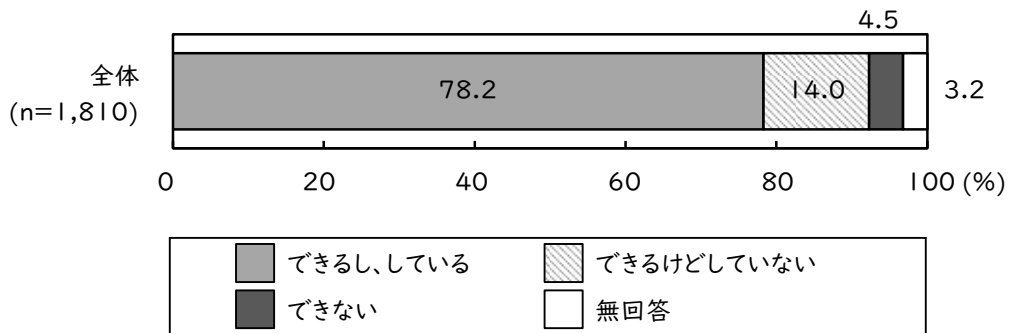
問 25 自分で食事の用意をしていますか。(○は1つだけ)

「できるし、している」が 66.3%、「できるけどしていない」が 21.6%、「できない」が 8.9%となっています。



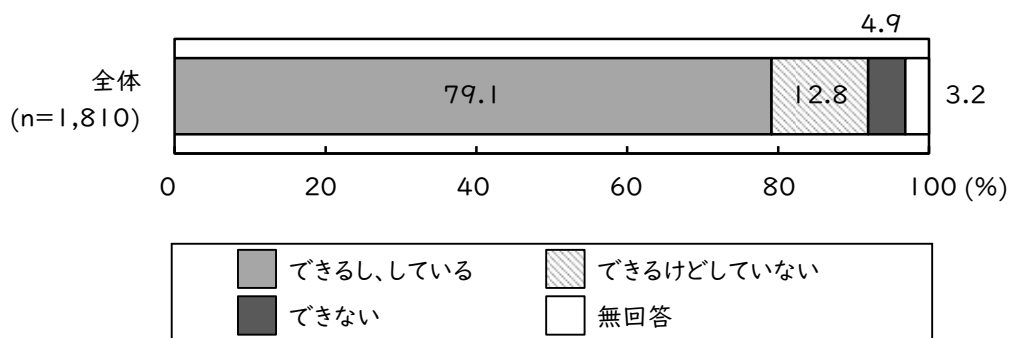
問 26 自分で請求書の支払いをしていますか。(○は1つだけ)

「できるし、している」が 78.2%、「できるけどしていない」が 14.0%、「できない」が 4.5%となっています。



問 27 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○は1つだけ)

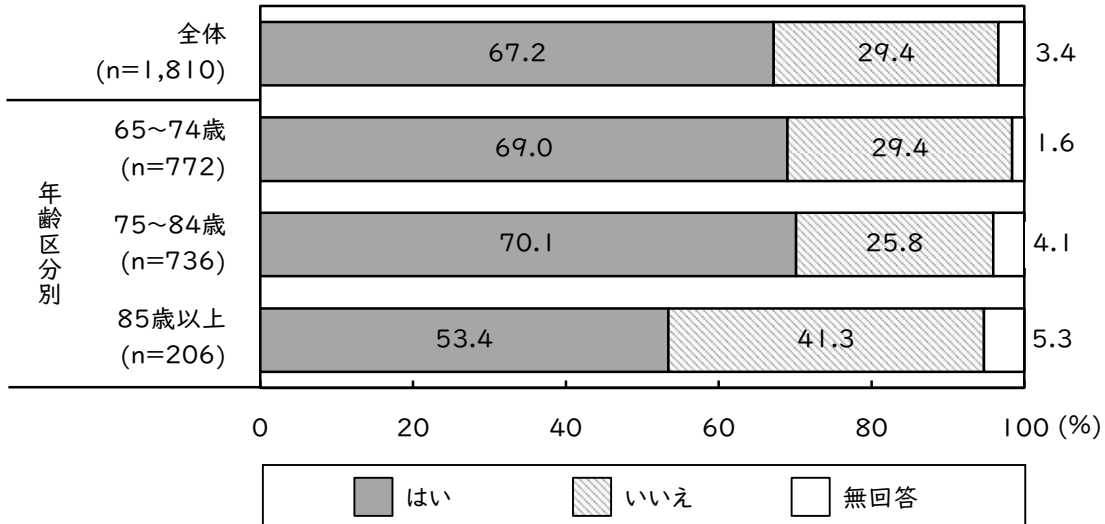
「できるし、している」が 79.1%、「できるけどしていない」が 12.8%、「できない」が 4.9%となっています。



問 28 若い人に自分から話しかけることがありますか。(○は1つだけ)

《全体》では、「はい」が67.2%、「いいえ」が29.4%となっています。

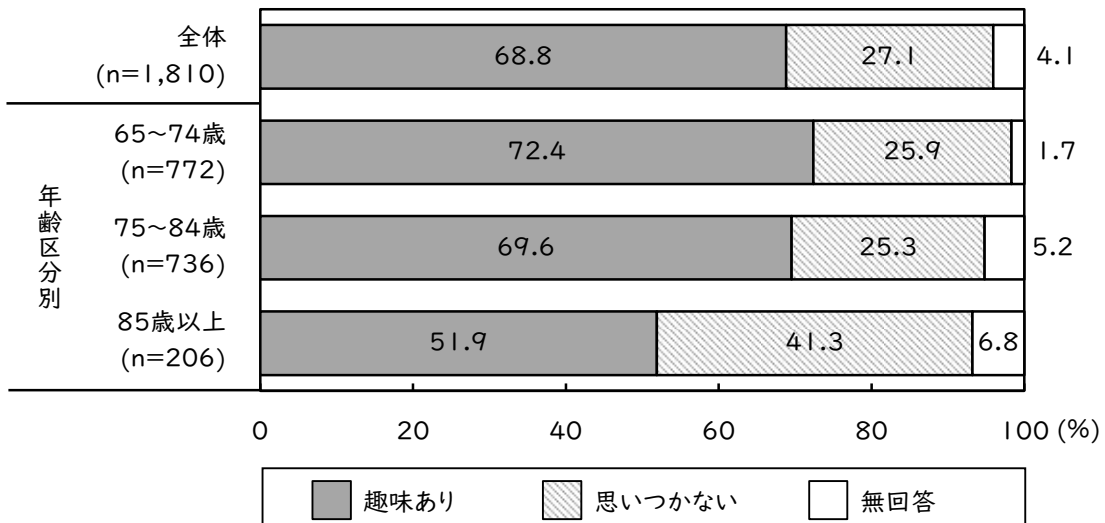
年齢区分別でみると、「はい」の割合は、《65～74歳》では69.0%、《75～84歳》では70.1%、《85歳以上》では53.4%と、《75～84歳》から《85歳以上》にかけて大きく減少しています。



問 29 趣味はありますか。(○は1つだけ)

「趣味あり」が68.8%、「思いつかない」が27.1%となっています。

年齢区分別でみると、「趣味あり」の割合は年齢区分が上がるほど低くなり、《65～74歳》では72.4%、《75～84歳》では69.6%、《85歳以上》では51.9%と、《75～84歳》から《85歳以上》にかけての減少が大きくなっています。



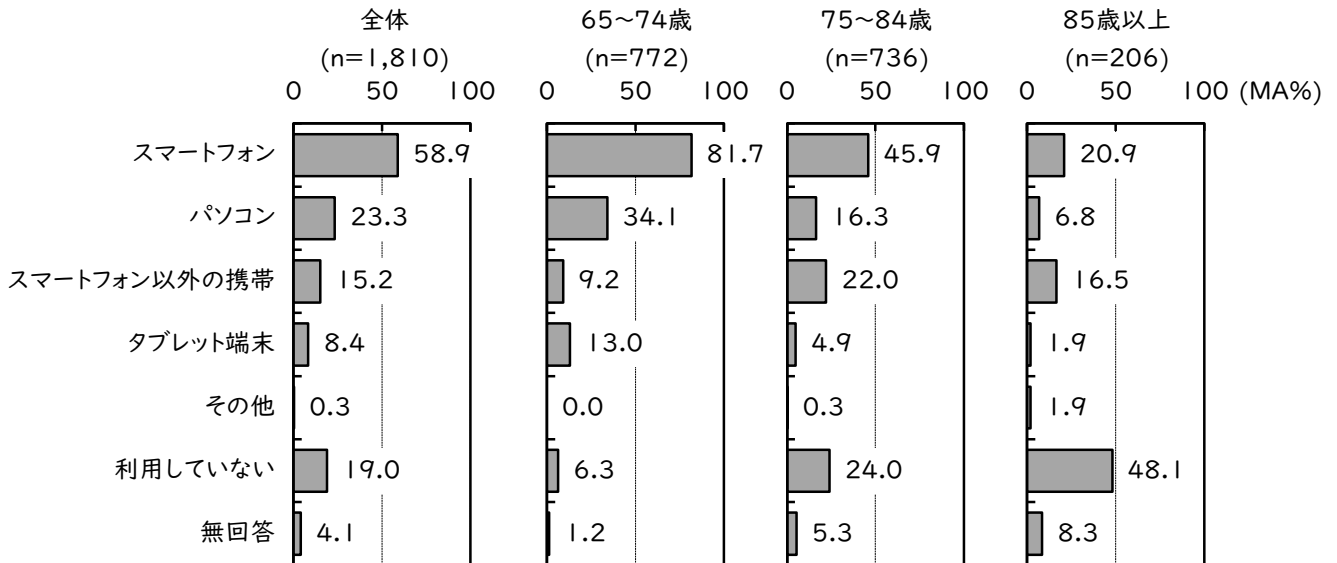
問 30 ふだん、どのような ICT 機器（情報通信機器）を利用していますか。（○はいくつでも）

《全体》では、「スマートフォン」が58.9%と最も高く、次いで、「パソコン」が23.3%、「スマートフォン以外の携帯」が15.2%となっています。

年齢区分別でみると、《65～74 歳》、《75～84 歳》では「スマートフォン」が最も高く（65～74 歳：81.7%、75～84 歳：45.9%）、《85 歳以上》では「利用していない」が最も高くなっています（48.1%）。

「スマートフォン」、「パソコン」、「タブレット端末」については、年齢区分が上がるほど割合が低くなっています。

【年齢区分別】



〈ICT 機器を利用している方のみ（問 30 で「利用していない」以外の方）〉

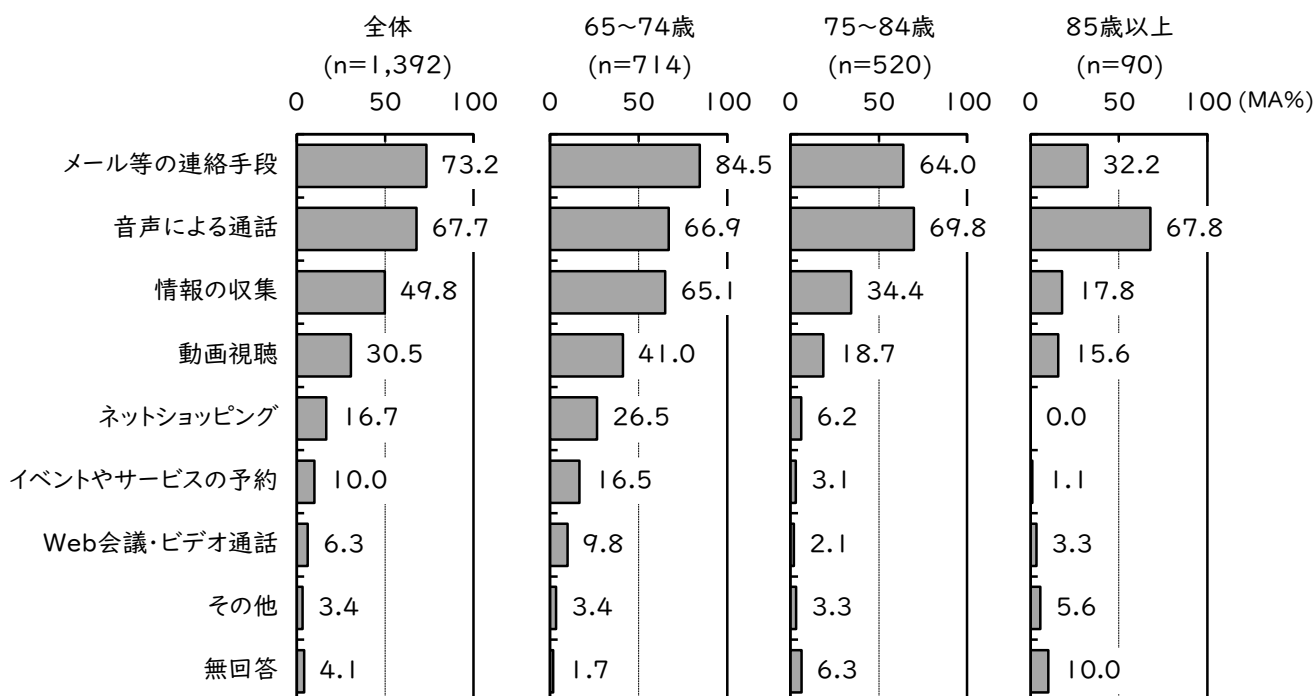
問 31 どのような用途で ICT 機器を利用していますか。（○はいくつでも）

《全体》では、「メール等の連絡手段」が 73.2%と最も高く、次いで、「音声による通話」が 67.7%、「情報の収集」が 49.8%となっています。

年齢区分別でみると、どの区分も「メール等の連絡手段」（65～74 歳：84.5%、75～84 歳：64.0%、85 歳以上：32.2%）、「音声による通話」（65～74 歳：66.9%、75～84 歳：69.8%、85 歳以上：67.8%）、「情報の収集」（65～74 歳：65.1%、75～84 歳：34.4%、85 歳以上：17.8%）が上位 3 位となっていますが、《65～74 歳》では「メール等の連絡手段」が最も高く、《75～84 歳》、《85 歳以上》では「音声による通話」が最も高くなっています。

「音声による通話」以外については、おおむね年齢区分が上がるほど割合が低くなる傾向にあります。

#### 【年齢区分別】

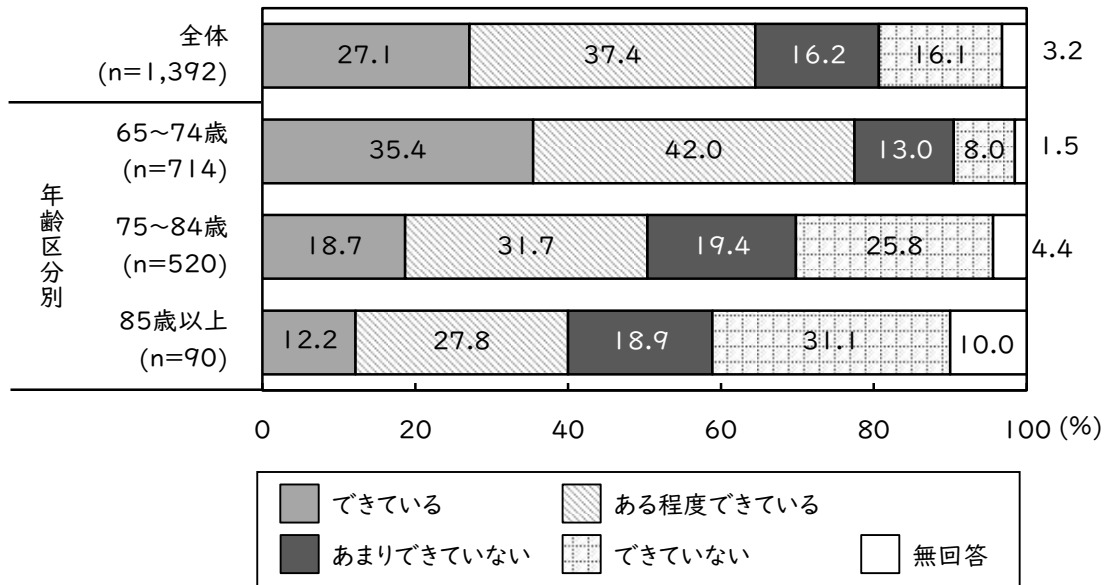


〈ICT 機器を利用している方のみ（問 30 で「利用していない」以外の方）〉

問 32 ICT 機器を活用して必要な情報を得ることができますか。（○は 1 つだけ）

《全体》では、「ある程度できている」が 37.4%と最も高く、次いで、「できている」が 27.1%、「あまりできていない」が 16.2%となっています。『できている』（「できている」+「ある程度できている」）は 64.5%、『できていない』（「できていない」+「あまりできていない」）は 32.3%となっています。

年齢区分別でみると、『できている』の割合は年齢区分が上がるほど低くなり、《65～74 歳》では 77.4%、《75～84 歳》では 50.4%、《85 歳以上》では 40.0%と、減少幅も大きくなっています。



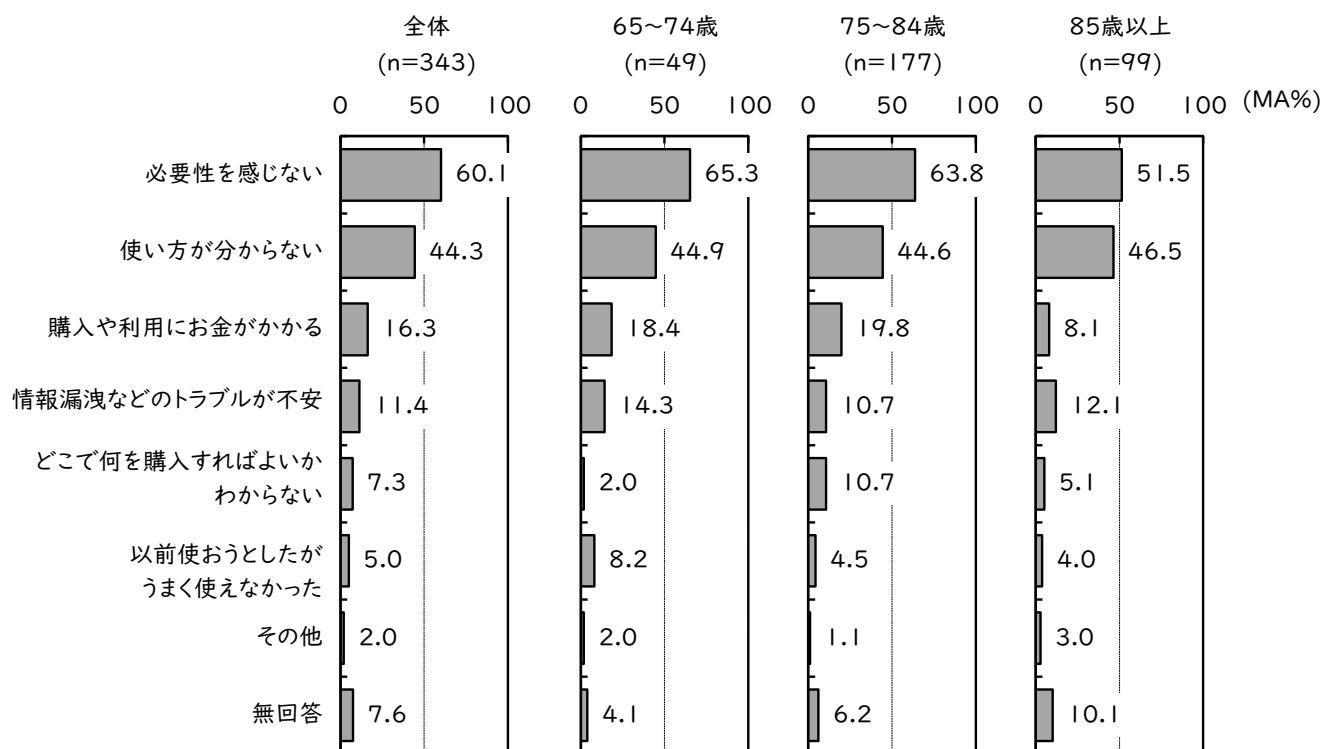
〈ICT 機器を利用していない方のみ（問 30 で「利用していない」の方）〉

問 33 ICT 機器を使っていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

《全体》では、「必要性を感じない」が 60.1%と最も高く、次いで、「使い方が分からない」が 44.3%となっています。

年齢区分別でみると、どの区分も「必要性を感じない」（65～74 歳：65.3%、75～84 歳：63.8%、85 歳以上：51.5%）、「使い方が分からない」（65～74 歳：44.9%、75～84 歳：44.6%、85 歳以上：46.5%）の順で高くなっています。

【年齢区分別】



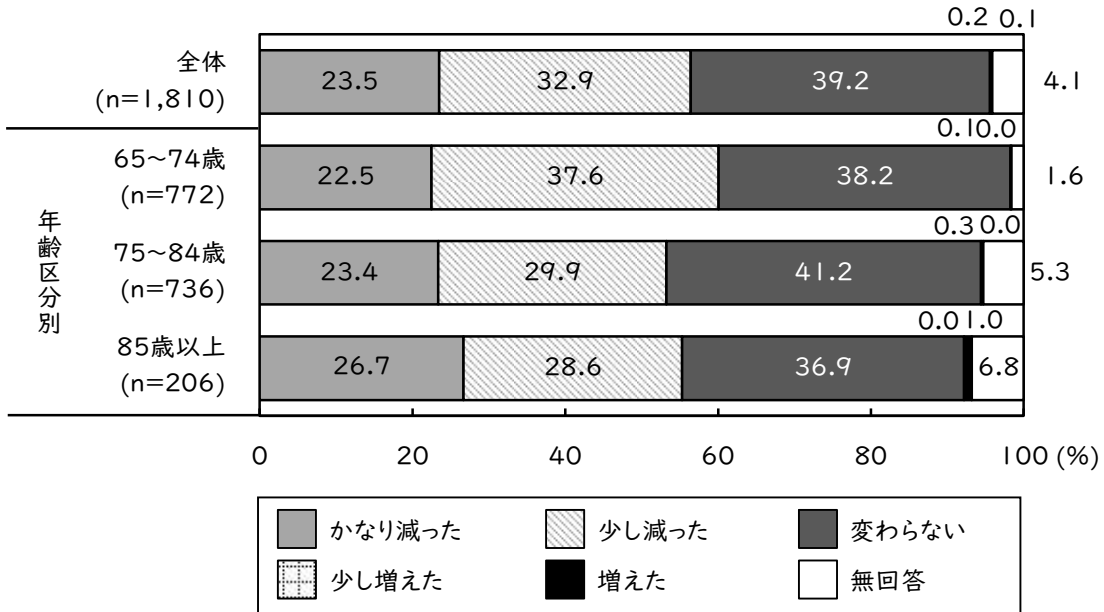
問 34 新型コロナウイルスの影響によって、人と会話する時間に変化はありましたか。

(①②について、○はそれぞれ1つだけ)

①対面での会話

《全体》では、「変わらない」が39.2%と最も高く、次いで、「少し減った」が32.9%、「かなり減った」が23.5%となっています。『減った』（「かなり減った」+「少し減った」）については56.4%となっています。

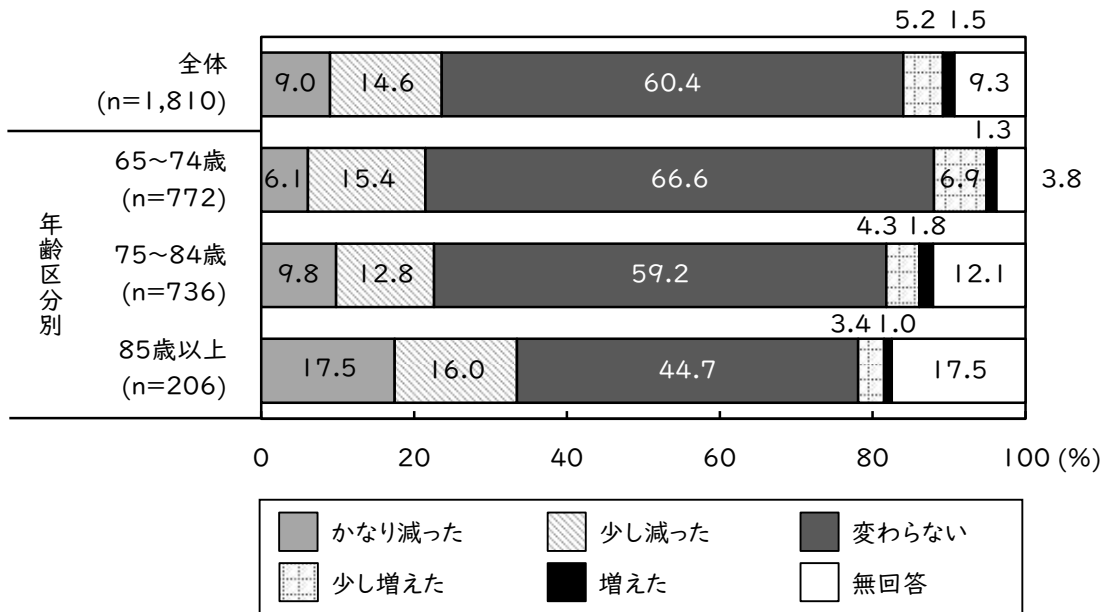
年齢区分別でみると、『減った』の割合は、《65～74歳》では60.1%、《75～84歳》では53.3%、《85歳以上》では55.3%と、《65～74歳》で最も高くなっています。



②非対面での会話（電話やメール等）

《全体》では、「変わらない」が60.4%と最も高く、次いで、「少し減った」が14.6%、「かなり減った」が9.0%となっています。『減った』（「かなり減った」+「少し減った」）については23.6%となっています。

年齢区分別でみると、『減った』の割合は年齢区分が上がるほど高くなり、《65～74歳》では21.5%、《75～84歳》では22.6%、《85歳以上》では33.5%となっています。





〈ICT 機器を利用していない方のみ（問 34①②のどちらで「かなり減った」、「減った」の方）〉

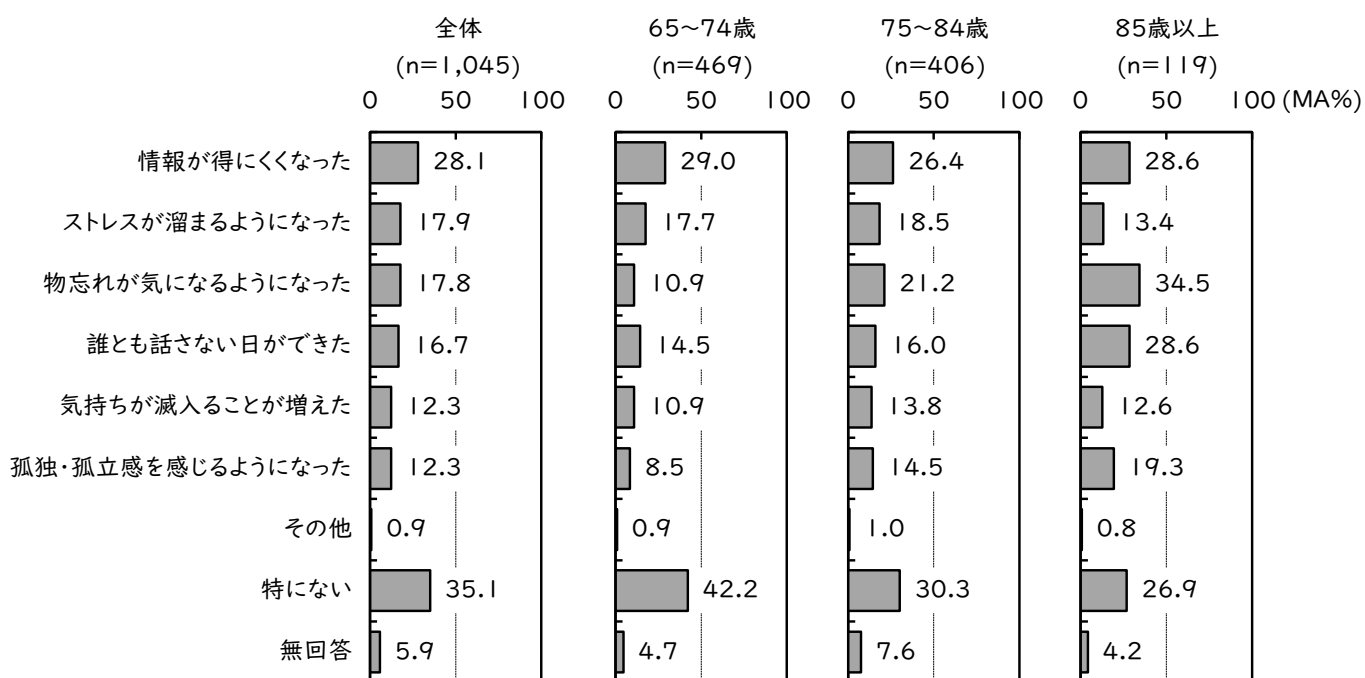
問 35 会話の時間が減ったことでどんな影響がありましたか。（○はいくつでも）

《全体》では、「特にない」が 35.1%と最も高くなっています。それ以外では、「情報が得にくくなった」が 28.1%と最も高く、次いで、「ストレスが溜まるようになった」が 17.9%、「物忘れが気になるようになった」が 17.8%となっています。

年齢区分別でみると、《65～74 歳》、《75～84 歳》では「特にない」が最も高く（65～74 歳：42.2%、75～84 歳：30.3%）、《85 歳以上》では「物忘れが気になるようになった」が最も高くなっています（34.5%）。

「物忘れが気になるようになった」、「誰とも話さない日が増えた」、「孤独・孤立感を感じるようになった」については、年齢区分が上がるほど割合が高くなっています。

【年齢区分別】



問 36 新型コロナウイルス感染拡大によって、人との会話の時間以外に変化したことはありますか。

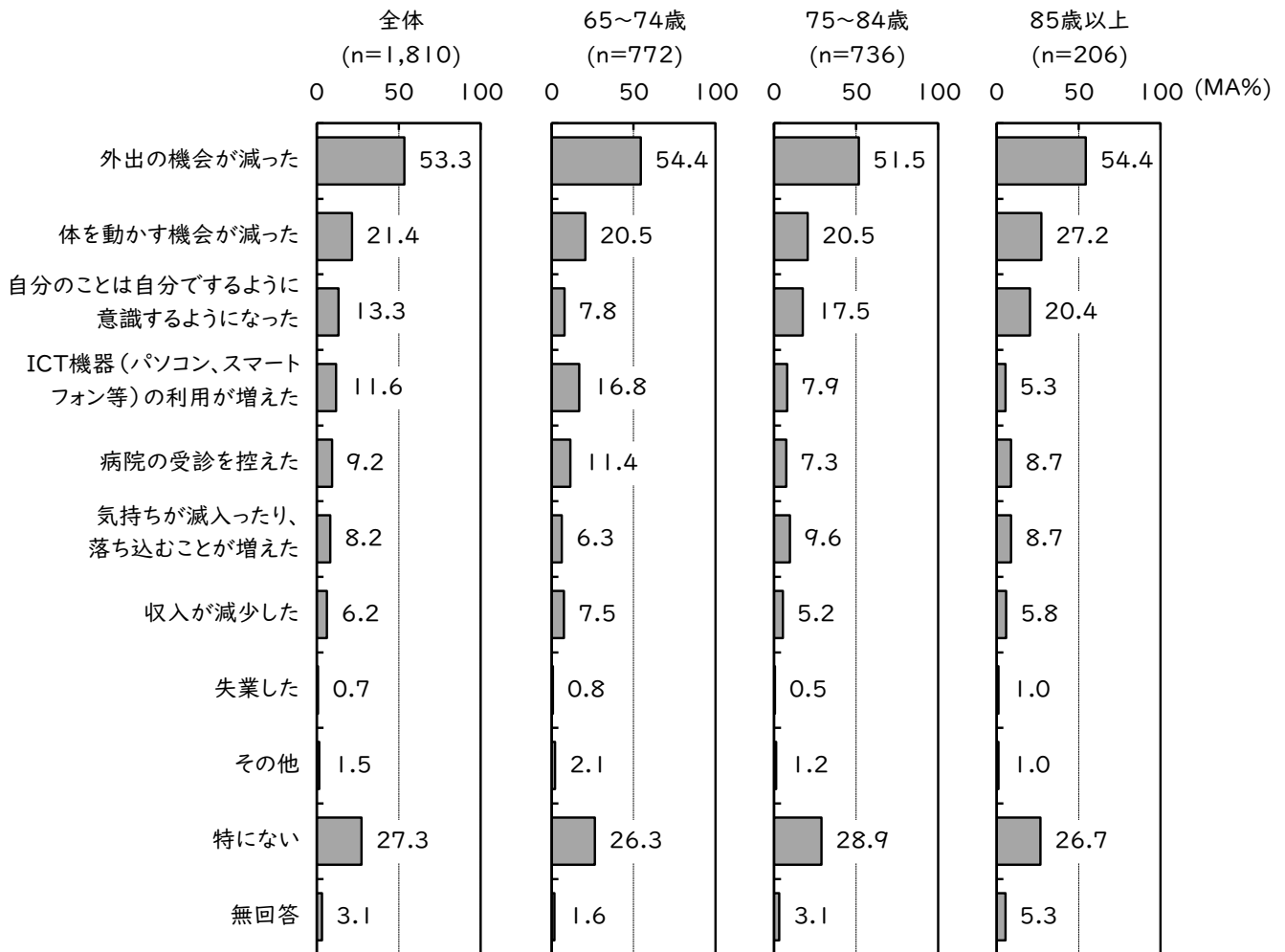
(○はい/□でも)

《全体》では、「特にない」を除くと、「外出の機会が減った」が 53.3%と最も高く、次いで、「体を動かす機会が減った」が 21.4%となっています。「特にない」については 27.3%となっています。

年齢区分別でみると、どの区分も「外出の機会が減った」(65～74 歳：54.4%、75～84 歳：51.5%、85 歳以上：54.4%)、「体を動かす機会が減った」(65～74 歳：20.5%、75～84 歳：20.5%、85 歳以上：27.2%)、「特にない」(65～74 歳：26.3%、75～84 歳：28.9%、85 歳以上：26.7%) が上位 3 位となっており、「外出の機会が減った」が最も高くなっています。

《全体》の上位 3 位のうち、「体を動かす機会が減った」、「自分のことは自分でするように意識するようになった」については、年齢区分が上がるほど割合が高くなっています。

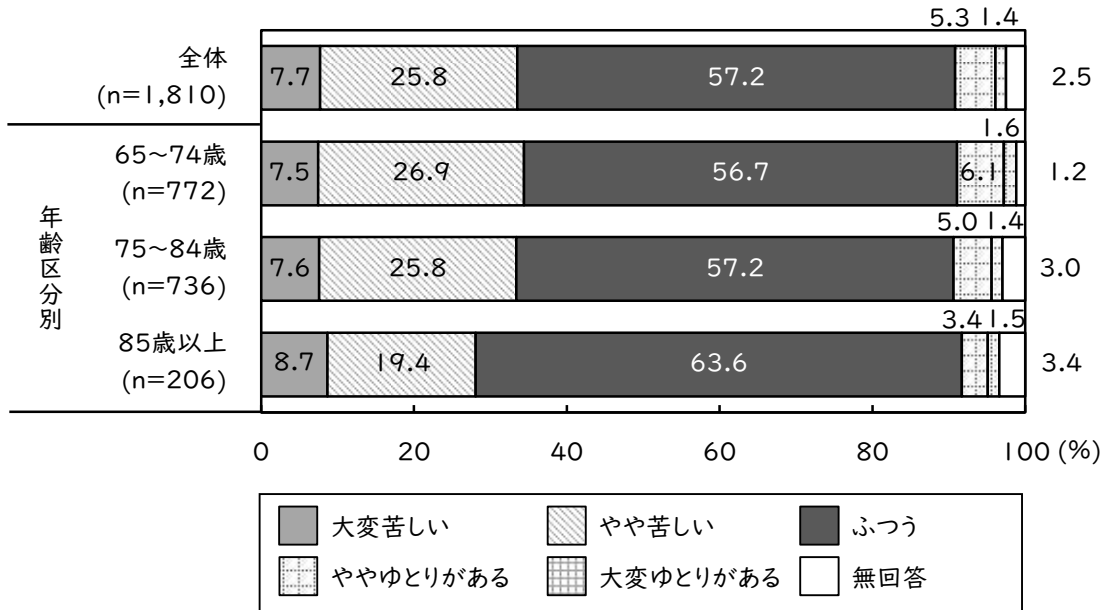
【年齢区分別】



問 37 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つだけ)

《全体》では、「ふつう」が 57.2%と最も高く、次いで、「やや苦しい」が 25.8%となっています。『苦しい』（「大変苦しい」+「やや苦しい」）は 33.5%、『ゆとりがある』（「大変ゆとりがある」+「ややゆとりがある」）は 6.7%となっています。

年齢区分別でみると、『苦しい』の割合は年齢区分が上がるほど低くなり、《65～74 歳》では 34.4%、《75～84 歳》では 33.4%、《85 歳以上》では 28.1%となっています。

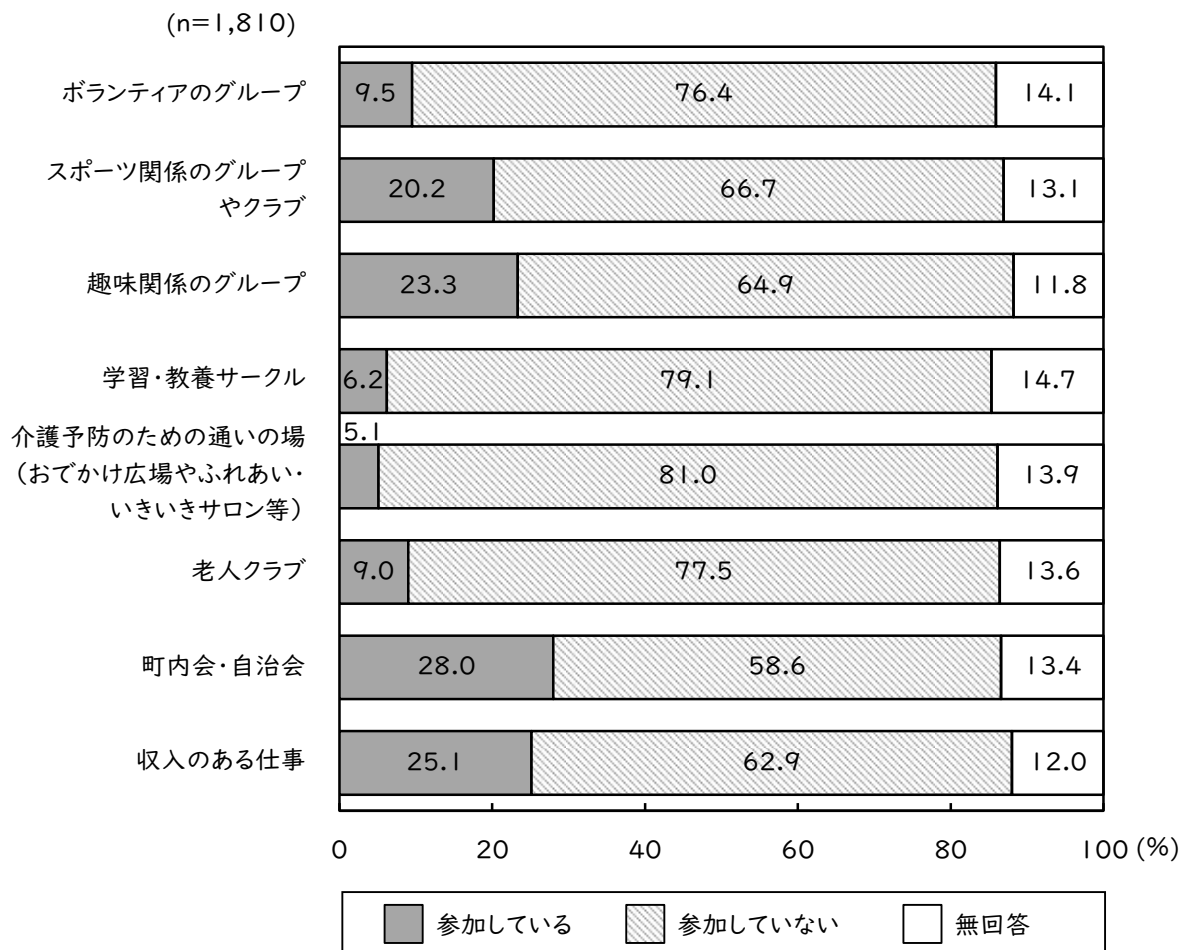


## カ. 地域活動や就労について

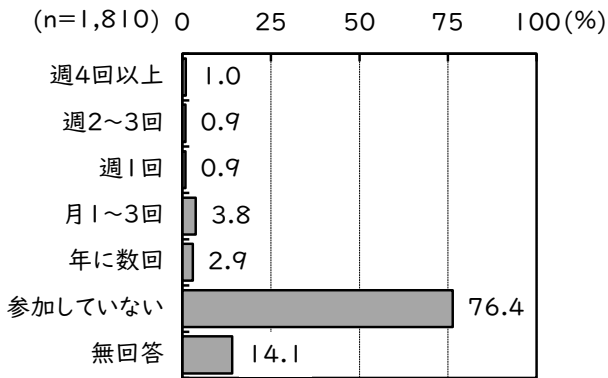
問 38 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(○は1つだけ)

参加の有無でみると、どの活動においても「参加していない」の割合が高くなっています。特に《学習・教養サークル》、《介護予防のための通いの場（おでかけ広場やふれあい・いきいきサロン等）》での「参加していない」の割合が約8割と高くなっています（順に79.1%、81.0%）。

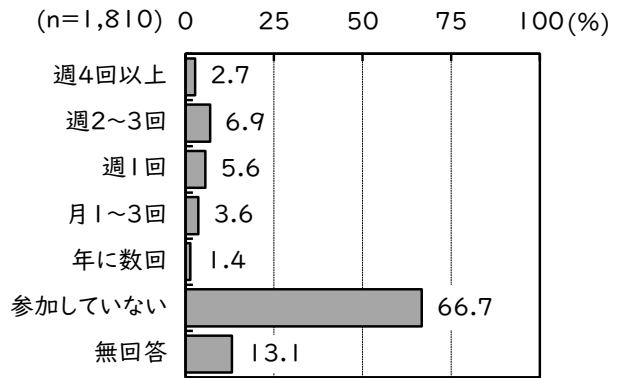
「参加している」の割合が最も高いのは《町内会・自治会》で、28.0%となっています。



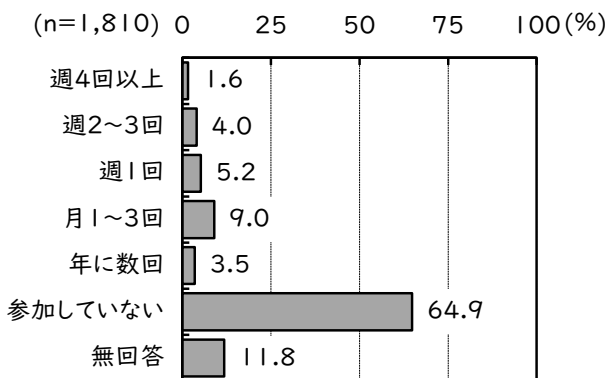
■ ボランティアのグループ



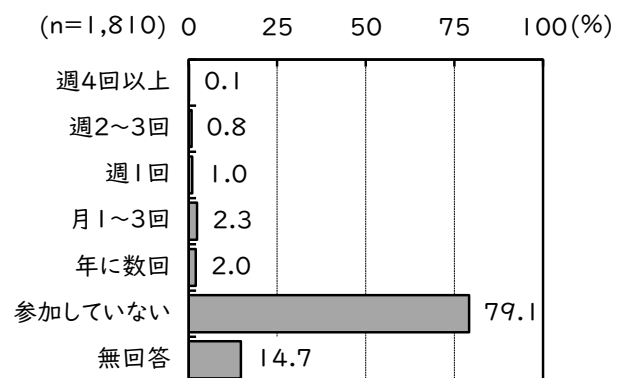
■ スポーツ関係のグループやクラブ



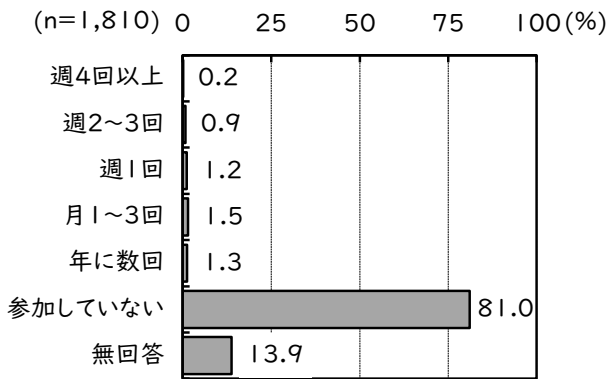
■ 趣味関係のグループ



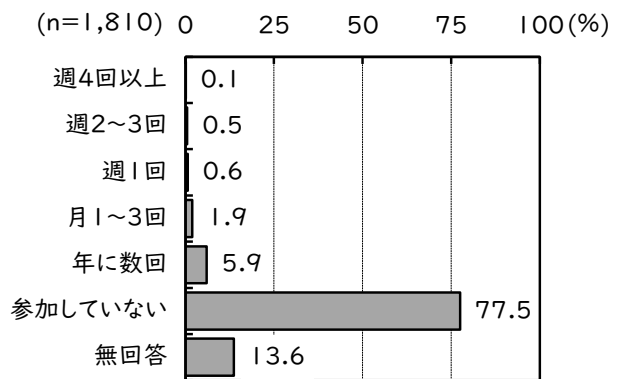
■ 学習・教養サークル



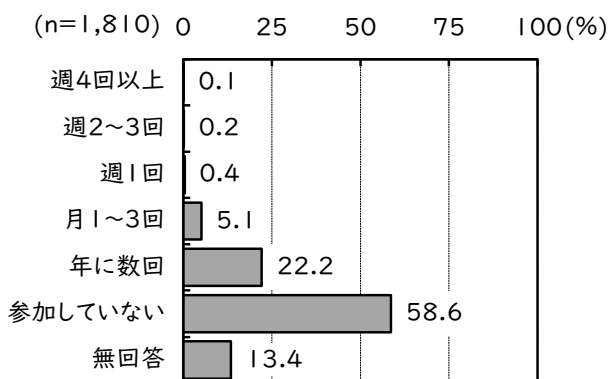
■ 介護予防のための通いの場



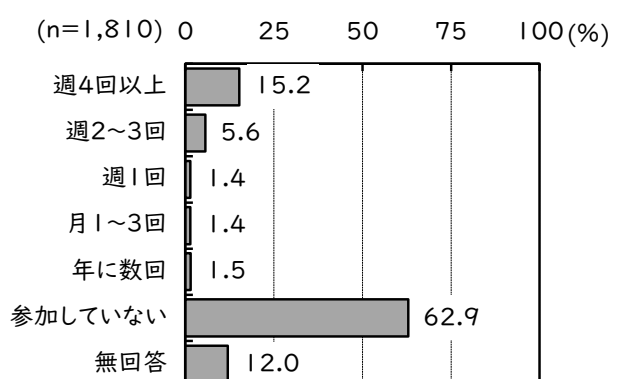
■ 老人クラブ



■ 町内会・自治会



■ 収入のある仕事

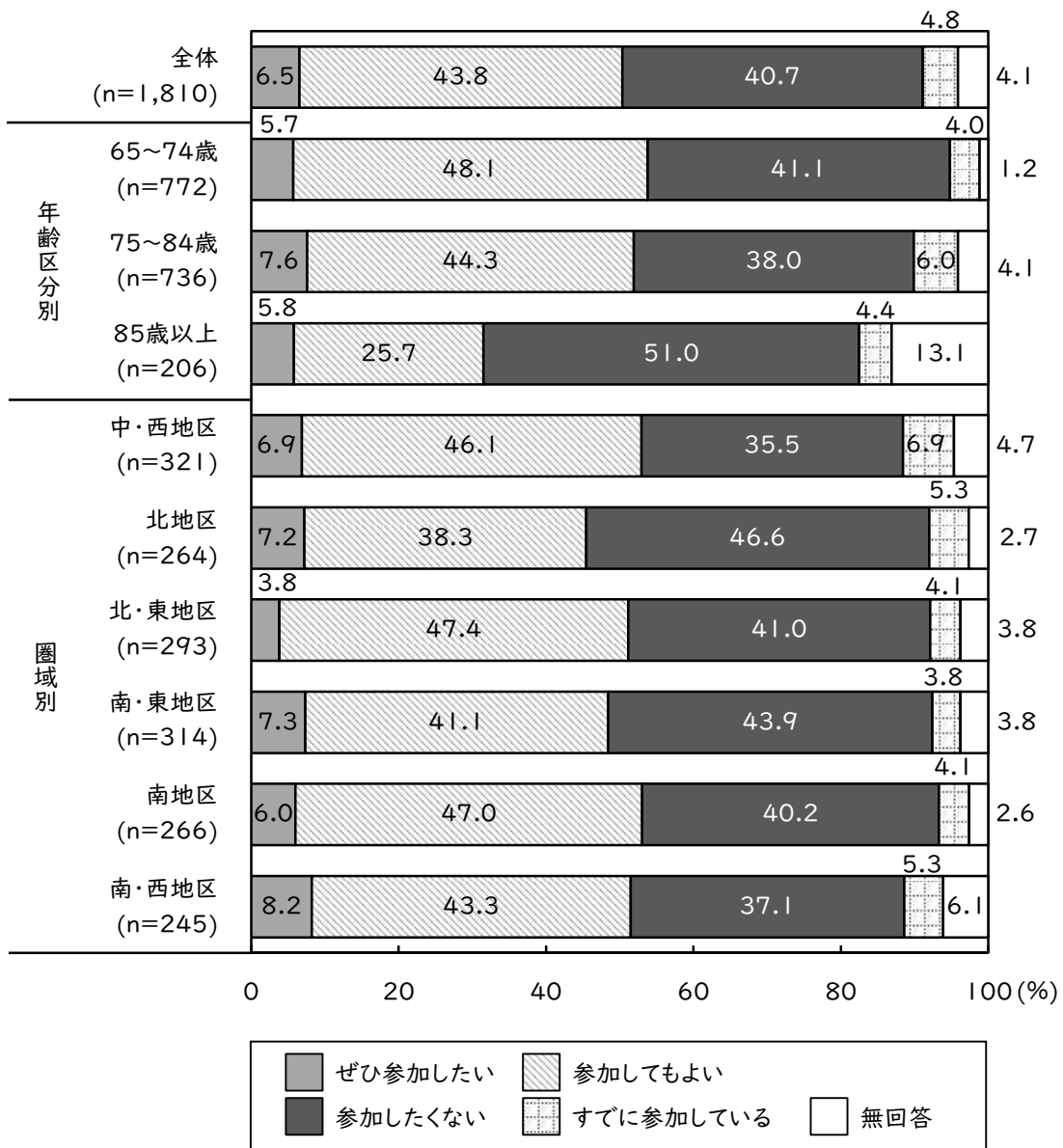


問 39 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(○は1つだけ)

《全体》でみると、「参加してもよい」が 43.8%と最も高く、次いで、「参加したくない」が 40.7%となっています。『参加の意向がある』（「ぜひ参加したい」+「参加してもよい」）については 50.3%となっています。

年齢区分別でみると、『参加の意向がある』の割合は年齢区分が上がるほど低くなり、《65～74 歳》では 53.8%、《75～84 歳》では 51.9%、《85 歳以上》では 31.5%となっています。

圏域別でみると、『参加の意向がある』の割合は、《中・西地区》、《北・東地区》、《南地区》、《南・西地区》で高く、5割を超えています（中・西地区：53.0%、北地区：45.5%、北・東地区：51.2%、南・東地区：48.4%、南地区：53.0%、南・西地区：51.5%）。

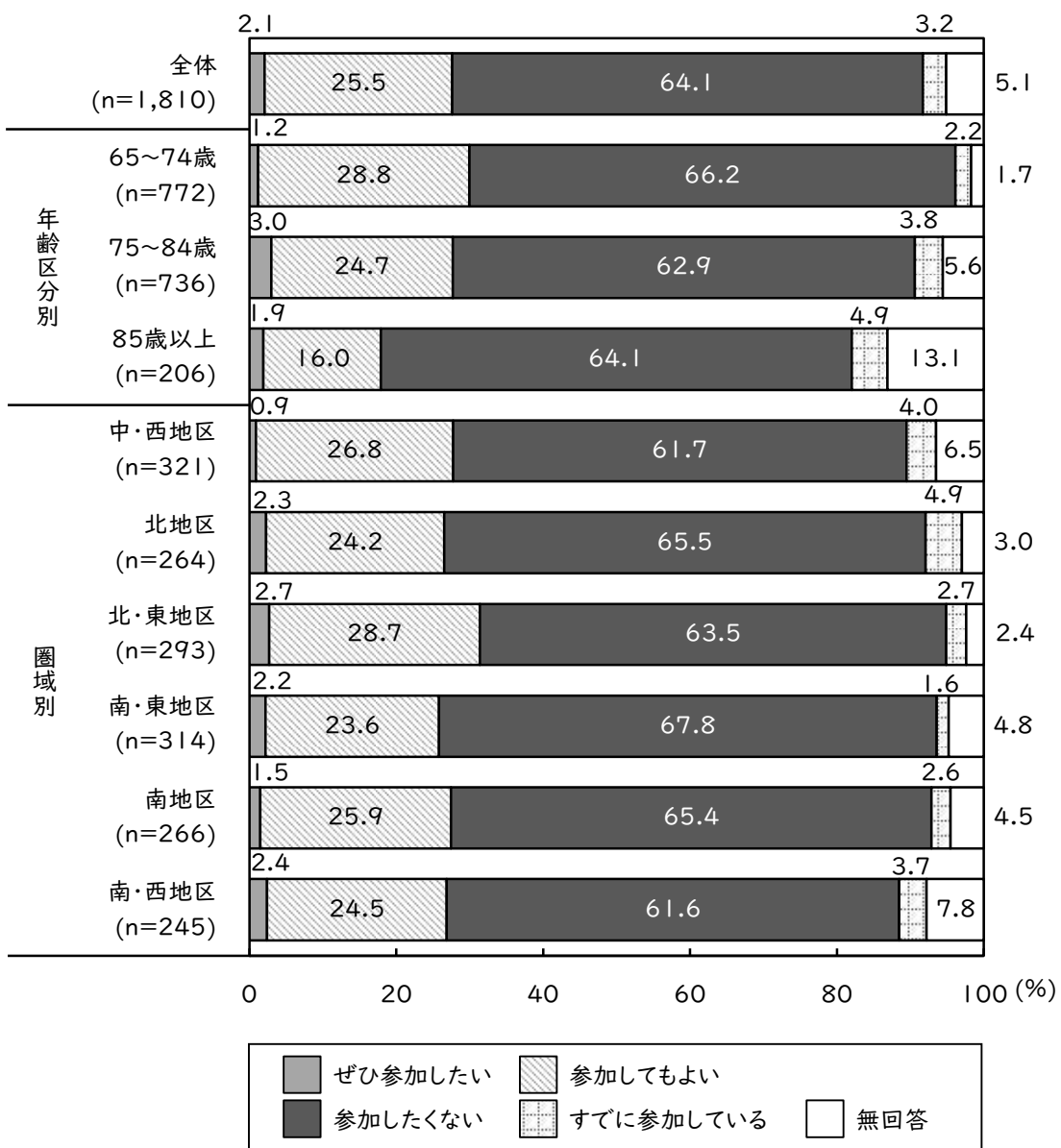


問 40 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（○は1つだけ）

《全体》でみると、「参加したくない」が 64.1%と最も高く、次いで、「参加してもよい」が 25.5%となっています。『参加の意向がある』（「ぜひ参加したい」+「参加してもよい」）については 27.6%となっています。

年齢区分別でみると、『参加の意向がある』の割合は年齢区分が上がるほど低くなり、《65～74 歳》では 30.0%、《75～84 歳》では 27.7%、《85 歳以上》では 17.9%となっています。

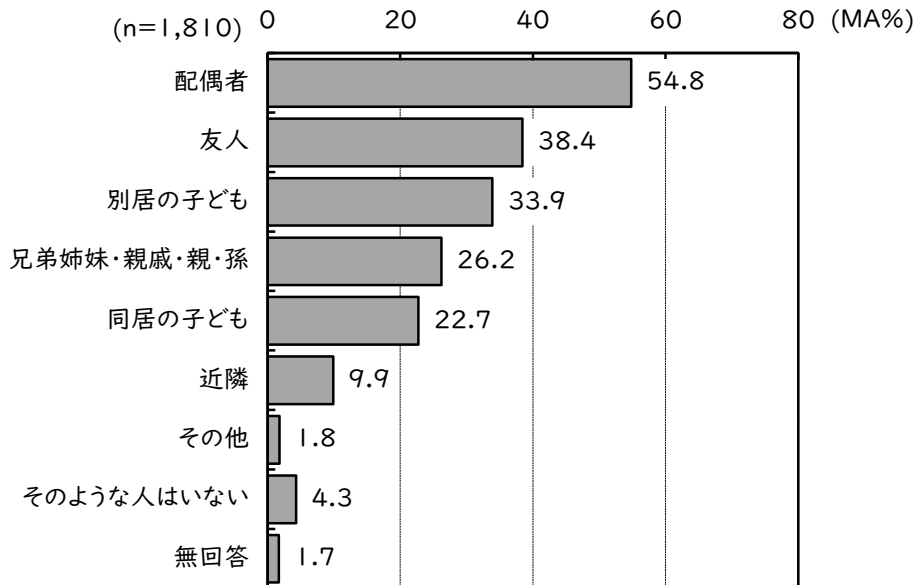
圏域別でみると、『参加の意向がある』の割合はほとんどの地区で 2 割台となっていますが、《北・東地区》では 3 割を超え、割合が最も高くなっています（中・西地区：27.7%、北地区：26.5%、北・東地区：31.4%、南・東地区：25.8%、南地区：27.4%、南・西地区：26.9%）。



## キ. たすけあい・支えあいについて

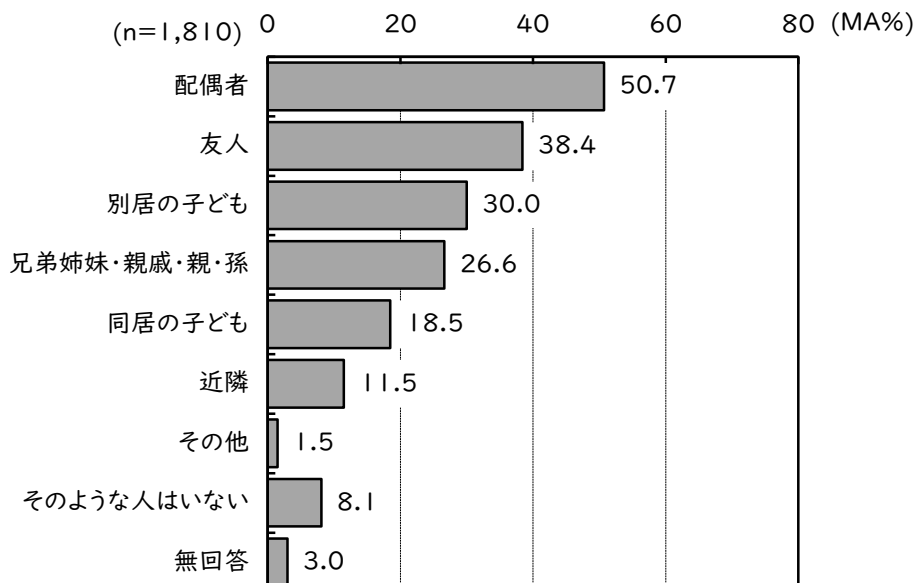
問 41 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいますか。（○はいくつでも）

「配偶者」が 54.8%と最も高く、次いで、「友人」が 38.4%、「別居の子ども」が 33.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 26.2%、「同居の子ども」が 22.7%となっています。



問 42 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいますか。（○はいくつでも）

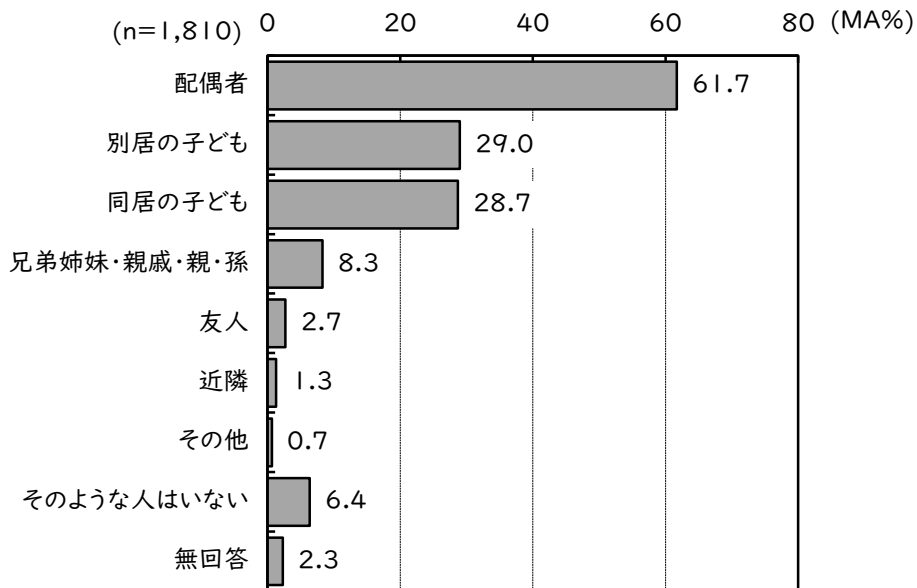
「配偶者」が 50.7%と最も高く、次いで、「友人」が 38.4%、「別居の子ども」が 30.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 26.6%、「同居の子ども」が 18.5%となっています。





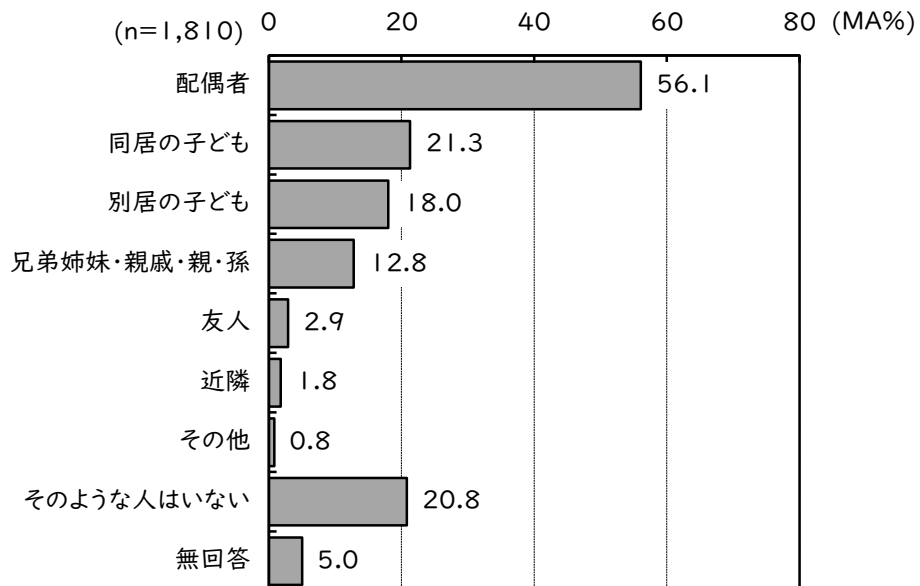
問 43 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか。(○はい/△はいいえ/×はどちらでもない)

「配偶者」が61.7%と最も高く、次いで、「別居の子ども」が29.0%、「同居の子ども」が28.7%となっています。



問 44 反対に、看病や世話をしあげる人はいますか。(○はい/△はいいえ/×はどちらでもない)

「配偶者」が56.1%と最も高く、次いで、「同居の子ども」が21.3%、「そのような人はいない」が20.8%となっています。

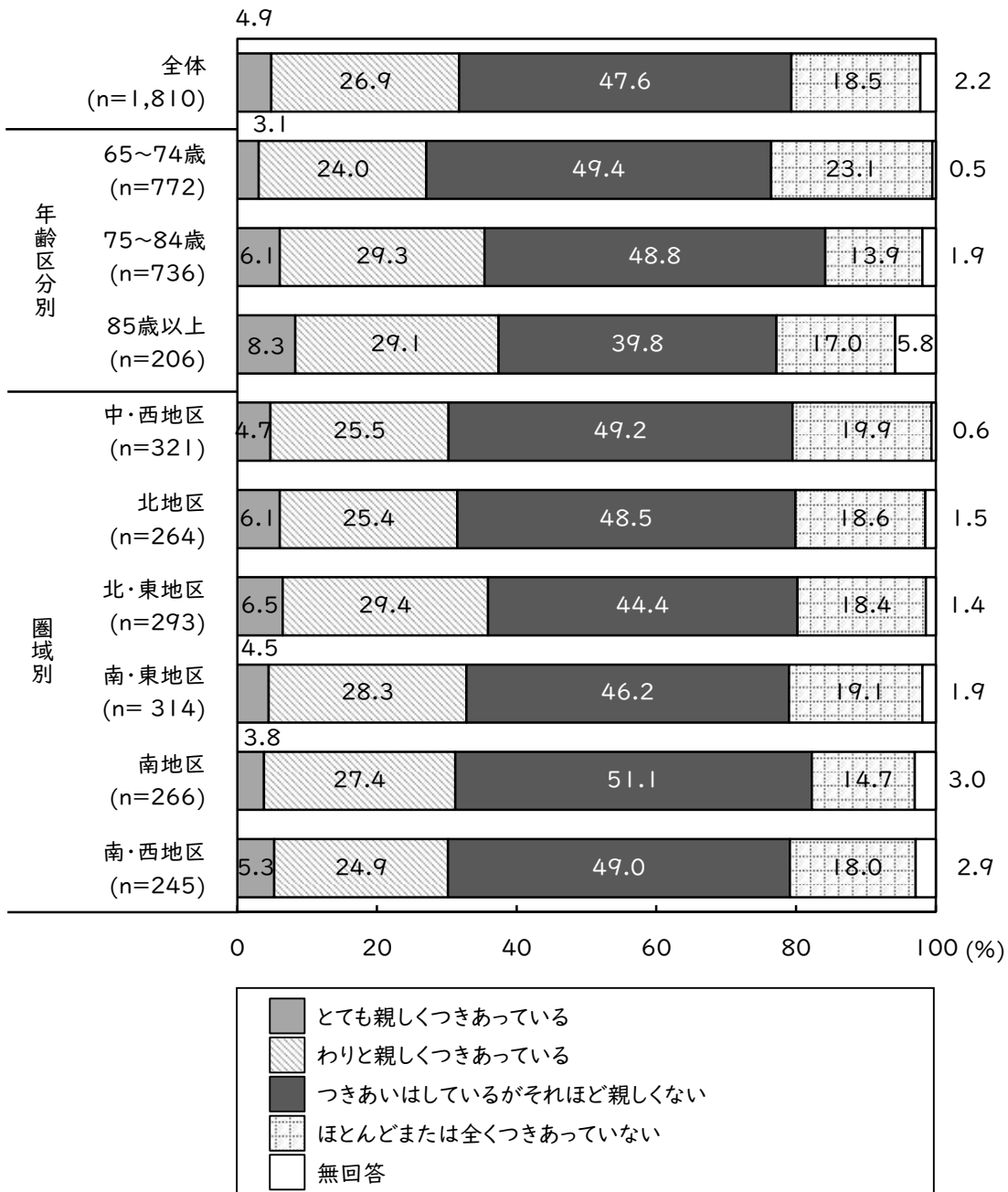


問 45 近所のつきあいをどの程度していますか。(○は1つだけ)

《全体》では、「つきあいはしているがそれほど親しくない」が 47.6%と最も高く、次いで、「わりと親しくつきあっている」が 26.9%、「ほとんどまたは全くつきあっていない」が 18.5%となっています。『親しくつきあっている』（「とても親しくつきあっている」+「わりと親しくつきあっている」）については、31.8%となっています。

年齢区分別でみると、『親しくつきあっている』の割合は年齢区分が上がるほど高くなり、《65～74 歳》では 27.1%、《75～84 歳》では 35.4%、《85 歳以上》では 37.4%となっています。

圏域別でみると、『親しくつきあっている』の割合はどの地区も 3 割台となっていますが、《北・東地区》での割合が最も高く、35.9%となっています。



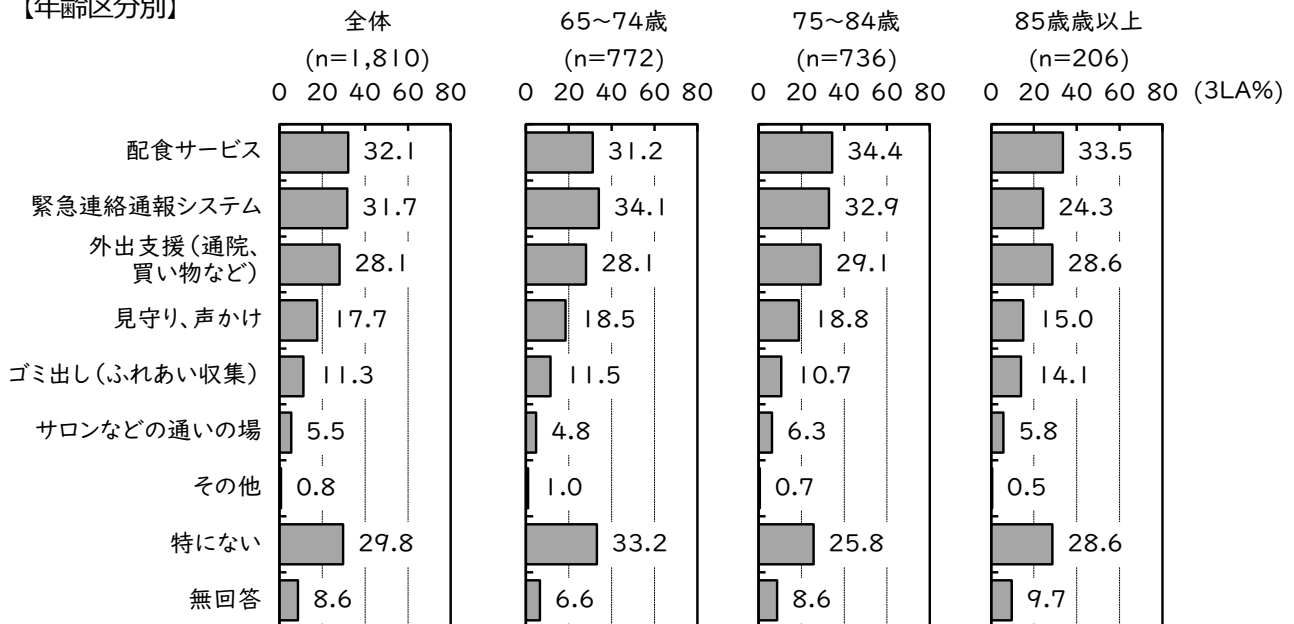
問 46 今後、自宅で生活していく上で、必要だと思う支援・サービスについてお答えください。(○は3つまで)

《全体》では、「特にない」を除くと、「配食サービス」が 32.1%と最も高く、次いで、「緊急連絡通報システム」が 31.7%、「外出支援（通院、買い物など）」が 28.1%となっています。「特にない」については 29.8%となっています。

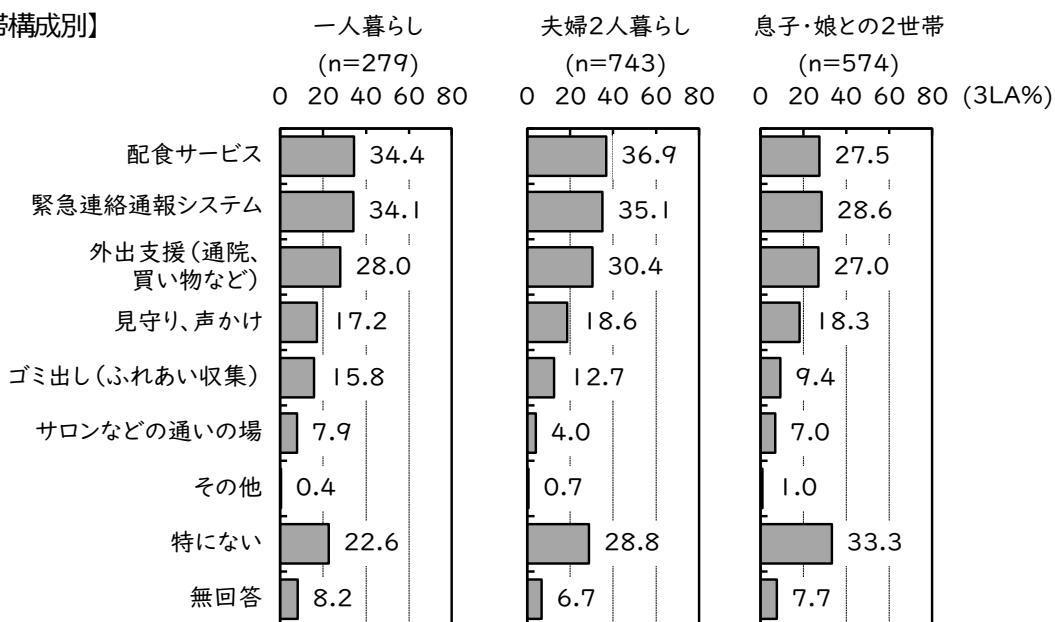
年齢区分別でみると、どの区分も「特にない」を除くと、「配食サービス」（65～74 歳：31.2%、75～84 歳：34.4%、85 歳以上：33.5%）、「緊急連絡通報システム」（65～74 歳：34.1%、75～84 歳：32.9%、85 歳以上：24.3%）、「外出支援（通院、買い物など）」（65～74 歳：28.1%、75～84 歳：29.1%、85 歳以上：28.6%）が上位となっていますが、《65～74 歳》では「緊急連絡通報システム」が最も高く、《75～84 歳》、《85 歳以上》では「配食サービス」が最も高くなっています。

世帯構成別でみると、「特にない」を除くと、《一人暮らし》、《夫婦 2 人暮らし》では「配食サービス」（順に 34.4%、36.9%）、「息子・娘との 2 世帯」では「緊急連絡通報システム」が最も高くなっています（28.6%）。

【年齢区分別】



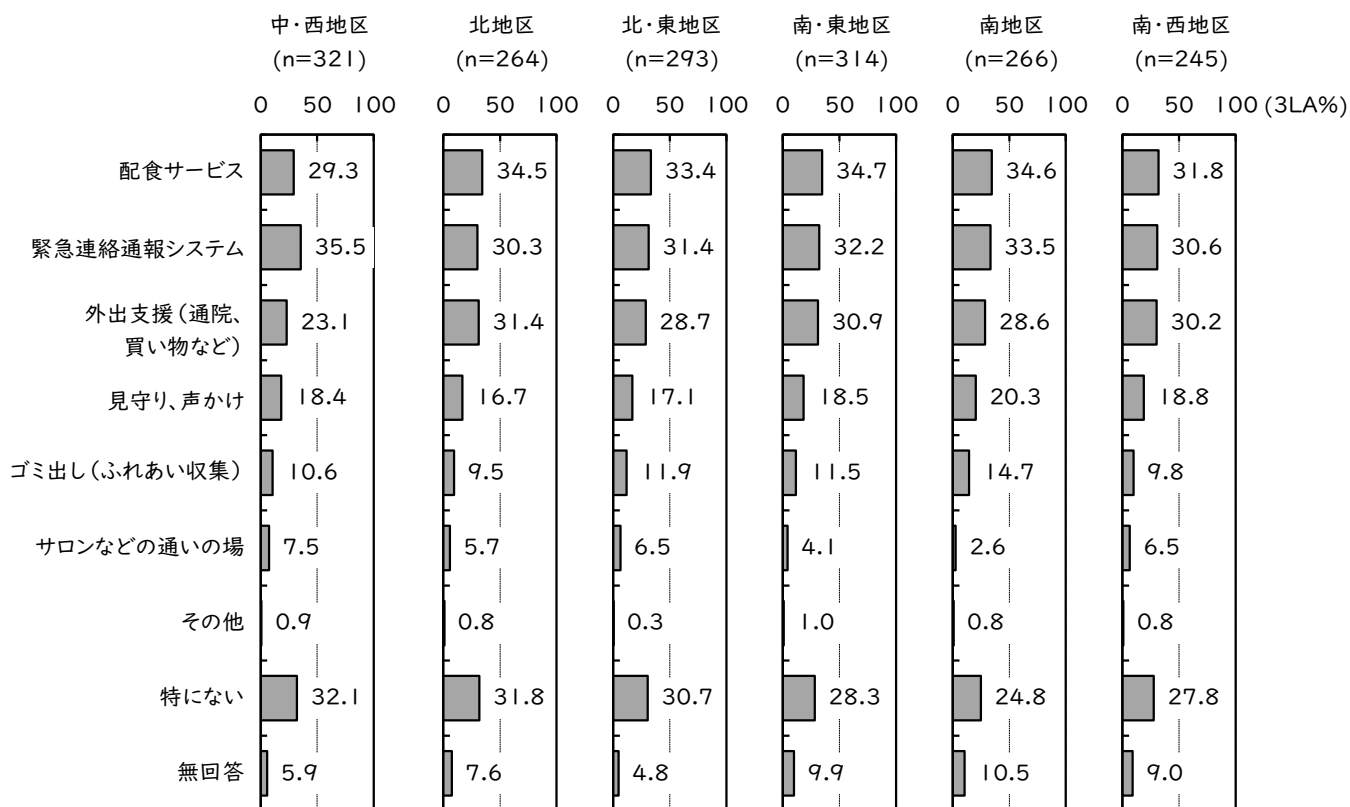
【世帯構成別】



《圏域別》でみると、どの地区も「配食サービス」、「緊急連絡通報システム」の割合が高くなっています。《中・西地区》では「緊急連絡通報システム」が最も高くなっていますが、それ以外の地区では「配食サービス」が最も高くなっています。

また、《北地区》、《南・東地区》、《南・西地区》では「外出支援（通院、買い物など）」の割合も高く、3割以上となっています。

【圏域別】



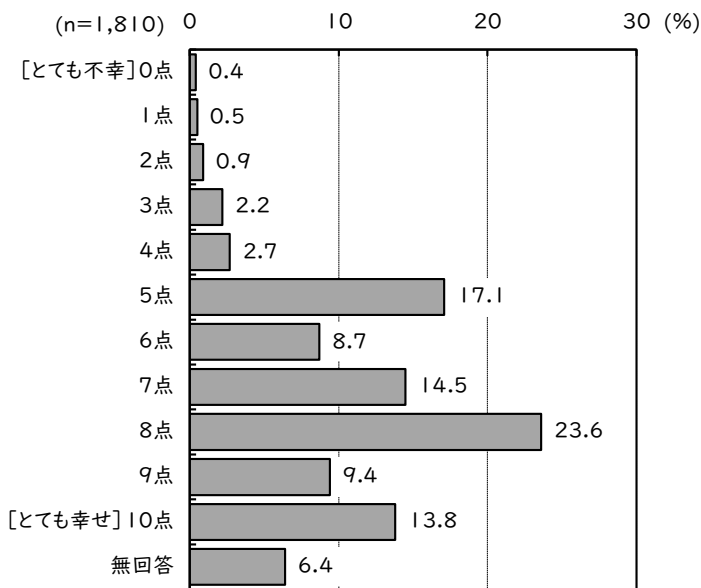
## ク. 心身の健康について

問 47 現在、どの程度幸せだと感じていますか。(○は1つだけ)

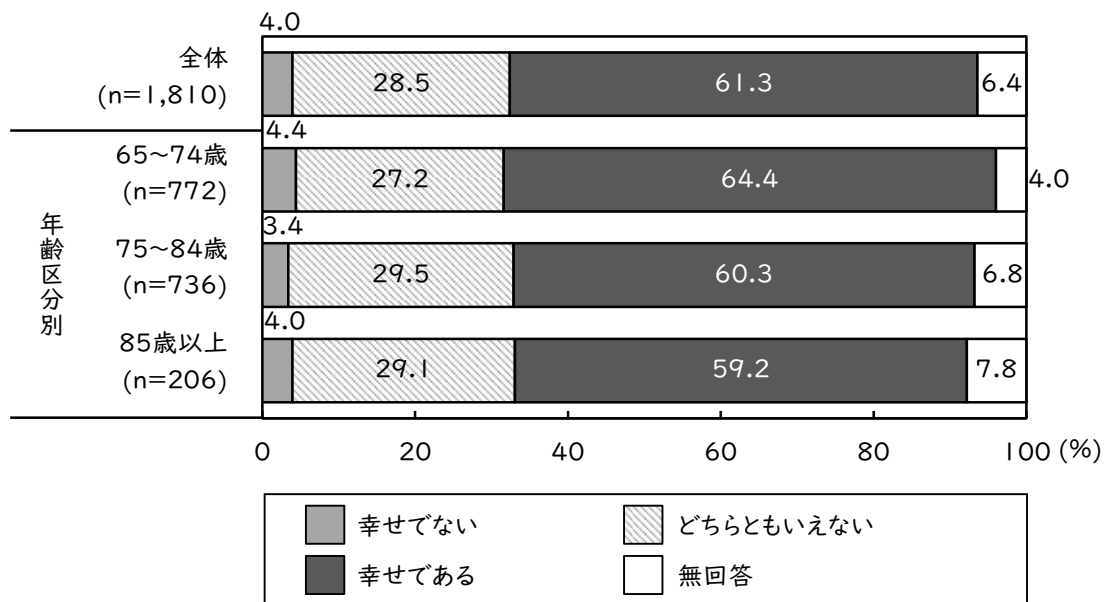
「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください。

「8点」が23.6%と最も高くなっています。《全体》の平均点は7.15点となっています。

年齢区分別に平均点をみると、どの区分も7点以上となっていますが、《80～84歳》、《85歳以上》での割合が高くなっています(順に7.33点、7.28点)。一方で、「幸せである」の割合は年齢区分が上がるほど低くなり、《65～74歳》では64.4%、《75～84歳》では60.3%、《85歳以上》では59.2%となっています。



年齢区分	平均点
65～69歳 (n=419)	7.13
70～74歳 (n=322)	7.05
75～79歳 (n=350)	7.10
80～84歳 (n=336)	7.33
85歳以上 (n=190)	7.28
全体 (n=1,695)	7.15



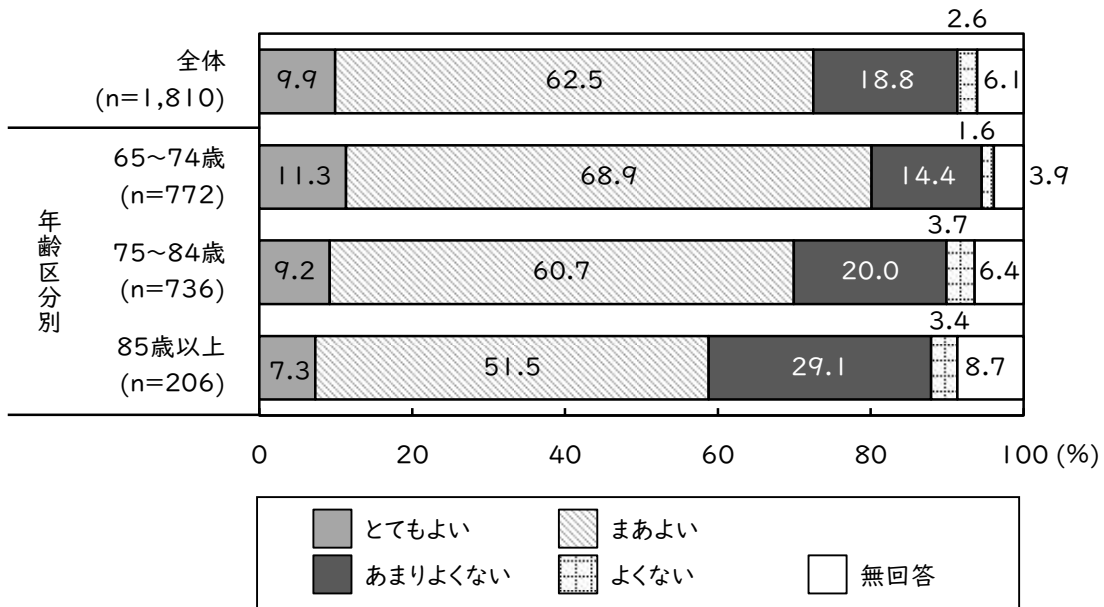
※『幸せでない』は0～3点、『どちらともいえない』は4～6点、『幸せである』は7～10点を合算した値。

割合は実数から計算しているため、各点数の割合の合計とは一致しない。

問 48 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つだけ)

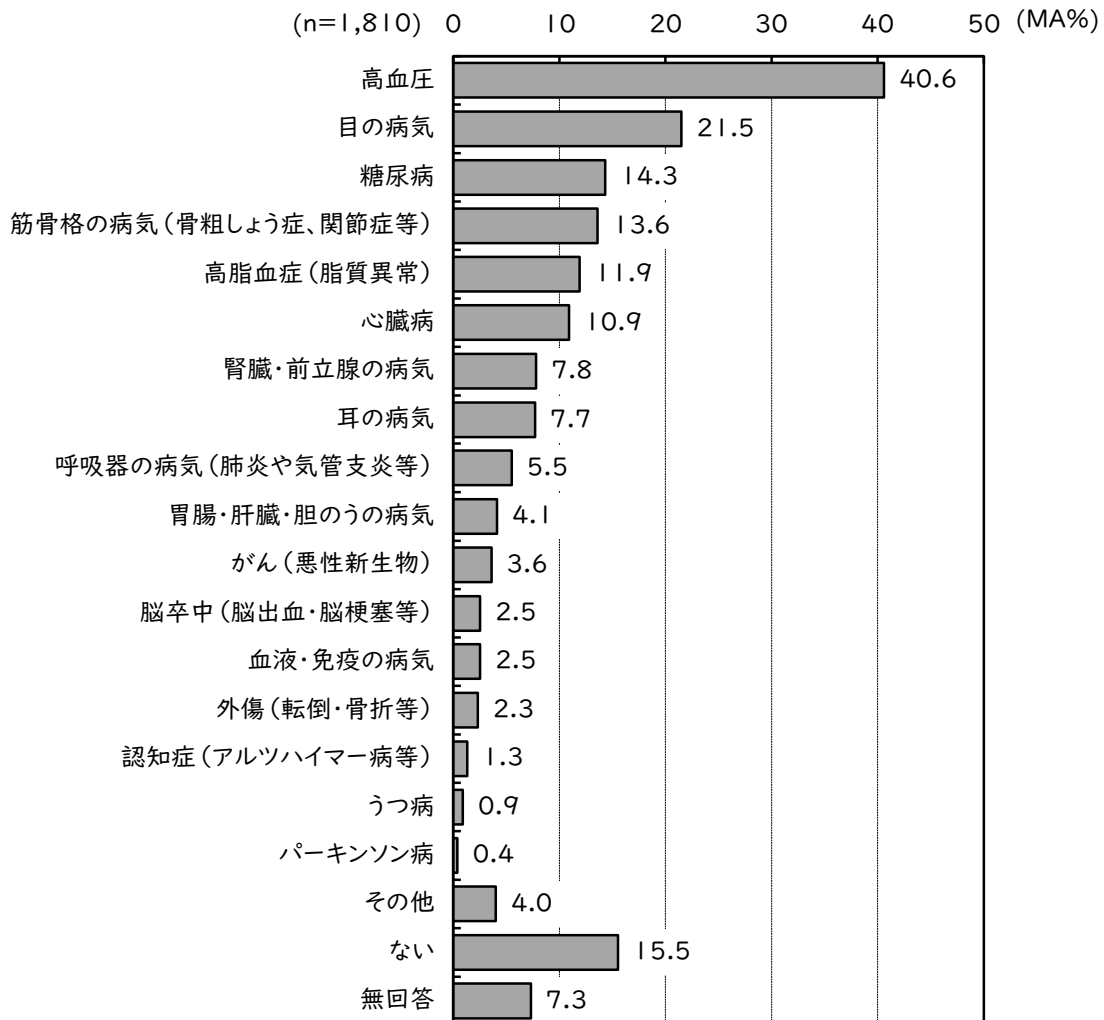
《全体》では、「まあよい」が62.5%と最も高く、次いで、「あまりよくない」が18.8%となっています。『よい』（「とてもよい」+「まあよい」）は72.4%、『よくない』（「よくない」+「あまりよくない」）は21.4%となっています。

『よい』の割合は年齢区分が上がるほど低くなり、《65～74歳》では80.2%、《75～84歳》では69.9%、《85歳以上》では58.8%と、減少幅も大きくなっています。



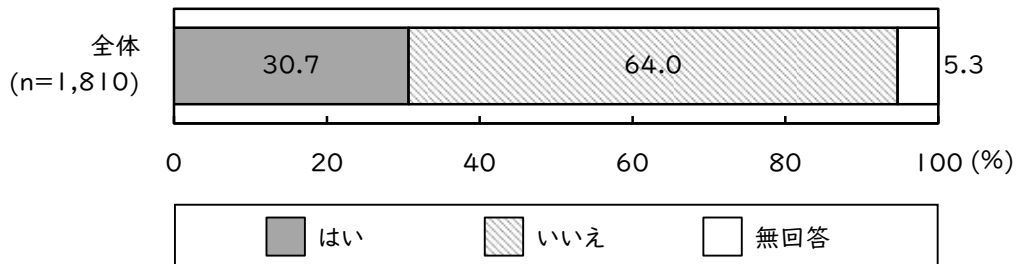
問 49 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(○はいくつでも)

《全体》では、「ない」を除くと、「高血圧」が 40.6%と最も高く、次いで、「目の病気」が 21.5%、「糖尿病」が 14.3%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が 13.6%となっています。「ない」については、15.5%となっています。



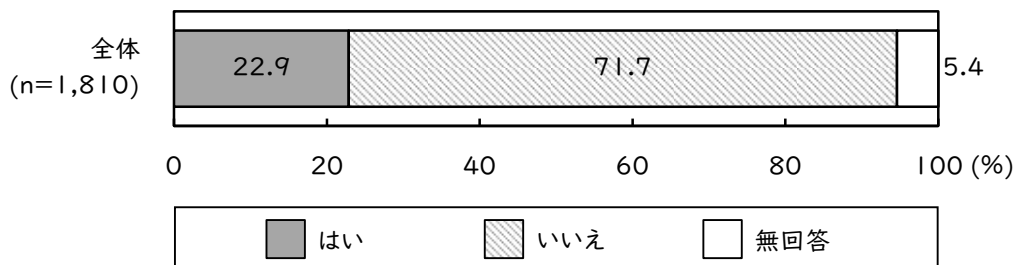
問 50 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(○は1つだけ)

「はい」が30.7%、「いいえ」が64.0%となっています。



問 51 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(○は1つだけ)

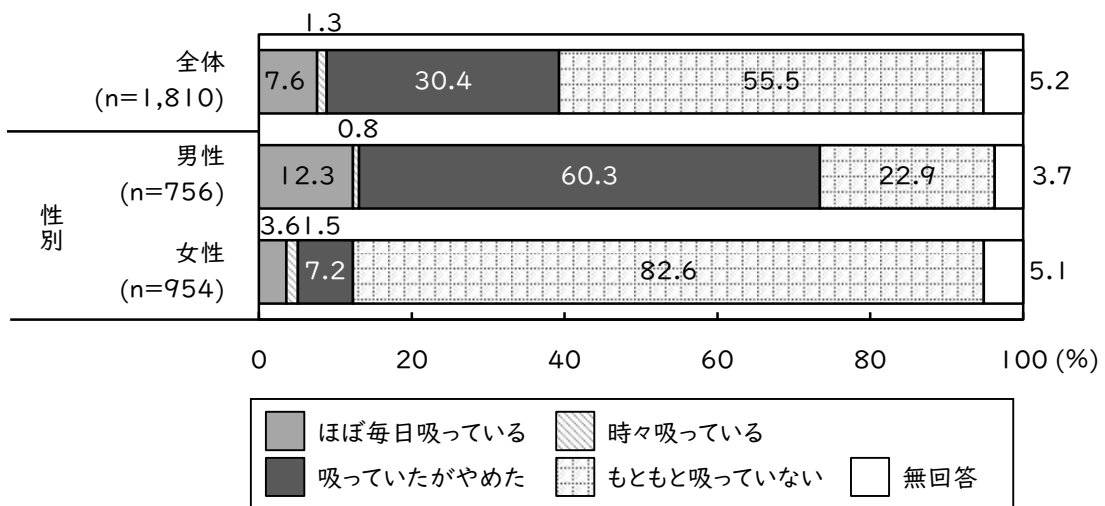
「はい」が22.9%、「いいえ」が71.7%となっています。



問 52 タバコは吸っていますか。(○は1つだけ)

《全体》では、「もともと吸っていない」が55.5%と最も高く、次いで、「吸っていたがやめた」が30.4%となっています。『吸っている』（「ほぼ毎日吸っている」+「時々吸っている」）は8.9%、『吸っていない』（「吸っていたがやめた」+「もともと吸っていない」）は85.9%となっています。

性別でみると、『吸っている』の割合は男性が13.1%、女性が5.1%と、男性の割合の方が高くなっています。

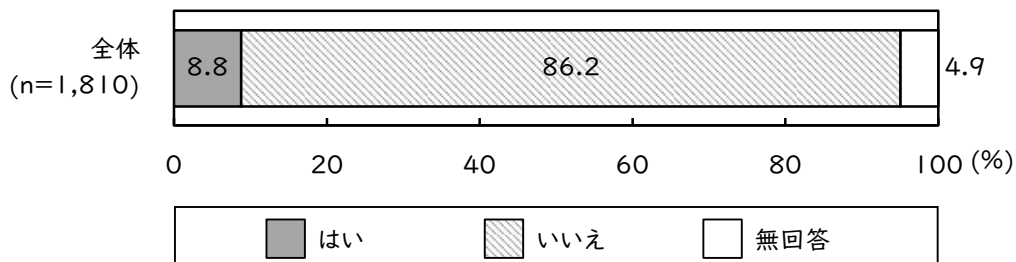




## ケ. 認知症について

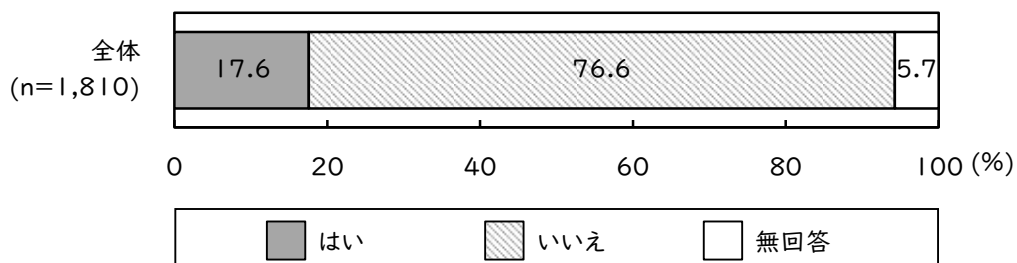
問 53 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(○は1つだけ)

「はい」が 8.8%、「いいえ」が 86.2%となっています。



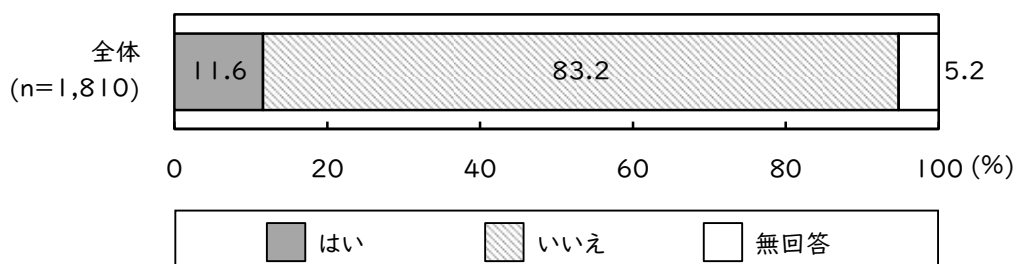
問 54 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○は1つだけ)

「はい」が 17.6%、「いいえ」が 76.6%となっています。



問 55 認知症サポーターを知っていますか。(○は1つだけ)

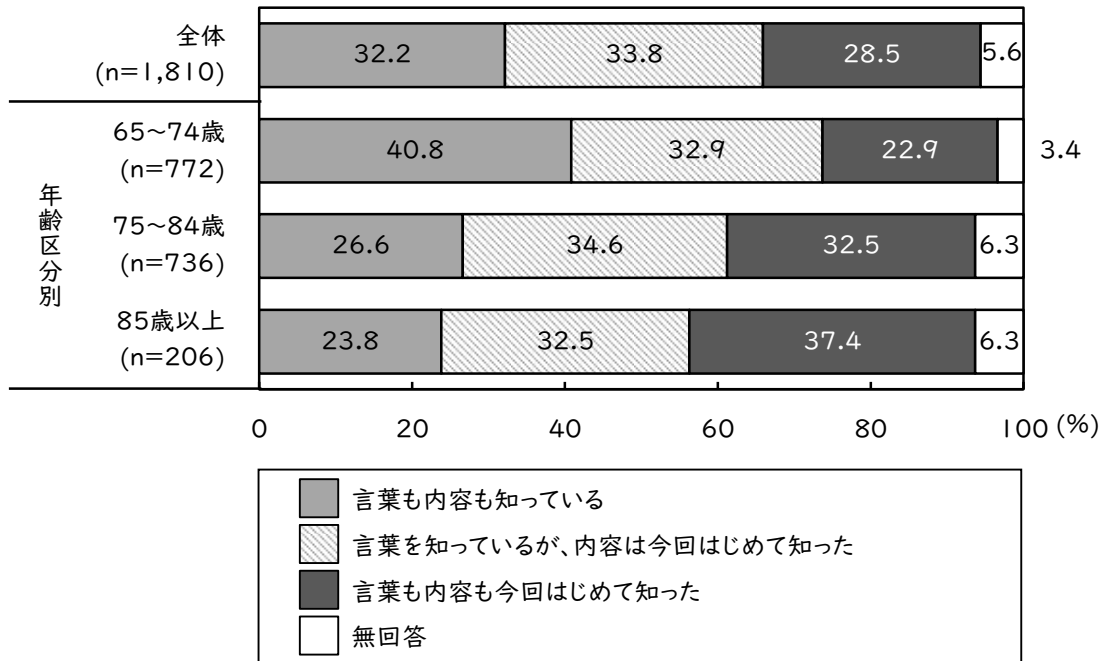
「はい」が 11.6%、「いいえ」が 83.2%となっています。



問 56 成年後見制度を知っていますか。(○は1つだけ)

《全体》では、「言葉も内容も知っている」が 32.2%、「言葉を知っているが、内容は今回初めて知った」が 33.8%、「言葉も内容も今回初めて知った」が 28.5%となっています。

年齢区分別でみると、「言葉も内容も知っている」の割合は年齢区分が上がるほど低くなり、《65～74 歳》では 40.8%、《75～84 歳》では 26.6%、《85 歳以上》では 23.8%と、《65～74 歳》から《75～84 歳》にかけての減少が大きくなっています。



### 3. 防災について

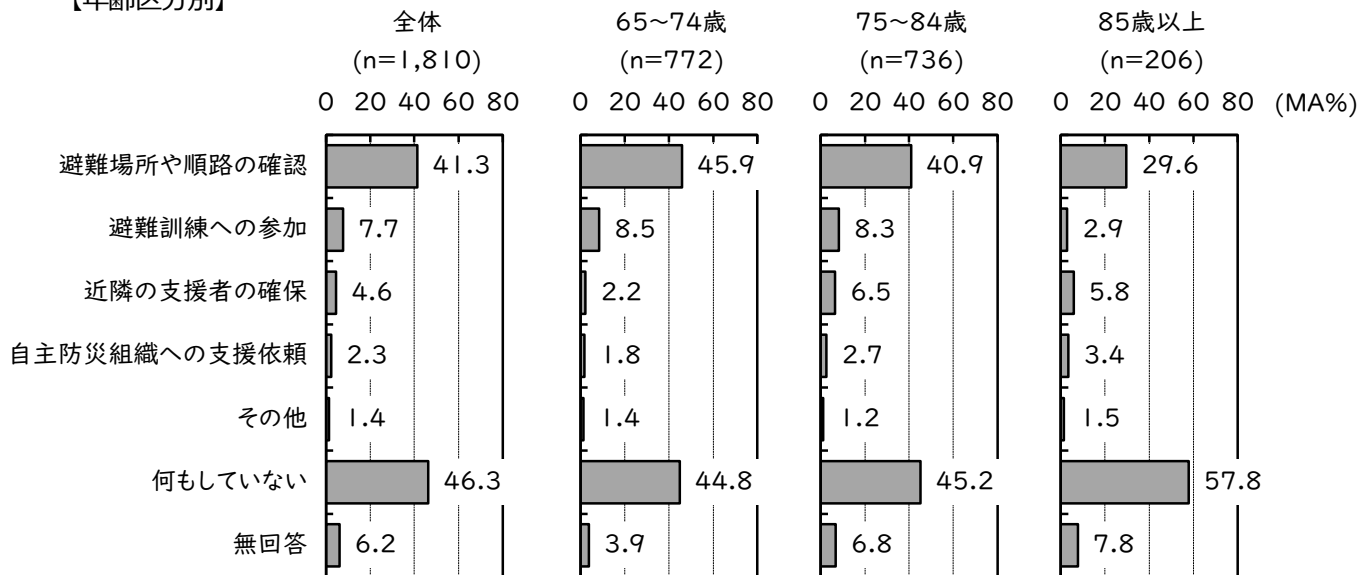
問 57 災害時の避難においてどのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

《全体》では、「何もしていない」が最も高く、46.3%となっています。次いで、「避難場所や順路の確認」が41.3%となっており、それ以外については1割未満となっています。

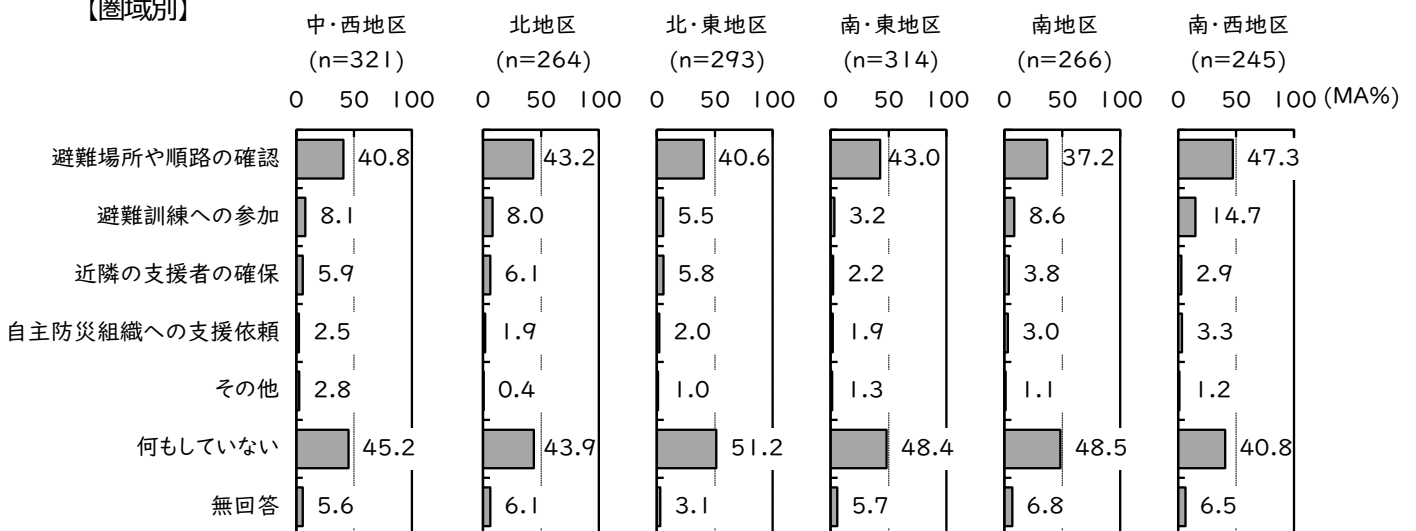
年齢区分別でみると、「何もしていない」の割合は、《65～74 歳》では 44.8%、《75～84 歳》では 45.2%、《85 歳以上》では 57.8%と、《85 歳以上》での割合が最も高くなっています。「避難場所や順路の確認」の割合については年齢区分が上がるほど低くなり、《65～74 歳》では 45.9%、《75～84 歳》では 40.9%、《85 歳以上》では 29.6%と、《75～84 歳》から《85 歳以上》にかけての減少が大きくなっています。

圏域別でみると、「何もしていない」の割合は、《北・東地区》で最も高く、5割を超えています(51.2%)。

#### 【年齢区分別】



#### 【圏域別】



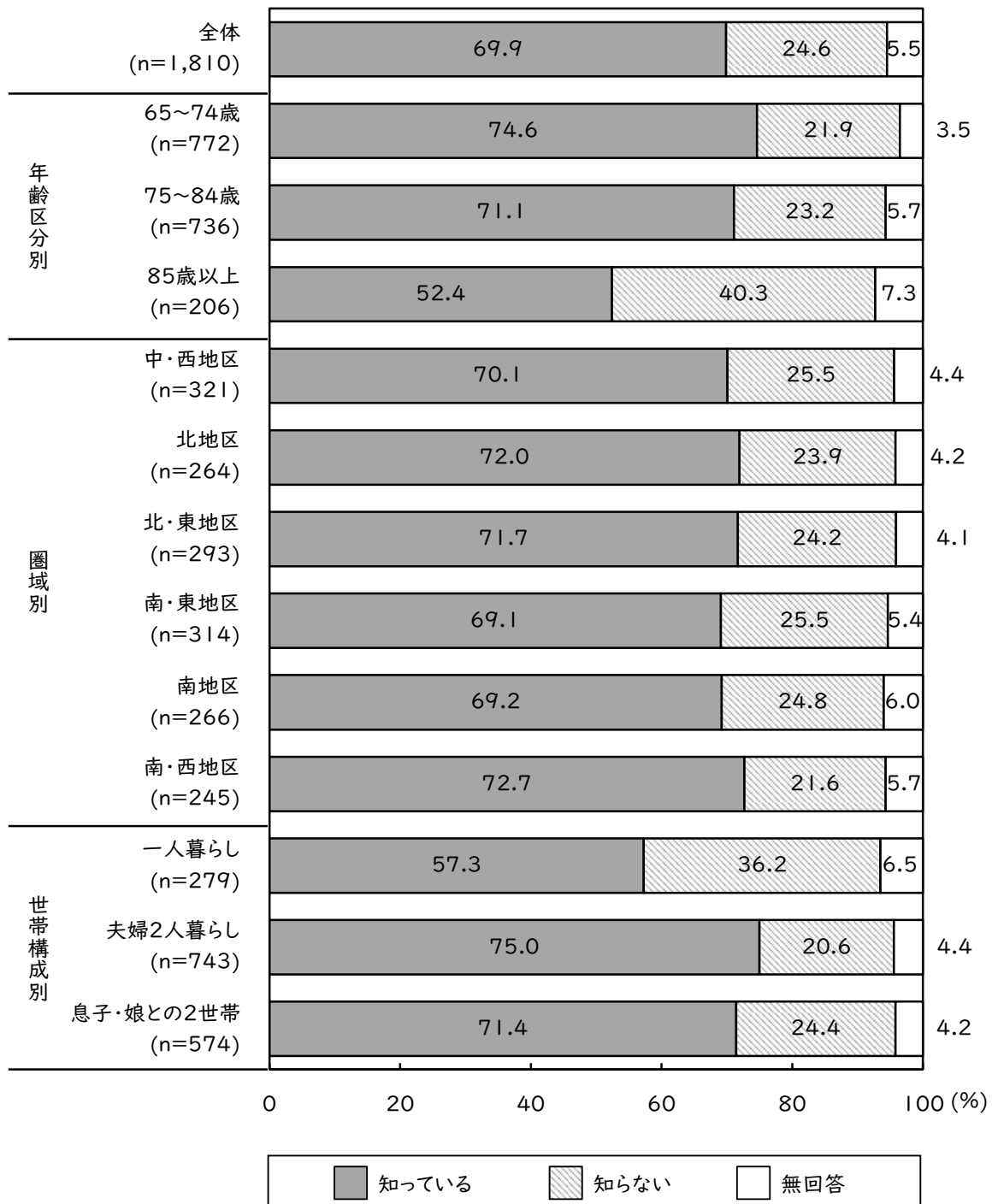
問 58 地震などの災害がおこった場合の避難場所を知っていますか。(○は1つだけ)

《全体》では、「知っている」が69.9%、「知らない」が24.6%となっています。

年齢区分別でみると、「知っている」の割合は年齢区分が上がるほど低くなり、《65～74 歳》では74.6%、《75～84 歳》では71.1%、《85 歳以上》では52.4%と、《75～84 歳》から《85 歳以上》にかけての減少が大きくなっています。

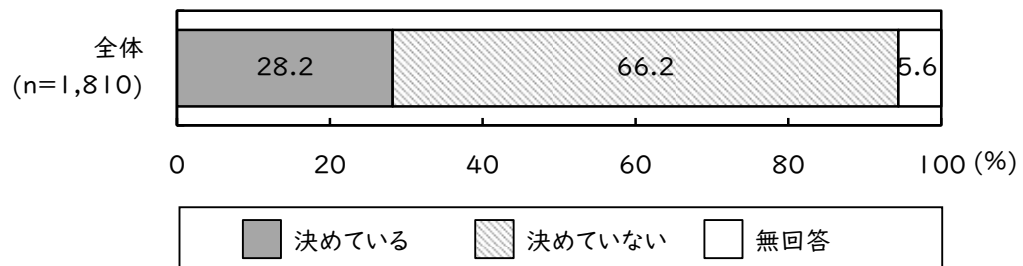
圏域別でみると、「知っている」の割合は「南・西地区」で最も高くなっています(72.7%)。

世帯構成別でみると、「知っている」の割合は、《夫婦2人暮らし》、《息子・娘との2世帯》では7割以上となっていますが(順に75.0%、71.4%)、《一人暮らし》では5割台となっています(57.3%)。



問 59 避難方法や安否確認の方法について、家族と話し合っていますか。(○は1つだけ)

「決めている」が 28.2%、「決めていない」が 66.2%となっています。



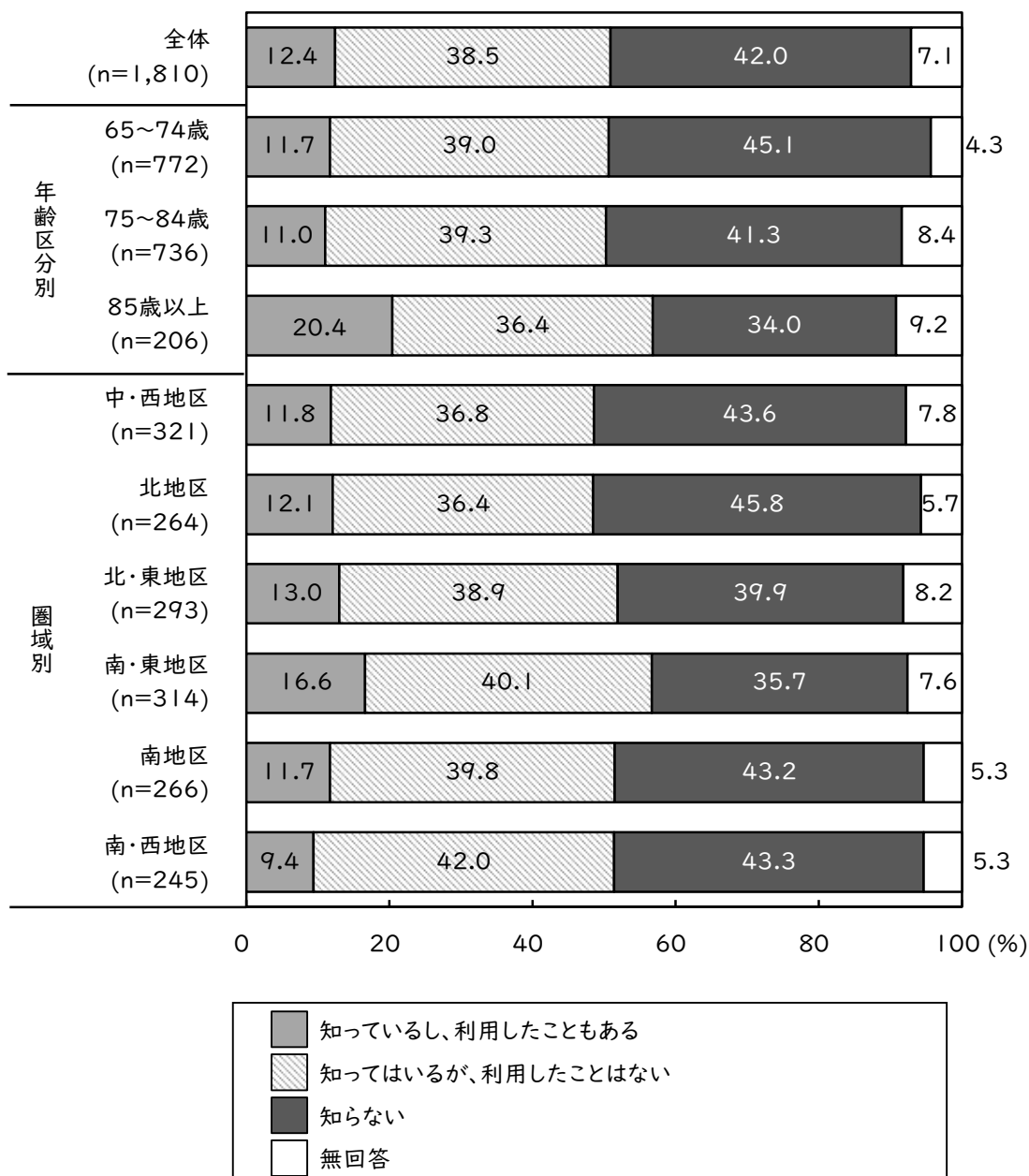
## サ. 高齢者福祉や介護保険について

問 60 地域包括支援センターを知っていますか。(○は1つだけ)

《全体》では、「知っているし、利用したこともある」が 12.4%、「知っているが、利用したことはない」が 38.5%、「知らない」が 42.0%となっており、『知っている』（「知っているし、利用したこともある」+「知っているが、利用したことはない」）については 50.9%と、「知らない」より高くなっています。

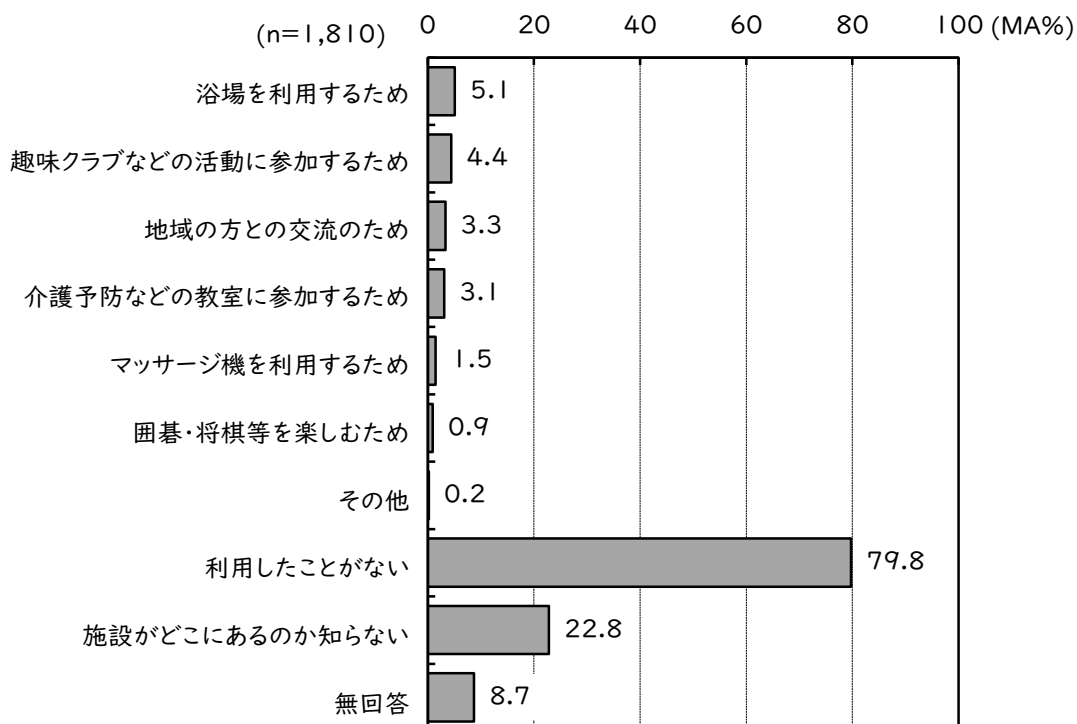
年齢区分別でみると、どの区分も『知っている』が「知らない」を上回っています。『知っている』の割合については、《65～74 歳》では 50.7%、《75～84 歳》では 50.3%、《85 歳以上》では 56.8%と、《85 歳以上》で最も高くなっています。

圏域別でみると、どの地区も『知っている』が「知らない」を上回っています。『知っている』の割合については、《南・東地区》で最も高くなっています（中・西地区：48.6%、北地区：48.5%、北・東地区：51.9%、南・東地区：56.7%、南地区：51.5%、南・西地区：51.4%）。



問 61 高齢者福祉施設（いきいきセンター、いきいの広場、つどいの里）を利用する際は、どのような目的で利用しますか。（○はいくつでも）

「利用したことがない」が 79.8%と大半を占めています。「施設がどこにあるのか知らない」は 22.8%となっています。利用目的としては「浴場を利用するため」が最も高くなっています（5.1%）。



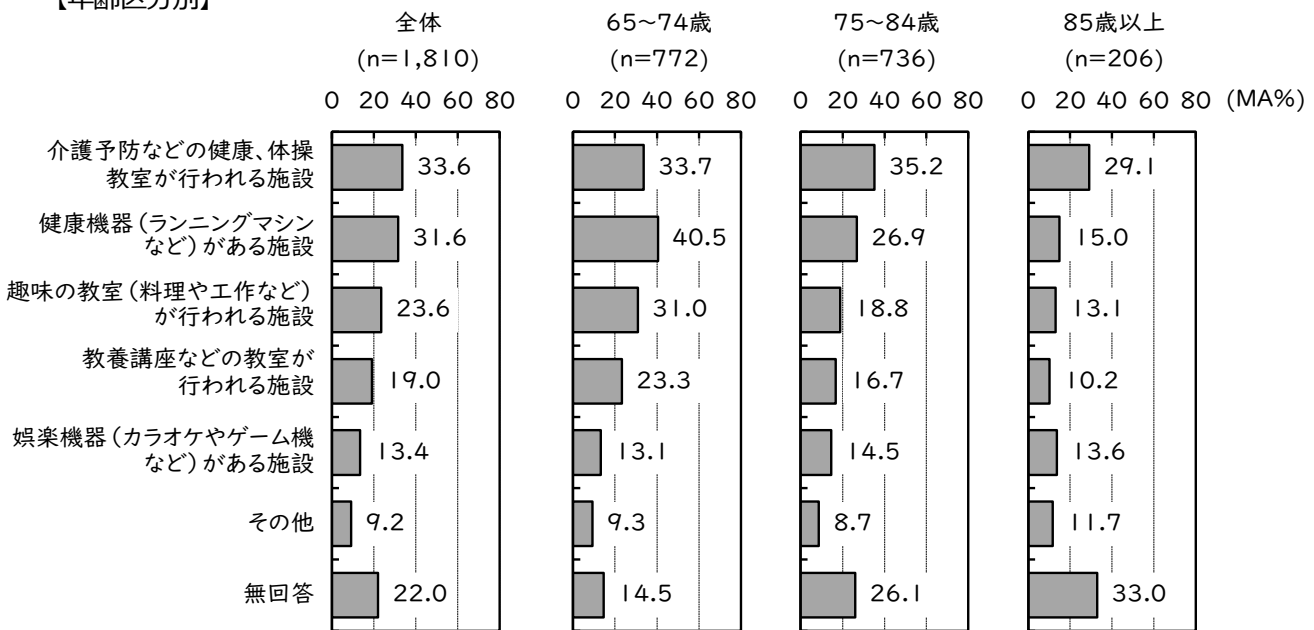
問 62 どのような高齢者施設（いきいきセンター、いきの広場、つどの里）なら、利用してみたいと思いますか。  
 （○はいくつでも）

《全体》では、「介護予防などの健康、体操教室が行われる施設」が 33.6%と最も高く、次いで、「健康機器（ランニングマシンなど）がある施設」が 31.6%、「趣味の教室（料理や工作など）が行われる施設」が 23.6% となっています。

年齢区分別でみると、どの区分も「介護予防などの健康、体操教室が行われる施設」（65～74 歳：33.7%、75～84 歳：35.2%、85 歳以上：29.1%）、「健康機器（ランニングマシンなど）がある施設」（65～74 歳：40.5%、75～84 歳：26.9%、85 歳以上：15.0%）、「趣味の教室（料理や工作など）が行われる施設」（65～74 歳：31.0%、75～84 歳：18.8%、85 歳以上：13.1%）が上位 3 位となっていますが、《65～74 歳》では「健康機器（ランニングマシンなど）がある施設」が最も高く、《75～84 歳》、《85 歳以上》では「介護予防などの健康、体操教室が行われる施設」が最も高くなっています。

圏域別でみると、どの地区も「介護予防などの健康、体操教室が行われる施設」、「健康機器（ランニングマシンなど）がある施設」が上位 2 位となっています。

【年齢区分別】



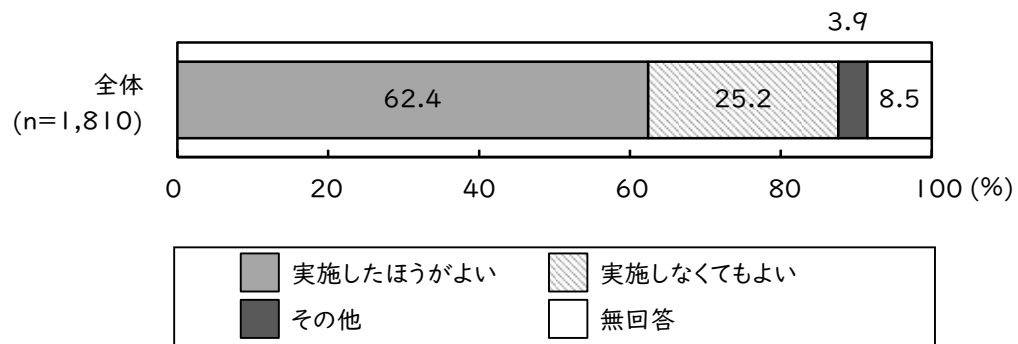
【圏域別】

	介護予防などの健康、体操教室が行われる施設	健康機器（ランニングマシンなど）がある施設	趣味の教室（料理や工作など）が行われる施設	教養講座などの教室が行われる施設	娯楽機器（カラオケやゲーム機など）がある施設	その他	無回答
中・西地区(n=321)	36.4	30.8	25.2	22.7	14.3	9.0	20.6
北地区(n=264)	32.2	34.8	25.8	17.0	13.6	9.1	20.8
北・東地区(n=293)	33.8	33.8	25.9	17.1	12.6	8.2	22.5
南・東地区(n=314)	34.7	29.9	19.4	19.1	13.7	9.6	22.3
南地区(n=266)	36.5	29.7	23.7	16.9	13.2	7.5	22.9
南・西地区(n=245)	29.0	30.6	20.4	20.0	15.5	12.7	20.8



問 63 一宮市では、数え 100 歳以上の方に祝い品を贈呈する長寿祝事業を実施していますが、今後も継続して実施したほうが良いと思いますか。(○は1つだけ)

「実施したほうがよい」が 62.4%、「実施しなくてもよい」が 25.2%となっています。



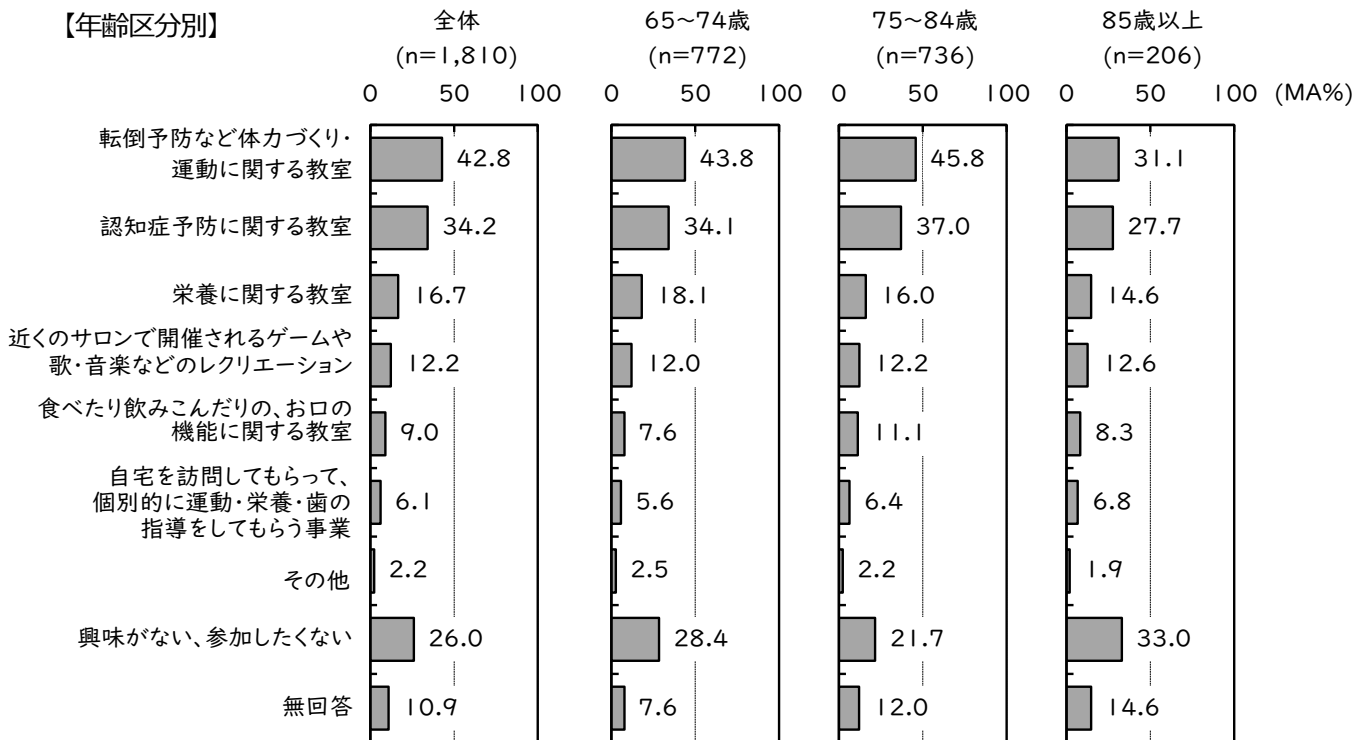
問 64 介護予防事業について、興味があるもの、参加したいと思うものをお答えください。(○はいくつでも)

《全体》では、「興味がない、参加したくない」を除くと「転倒予防など体力づくり・運動に関する教室」が 42.8%と最も高く、次いで、「認知症予防に関する教室」が 34.2%、「栄養に関する教室」が 16.7%となっています。「興味がない、参加したくない」については 26.0%となっています。

年齢区分別でみると、どの区分も、「興味がない、参加したくない」を除くと、「転倒予防など体力づくり・運動に関する教室」(65～74歳：43.8%、75～84歳：45.8%、85歳以上：31.1%)、「認知症予防に関する教室」(65～74歳：34.1%、75～84歳：37.0%、85歳以上：27.7%)の割合が高くなっています。一方、「興味がない、参加したくない」については、《65～74歳》では 28.4%、《75～84歳以上》では、21.7%、《85歳以上》では 33.0%と、《85歳以上》での割合が最も高くなっています。

圏域別でみると、どの地区も「転倒予防など体力づくり・運動に関する教室」、「認知症予防に関する教室」の順で割合が高くなっています。

【年齢区分別】



【圏域別】

	転倒予防など体力づくり・運動に関する教室	認知症予防に関する教室	栄養に関する教室	近くのサロンで開催されるゲームや歌・音楽などのレクリエーション	食べたり飲みこんだりの、お口の機能に関する教室	自宅を訪問してもらって、個別的に運動・栄養・歯の指導をもらう事業	その他	興味がない、参加したくない	無回答
中・西地区 (n=321)	43.9	36.8	16.5	12.1	9.7	5.6	1.6	25.5	11.2
北地区 (n=264)	37.9	33.0	18.2	12.1	10.2	6.4	2.3	25.4	10.6
北・東地区 (n=293)	43.3	36.5	15.4	12.6	11.3	5.5	1.7	27.3	10.9
南・東地区 (n=314)	47.8	33.8	18.8	9.9	10.5	5.1	0.6	27.1	9.2
南地区 (n=266)	40.6	33.8	17.7	10.9	6.0	8.3	4.1	24.4	10.9
南・西地区 (n=245)	44.1	32.2	13.9	16.3	7.3	6.1	3.7	26.1	9.4

問 65 介護予防事業に参加する上で求めることをお答えください。(○はいくつでも)

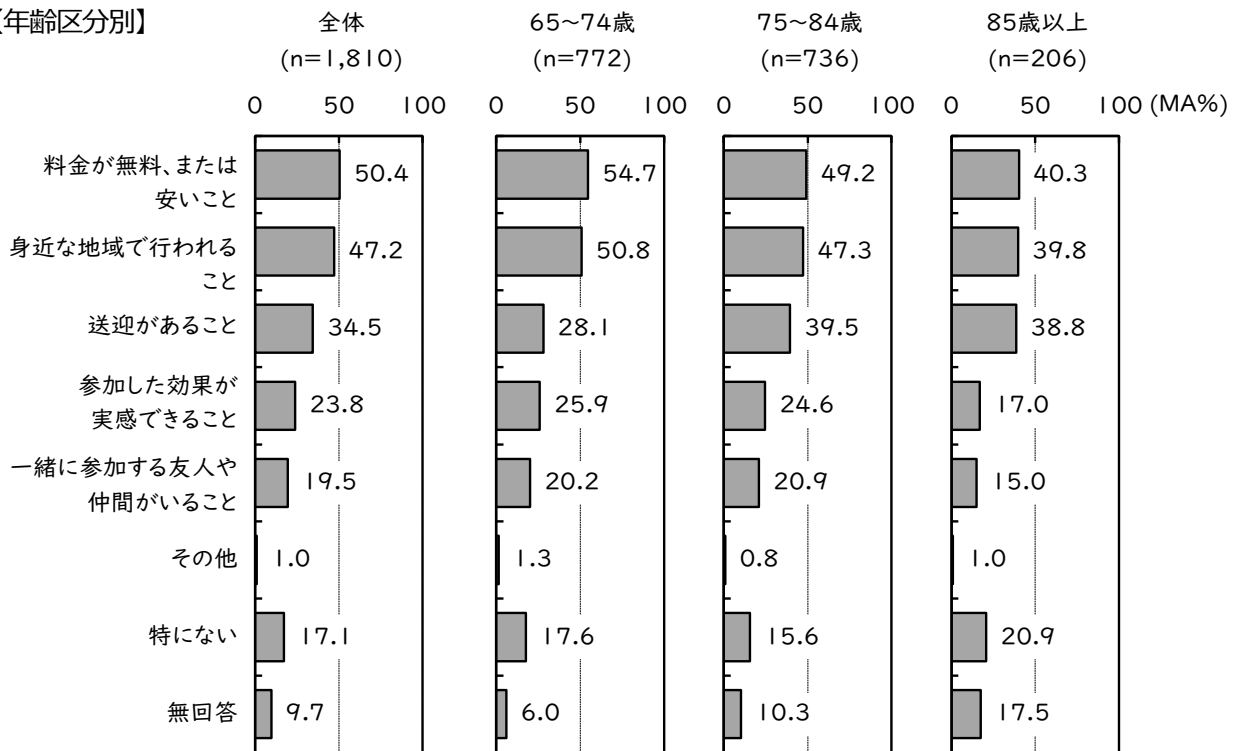
《全体》では、「料金が無料、または安いこと」が 50.4%と最も高く、次いで、「身近な地域で行われること」が 47.2%、「送迎があること」が 34.5%となっています。

年齢区分別でみると、どの区分も「料金が無料、または安いこと」(65～74 歳：54.7%、75～84 歳：49.2%、85 歳以上：40.3%)、「身近な地域で行われること」(65～74 歳：50.8%、75～84 歳：47.3%、85 歳以上：39.8%)、「送迎があること」(65～74 歳：28.1%、75～84 歳：39.5%、85 歳以上：38.8%) が上位 3 位となっています。

《全体》の上位 3 位のうち、「送迎があること」については、年齢区分が上がるほどおおむね割合が高く、「料金が無料、または安いこと」、「身近な地域で行われること」については年齢区分が下がるほど割合が高くなっています。

圏域別でみると、どの地区も「料金が無料、または安いこと」、「身近な地域で行われること」の割合が高くなっています。

【年齢区分別】

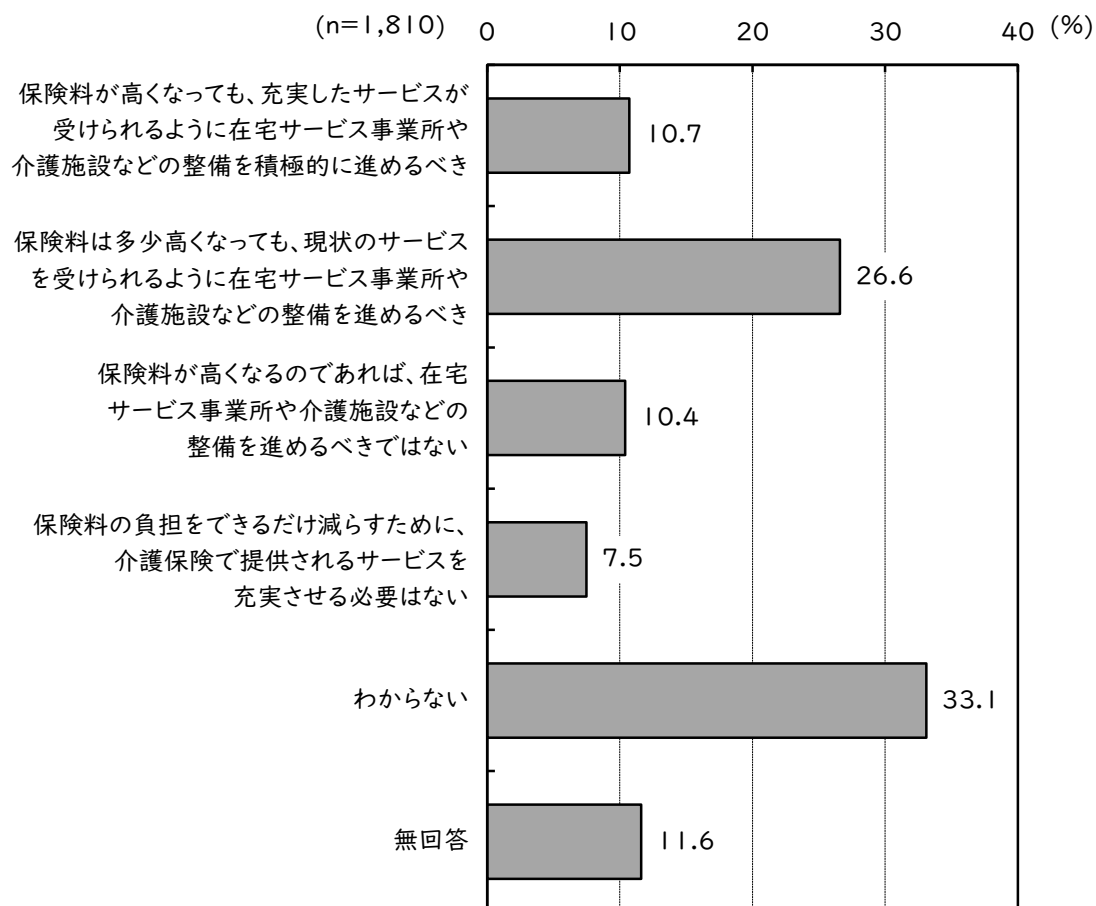


【圏域別】

	料金が無料、または安いこと	身近な地域で行われること	送迎があること	参加した効果が実感できること	一緒に参加する友人や仲間がいること	その他	特にない	無回答
中・西地区(n=321)	47.0	46.4	31.5	24.9	19.6	1.2	18.4	8.4
北地区(n=264)	52.7	46.2	34.5	29.9	20.1	1.5	14.4	8.0
北・東地区(n=293)	54.6	49.1	32.1	20.8	20.5	0.7	16.0	11.9
南・東地区(n=314)	51.6	52.2	34.7	22.9	19.1	0.3	18.5	8.9
南地区(n=266)	47.4	48.5	36.8	22.9	20.7	1.5	17.7	8.6
南・西地区(n=245)	49.8	44.9	36.3	24.9	20.0	1.2	17.1	9.4

問 66 今後の介護サービスと介護保険料負担のあり方について、あなたの考え方に最も近いのはどれですか。  
(○は1つだけ)

《全体》では、「わからない」を除くと、「保険料は多少高くなっても、現状のサービスを受けられるように在宅サービス事業所や介護施設などの整備を進めるべき」が 26.6%と最も高く、次いで、「保険料が高くなっても、充実したサービスを受けられるように在宅サービス事業所や介護施設などの整備を積極的に進めるべき」が 10.7%となっています。



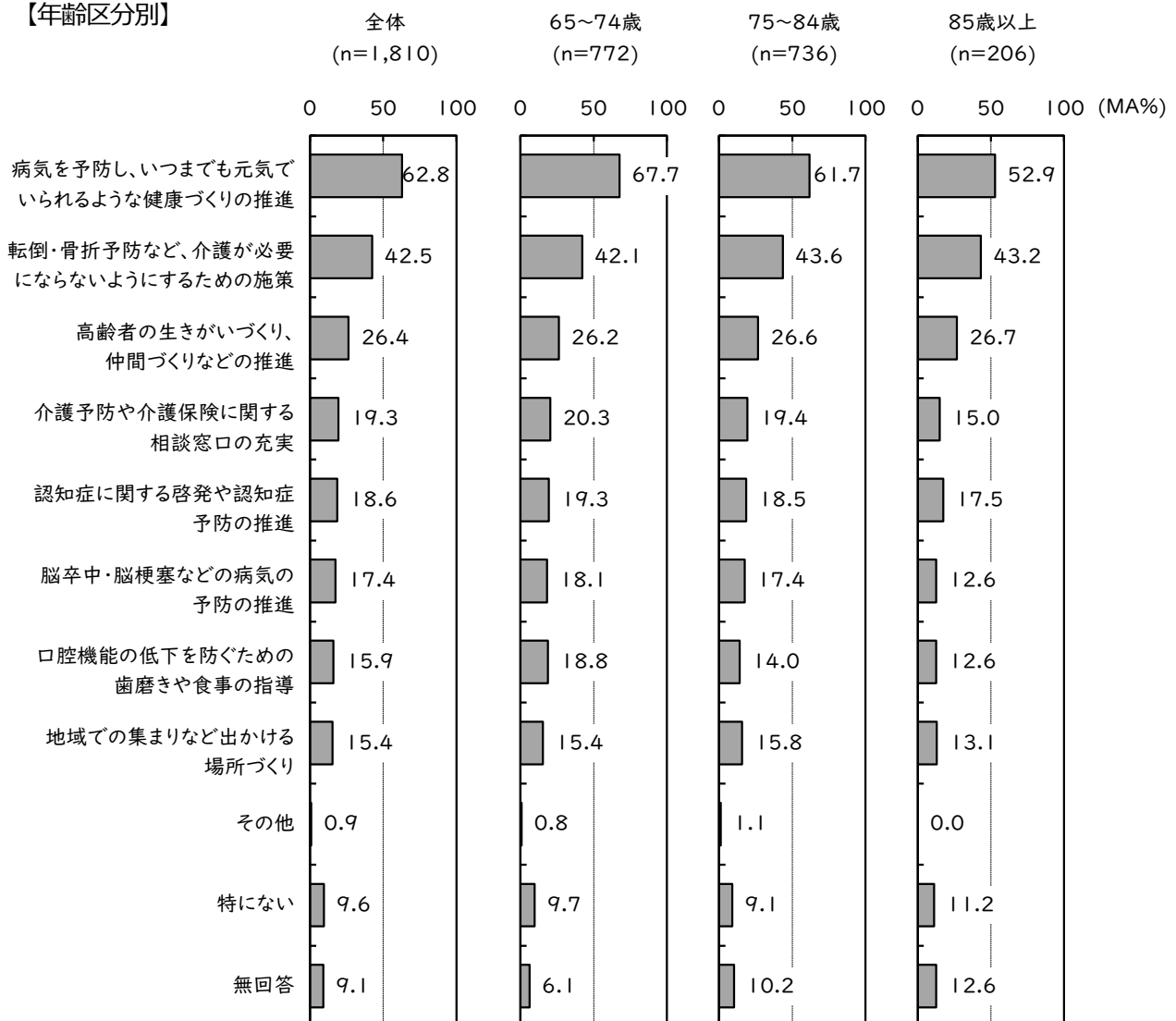
問 67 できるだけ介護を必要とせず、いつまでも元気に暮らすことができるためには、どのような取り組みが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

《全体》では、「病気を予防し、いつまでも元気でいられるような健康づくりの推進」が 62.8%と最も高く、次いで、「転倒・骨折予防など、介護が必要にならないようにするための施策」が 42.5%、「高齢者の生きがいづくり、仲間づくりなどの推進」が 26.4%となっています。

年齢区別でみると、どの区分も「病気を予防し、いつまでも元気でいられるような健康づくりの推進」(65～74歳：67.7%、75～84歳：61.7%、85歳以上：52.9%)、「転倒・骨折予防など、介護が必要にならないようにするための施策」(65～74歳：42.1%、75～84歳：43.6%、85歳以上：43.2%)、「高齢者の生きがいづくり、仲間づくりなどの推進」(65～74歳：26.2%、75～84歳：26.6%、85歳以上：26.7%)が上位3位となっています。

《全体》の上位3位のうち、「高齢者の生きがいづくり、仲間づくりなどの推進」については、年齢区分が上がるほど割合が高く、「病気を予防し、いつまでも元気でいられるような健康づくりの推進」については年齢区分が下がるほど割合が高くなっています。

【年齢区別】



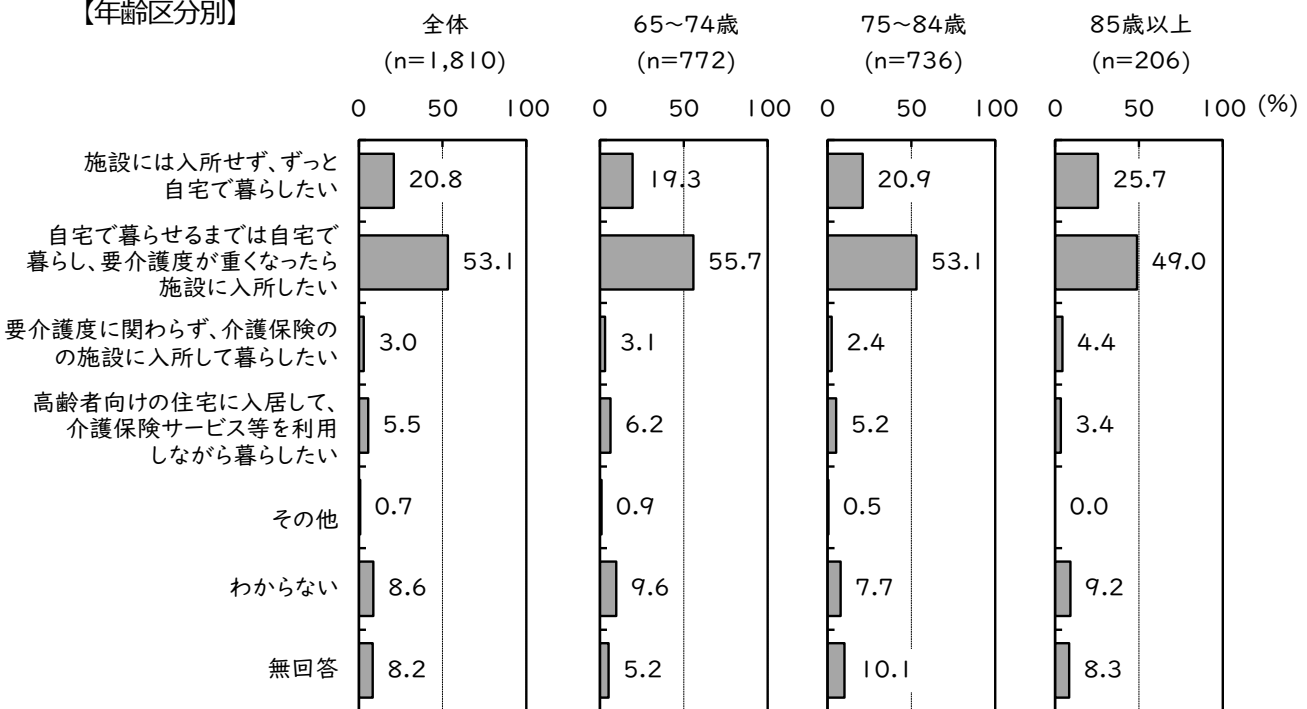
問 68 今後、あなたが介護の必要な状態（介護認定対象者）になったとき、どのような生活をしたいですか。  
 (○は1つだけ)

《全体》では、「自宅で暮らせるまでは自宅で暮らし、要介護度が重くなったら施設に入所したい」が 53.1%と最も高く、次いで、「施設には入所せず、ずっと自宅で暮らしたい」が 20.8%となっています。

年齢区分別でみると、どの区分も「自宅で暮らせるまでは自宅で暮らし、要介護度が重くなったら施設や病院に入所したい」が最も高く、《65～74 歳》では 55.7%、《75～84 歳》では 53.1%、《85 歳以上》では 49.0%と、年齢区分が下がるほど割合が高くなっています。

圏域別でみると、どの地区も「自宅で暮らせるまでは自宅で暮らし、要介護度が重くなったら施設や病院に入所したい」が最も高く、5 割以上となっています。「施設には入所せず、ずっと自宅で暮らしたい」については、《南地区》での割合が最も高くなっています（23.7%）。

【年齢区分別】



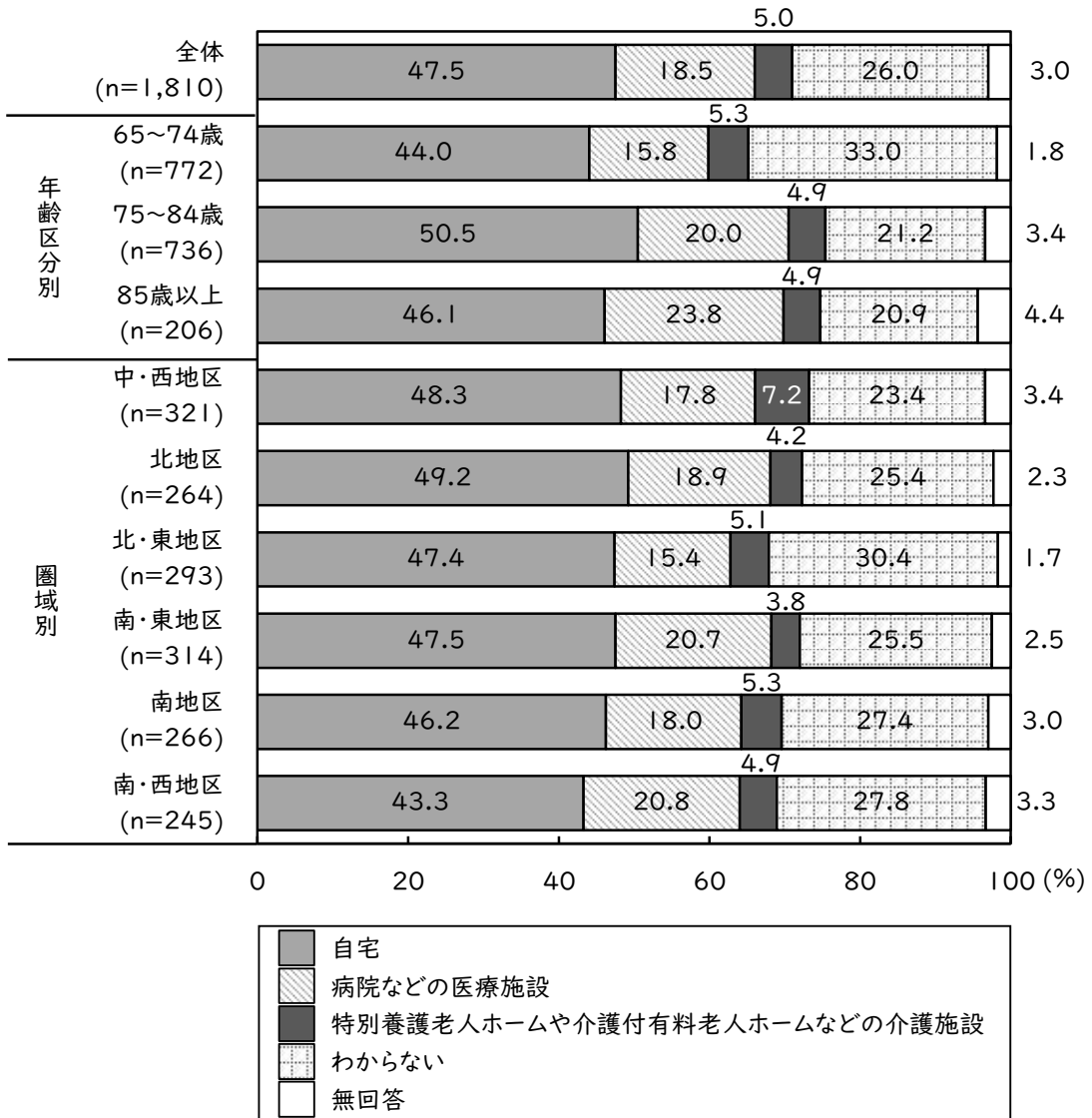
【圏域別】

	施設には入所せず、ずっと自宅で暮らしたい	自宅で暮らせるまでは自宅で暮らし、要介護度が重くなったら施設に入所したい	要介護度に関わらず、介護保険の施設に入所して暮らしたい	高齢者向けの住宅に入居して、介護保険サービス等を利用しながら暮らしたい	その他	わからない	無回答
中・西地区(n=321)	21.8	54.8	3.1	5.3	0.9	8.1	5.9
北地区(n=264)	20.5	55.7	1.1	5.3	0.4	9.8	7.2
北・東地区(n=293)	19.1	53.2	2.4	7.8	0.0	9.2	8.2
南・東地区(n=314)	19.7	53.2	4.8	4.1	0.3	8.3	9.6
南地区(n=266)	23.7	54.9	2.6	3.4	1.1	6.0	8.3
南・西地区(n=245)	20.0	50.2	3.7	6.1	1.2	11.8	6.9

問 69 人生の最期を迎えるとしたら、どこで迎えたいですか。(○は1つだけ)

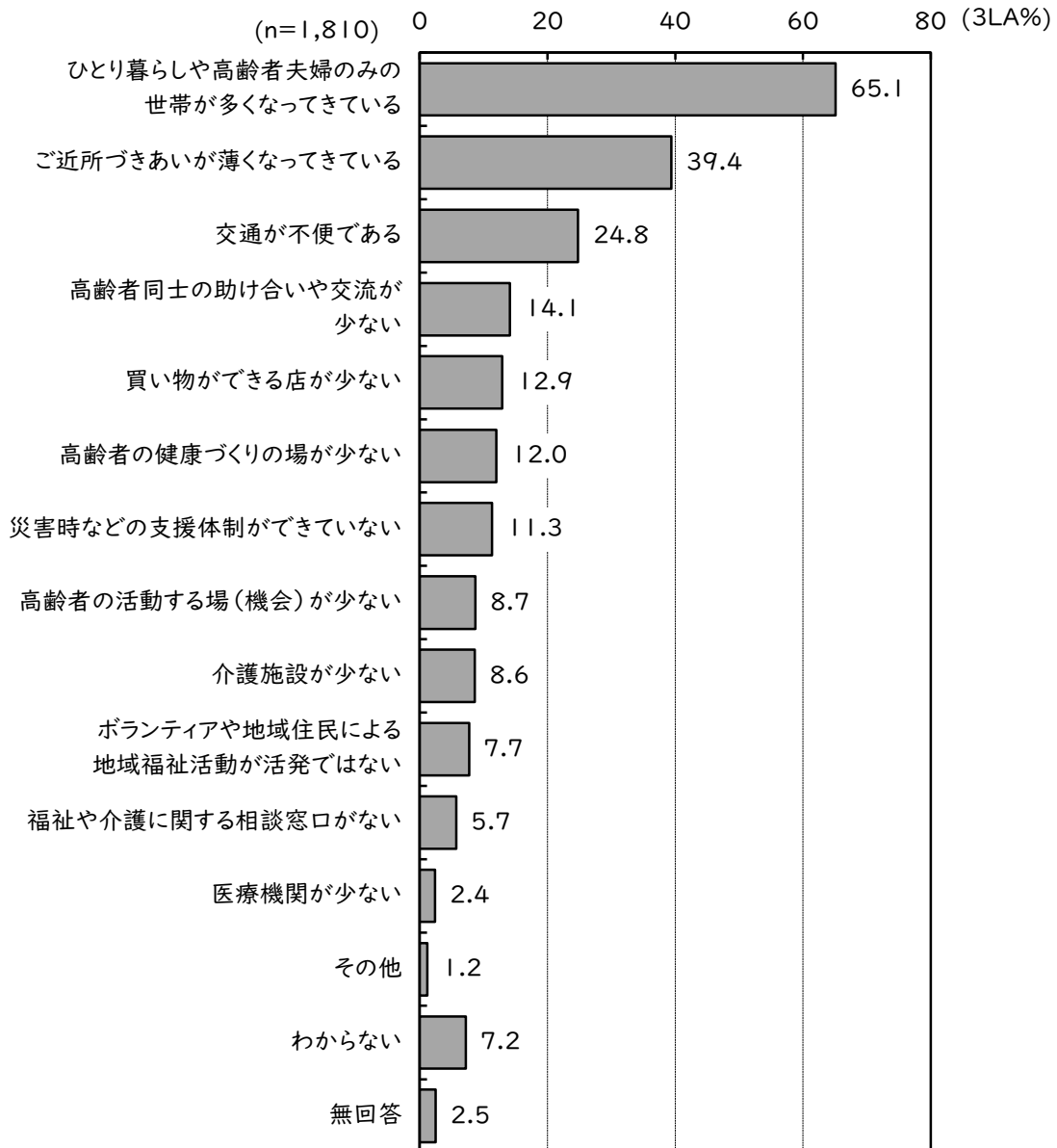
《全体》では、「自宅」が47.5%と最も高く、次いで、「病院などの医療施設」が18.5%となっています。

年齢区分別でみると、どの区分も「自宅」が最も高く、《65～74歳》では44.0%、《75～84歳》では50.5%、《85歳以上》では46.1%となっています。



問 70 地域における高齢者（高齢化）に関する課題は何だと思えますか。（○は3つまで）

《全体》では、「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」が 65.1%と最も高く、次いで、「ご近所づきあいが薄くなってきている」が 39.4%、「交通が不便である」が 24.8%、「高齢者同士の助け合いや交流が少ない」が 14.1%、「買い物ができる店が少ない」が 12.9%となっています。



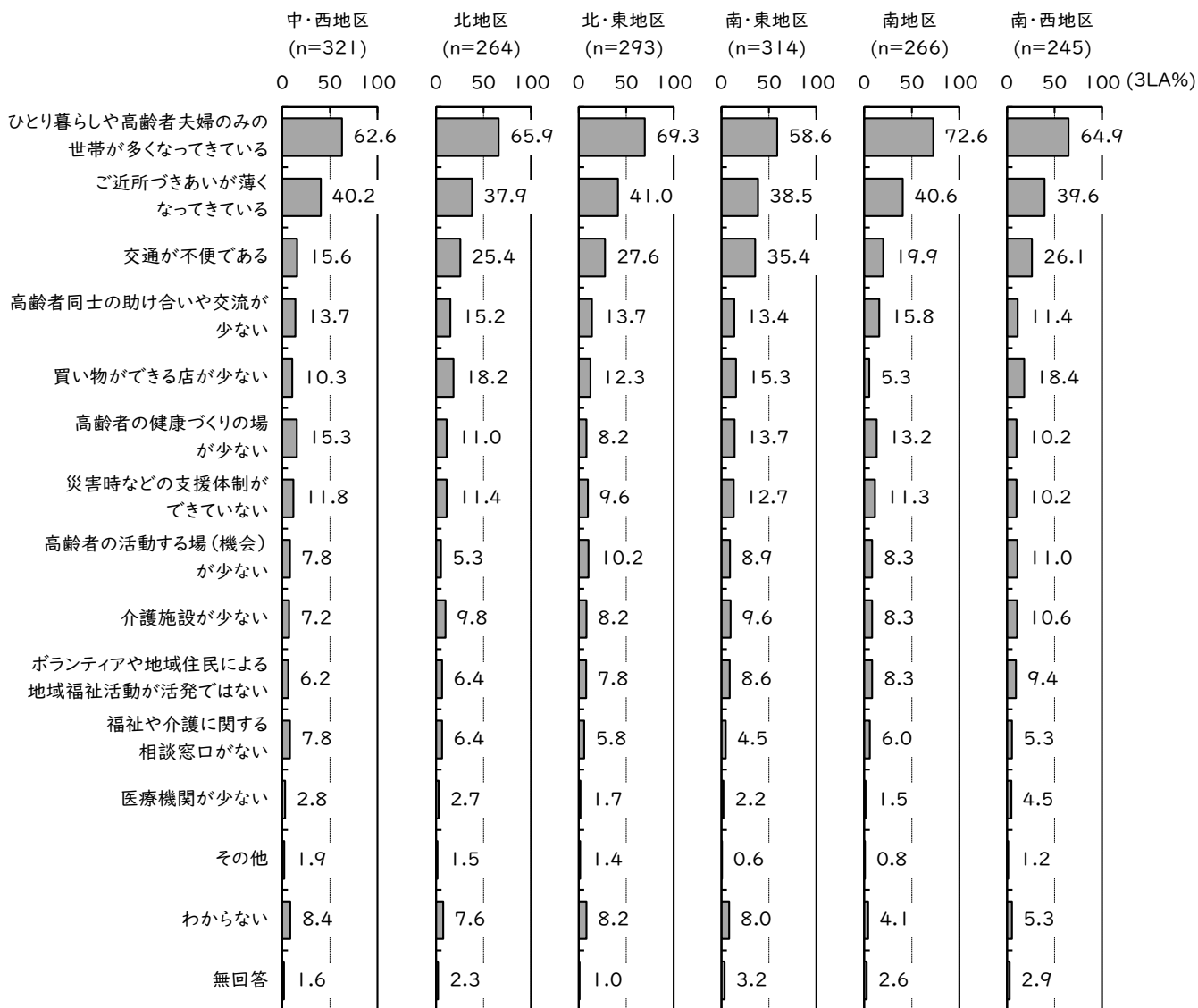


圏域別でみると、どの地区も「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」、「ご近所づきあいが薄くなってきている」、「交通が不便である」の順で高くなっています。

「ひとり暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が多くなってきている」の割合はどの地区でも高くなっていますが、《南区》での割合が特に高く、7割以上となっています（72.6%）。

また、《南・東地区》では他の地区に比べて、「交通が不便である」の割合が高い傾向にあります（35.4%）。

【圏域別】



### 3 生活機能評価

一般高齢者アンケートにおいて、質問項目により、「運動器機能の低下」、「転倒リスク」、「閉じこもり傾向」、「低栄養の疑い」、「咀嚼機能の低下」、「認知症リスク」、「手段的自立度（IADL）」、「うつ傾向に関する評価」を行いました。

判定結果では、「咀嚼機能の低下」、「認知症リスク」、「うつ傾向」では該当者の割合が高く、「認知症リスク」については4割以上となっています。

経年比較でみると、ほとんどの項目で悪化傾向にありますが、「うつ傾向」では該当者の割合が6.0ポイント減少しています。「転倒リスク」については前回からほぼ変化がみられません。

【種類別リスク該当者割合】

項目		全体	男性	女性
運動器機能の低下	前回調査	13.0%	9.3%	16.5%
	今回調査	13.6%	10.3%	17.6%
転倒リスク	前回調査	29.3%	27.4%	32.2%
	今回調査	29.2%	26.7%	33.9%
閉じこもり傾向	前回調査	13.0%	9.7%	15.8%
	今回調査	14.1%	13.8%	15.8%
低栄養の疑い	前回調査	19.8%	14.2%	24.6%
	今回調査	20.5%	15.1%	24.7%
咀嚼機能の低下	前回調査	30.1%	32.2%	28.4%
	今回調査	32.0%	31.1%	33.3%
認知症リスク	前回調査	41.0%	39.1%	42.5%
	今回調査	42.5%	40.3%	44.2%
手段的自立度（IADL）	前回調査	14.1%	19.1%	10.5%
	今回調査	15.9%	22.4%	11.2%
うつ傾向	前回調査	41.0%	39.8%	42.2%
	今回調査	35.0%	33.2%	36.3%

※前回調査は令和2年調査。

※手段的自立度（IADL）は、「やや低い」「低い」を合算した数値。

※「低栄養の疑い」は国民健康・栄養調査結果で示す低栄養傾向者（BMI20以下）とした。

※評価方法や評価に使用した設問等は、次ページ以降に掲載。

## (1) 運動器機能の低下

### ■ 評価方法

以下の5つの設問中3問以上、該当する選択肢を回答した場合（問8～問10で「できない」、問11で「何度もある」または「1度ある」、問12で「とても不安である」または「やや不安である」）を、該当者（運動器機能の低下している高齢者）としました。

### ■ 評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,810）】

単位：%

設問番号	設問	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答
問8	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	59.5	18.5	15.9	6.1
問9	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	74.0	9.2	10.6	6.2
問10	15分位続けて歩いていますか。	71.1	15.5	7.3	6.1

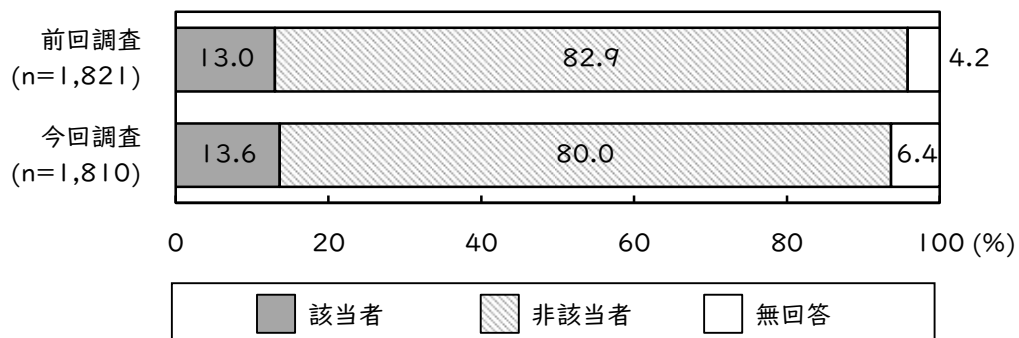
単位：%

設問番号	設問	何度もある	1度ある	ない	無回答
問11	過去1年間に転んだ経験がありますか。	7.4	21.8	65.1	5.7

単位：%

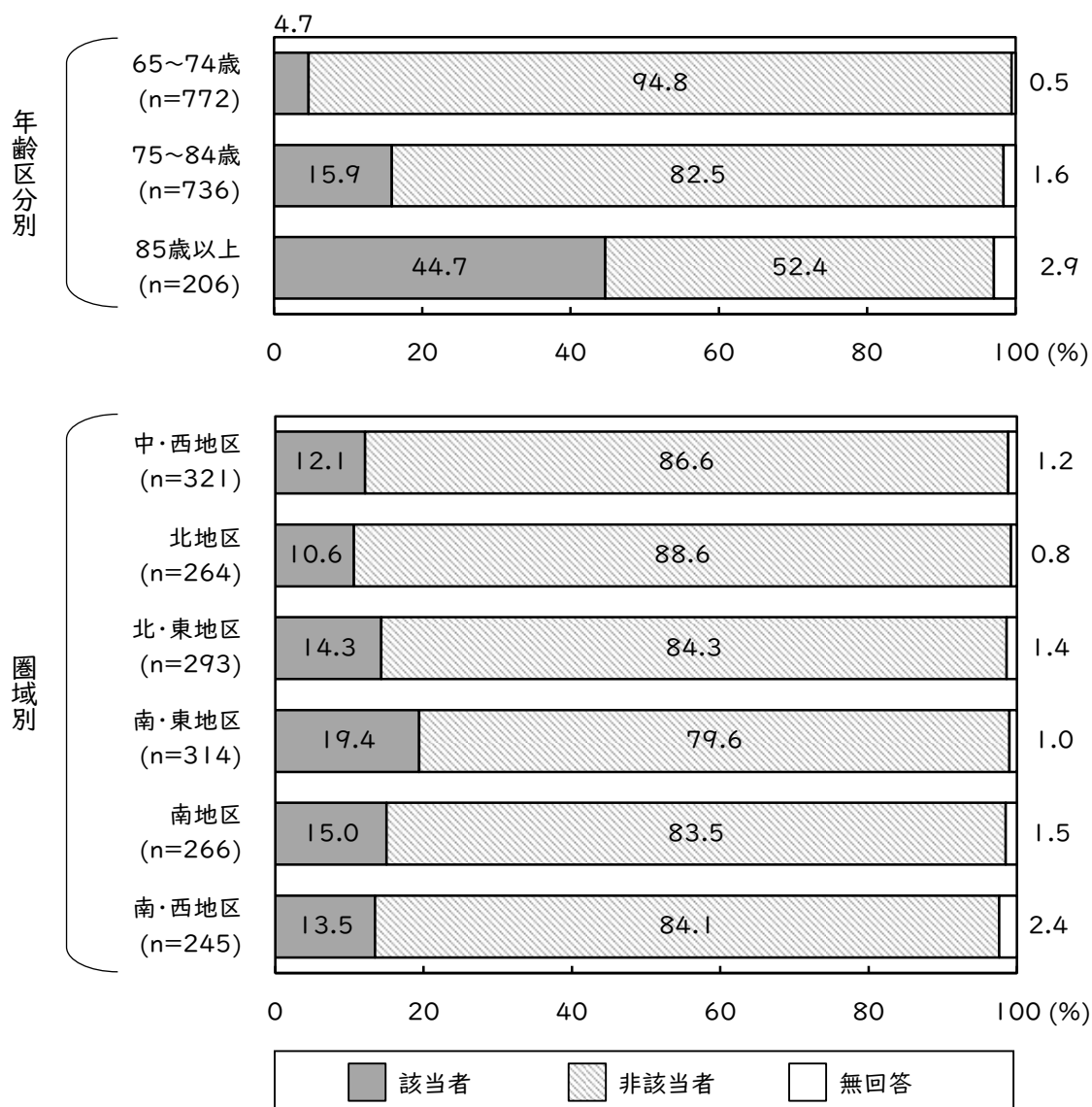
設問番号	設問	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	無回答
問12	転倒に対する不安は大きいですか。	12.3	31.5	27.7	22.5	6.1

「該当者」が13.6%、「非該当者」は80.0%となっており、「該当者」は前回より0.6ポイント増加しています。



「該当者」の割合は、《65～74歳》で4.7%、《75～84歳》で15.9%、《85歳以上》で44.7%と、増加幅が大きくなっています。

圏域別では《南・東地区》での割合が最も高く、19.4%となっています。



## (2) 転倒リスク

### ■ 評価方法

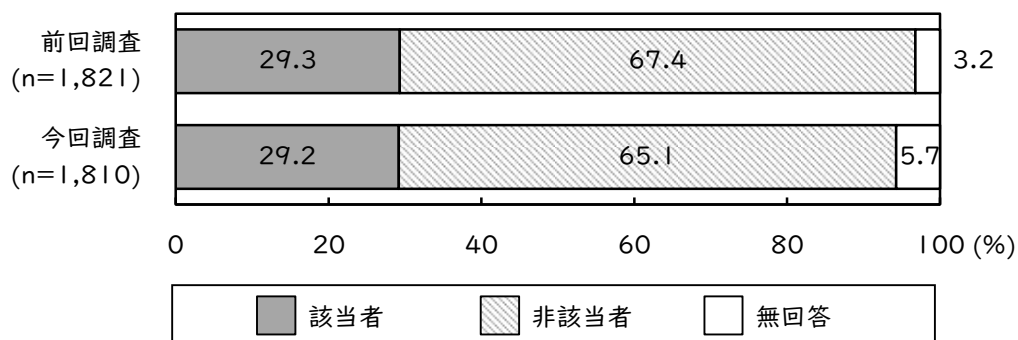
以下の設問で該当する選択肢を回答した場合（問11で「何度もある」または「1度ある」）を、該当者（転倒リスクのある高齢者）としました。

### ■ 評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,810）】

単位：%

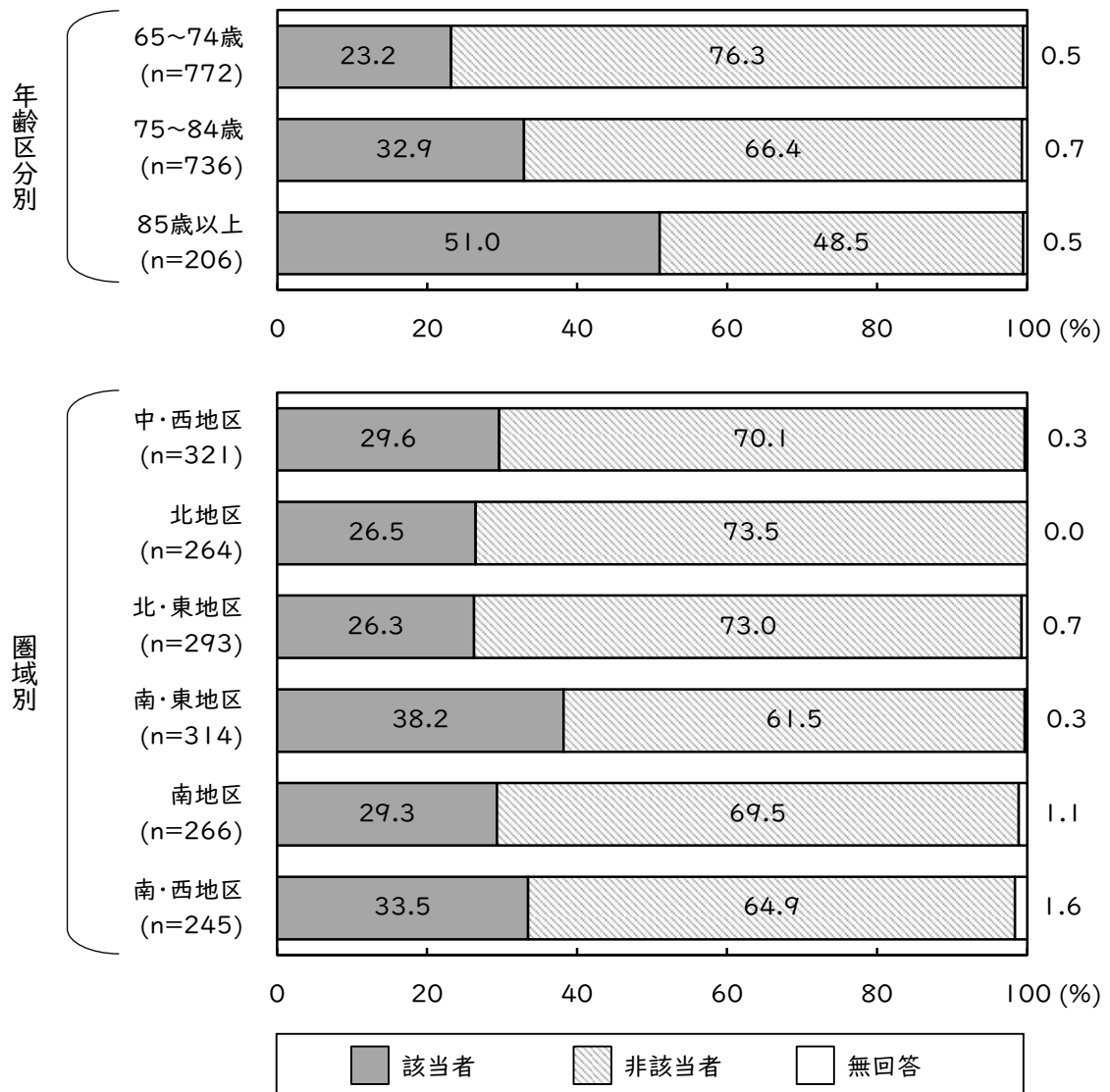
設問番号	設問	何度もある	1度ある	ない	無回答
問11	過去1年間に転んだ経験がありますか。	7.4	21.8	65.1	5.7

「該当者」が29.2%、「非該当者」は65.1%となっており、「該当者」の割合は前回からほぼ変化はありません。



「該当者」の割合は、《65～74歳》で23.2%、《75～84歳》で32.9%、《85歳以上》で51.0%と、《85歳以上》では約5割がリスク該当者となっています。特に《75～84歳》から《85歳以上》にかけての増加幅が大きくなっています。

圏域別では《南・東地区》での割合が最も高く、38.2%となっています。



### (3) 閉じこもり傾向

#### ■ 評価方法

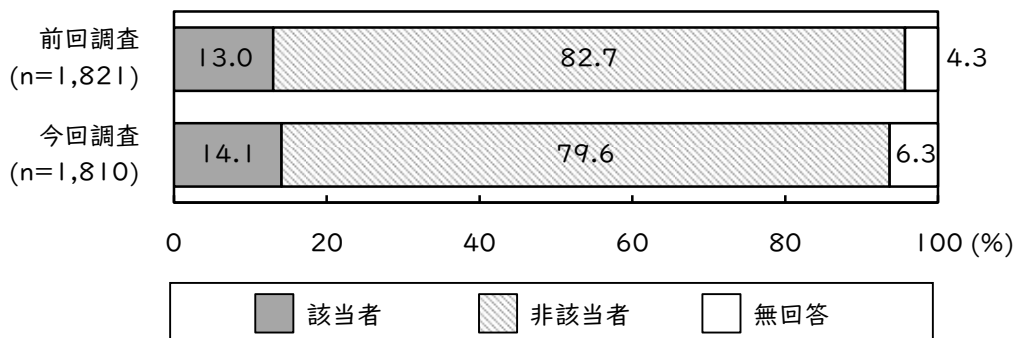
以下の設問で該当する選択肢を回答した場合（問 13 で「ほとんど外出しない」または「週 1 回」）を、該当者（閉じこもり傾向のある高齢者）としました。

#### ■ 評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,810）】

単位：%

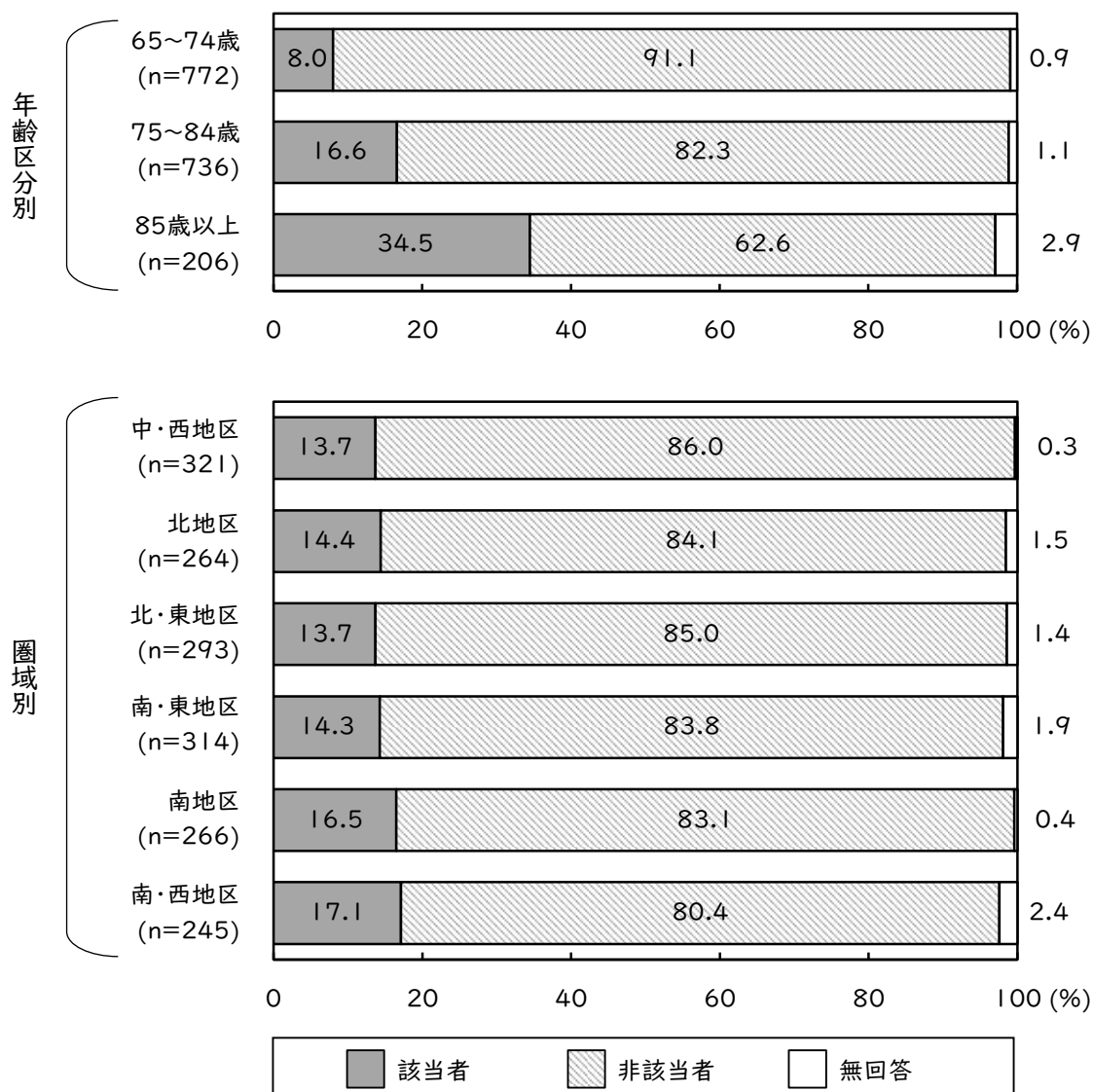
設問番号	設問	ほとんど外出しない	週 1 回	週 2～4 回	週 5 回以上	無回答
問 13	週に 1 回以上は外出していますか。	4.5	9.6	40.4	39.2	6.3

「該当者」が 14.1%、「非該当者」は 79.6%となっており、「該当者」は前回より 1.1 ポイント増加しています。



「該当者」の割合は、《65～74歳》で8.0%、《75～84歳》で16.6%、《85歳以上》で34.5%と、増加幅が大きくなっています。

圏域別では《南・西地区》での割合が最も高く、17.1%となっています。





## (4) 低栄養の疑い

### ■ 評価方法

BMIが20.0以下の人を該当者（低栄養の疑いのある高齢者）としました。

### ■ 評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,810）】

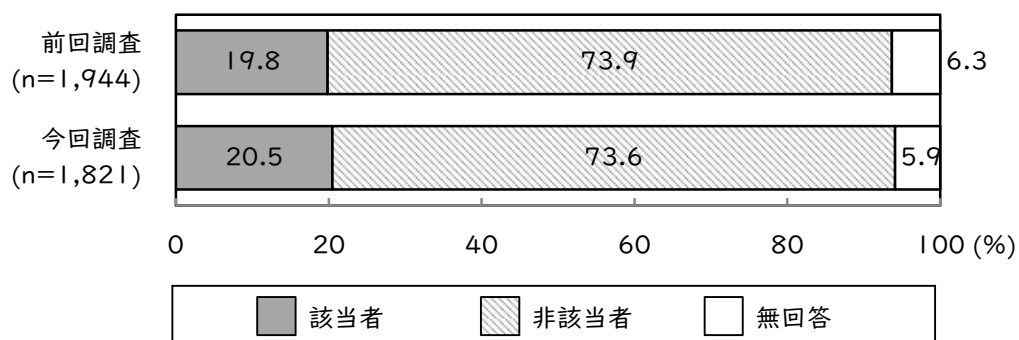
単位：%

設問番号	設問	BMI 20.0 以下	BMI 20.0 より上	無回答
問 18	身長、体重はいくつですか。	20.5	73.6	5.9

※独自の評価。

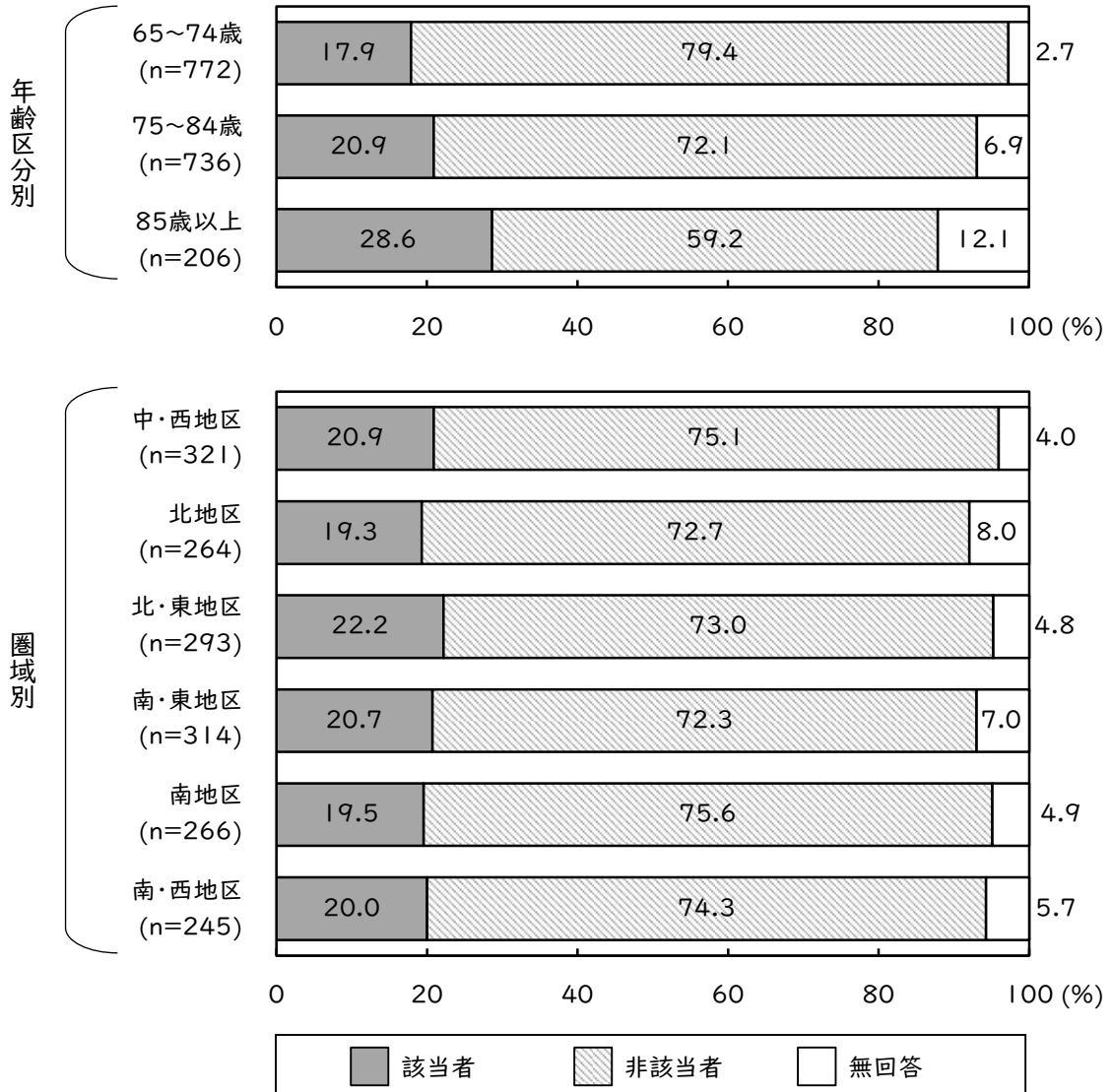
※BMI：身長<sup>2</sup>に対する体重の比で、体格を表す指標。

「該当者」が19.8%、「非該当者」は73.9%となっており、「該当者」の割合は前回より0.6ポイント増加しています。



「該当者」の割合は、《65～74歳》で17.9%、《75～84歳》で20.9%、《85歳以上》で28.6%となっています。

圏域別では《北・東地区》での割合が最も高く、22.2%となっています。



## (5) 咀嚼機能の低下

### ■ 評価方法

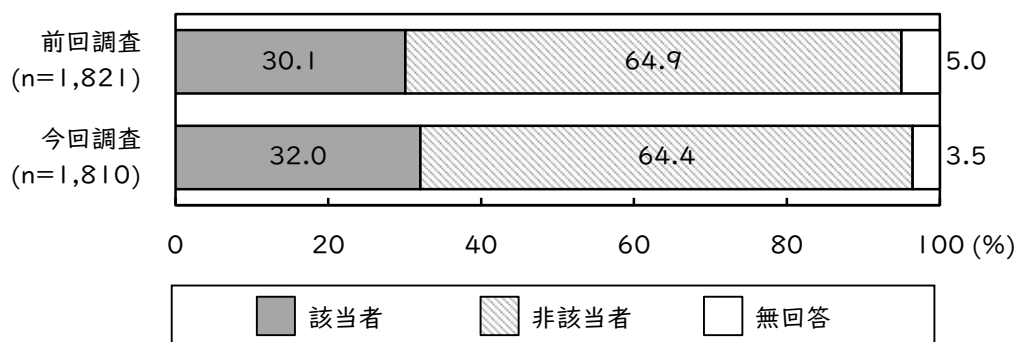
咀嚼機能の低下を問う設問で該当する選択肢を回答した場合（問 19 で「はい」）を、該当者（咀嚼機能の低下がみられる高齢者）としました。

### ■ 評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,810）】

単位：%

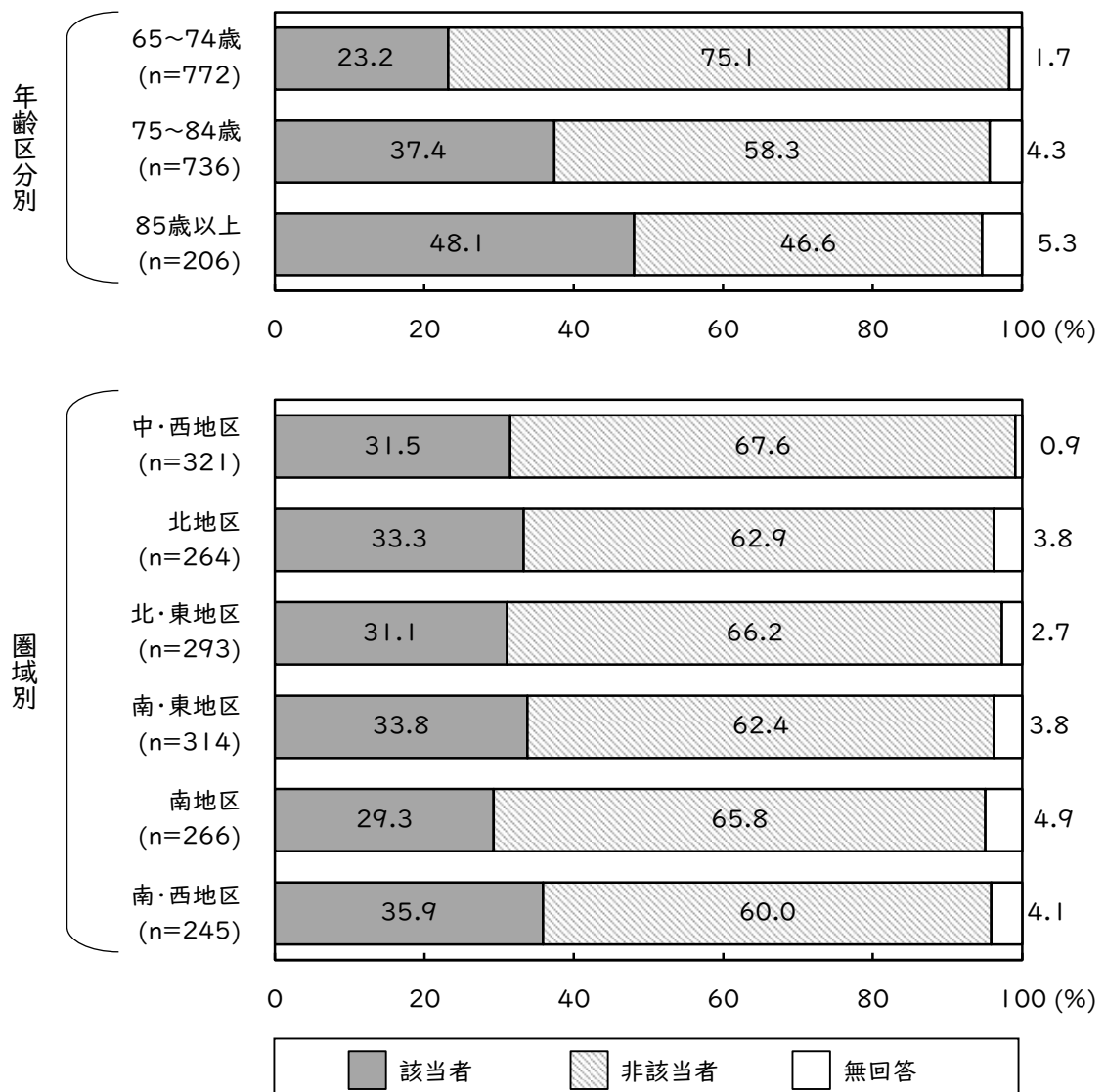
設問番号	設問	はい	いいえ	無回答
問 19	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	32.0	64.4	3.5

「該当者」が 32.0%、「非該当者」は 64.4%となっており、「該当者」の割合は前回より 1.9 ポイント増加しています。



「該当者」の割合は、《65～74歳》で23.2%、《75～84歳》で37.4%、《85歳以上》で48.1%と、《85歳以上》では約5割がリスク該当者となっています。

圏域別では《南・西地区》での割合が最も高く、35.9%となっています。



## (6) 認知症リスク

### ■ 評価方法

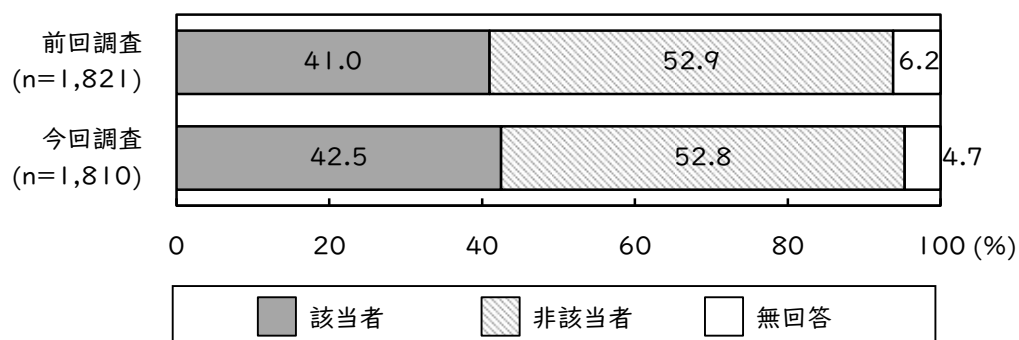
認知機能の低下を問う設問で該当する選択肢を回答した場合（問 22 で「はい」）を、該当者（認知機能の低下がみられる高齢者）としました。

### ■ 評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,810）】

単位：%

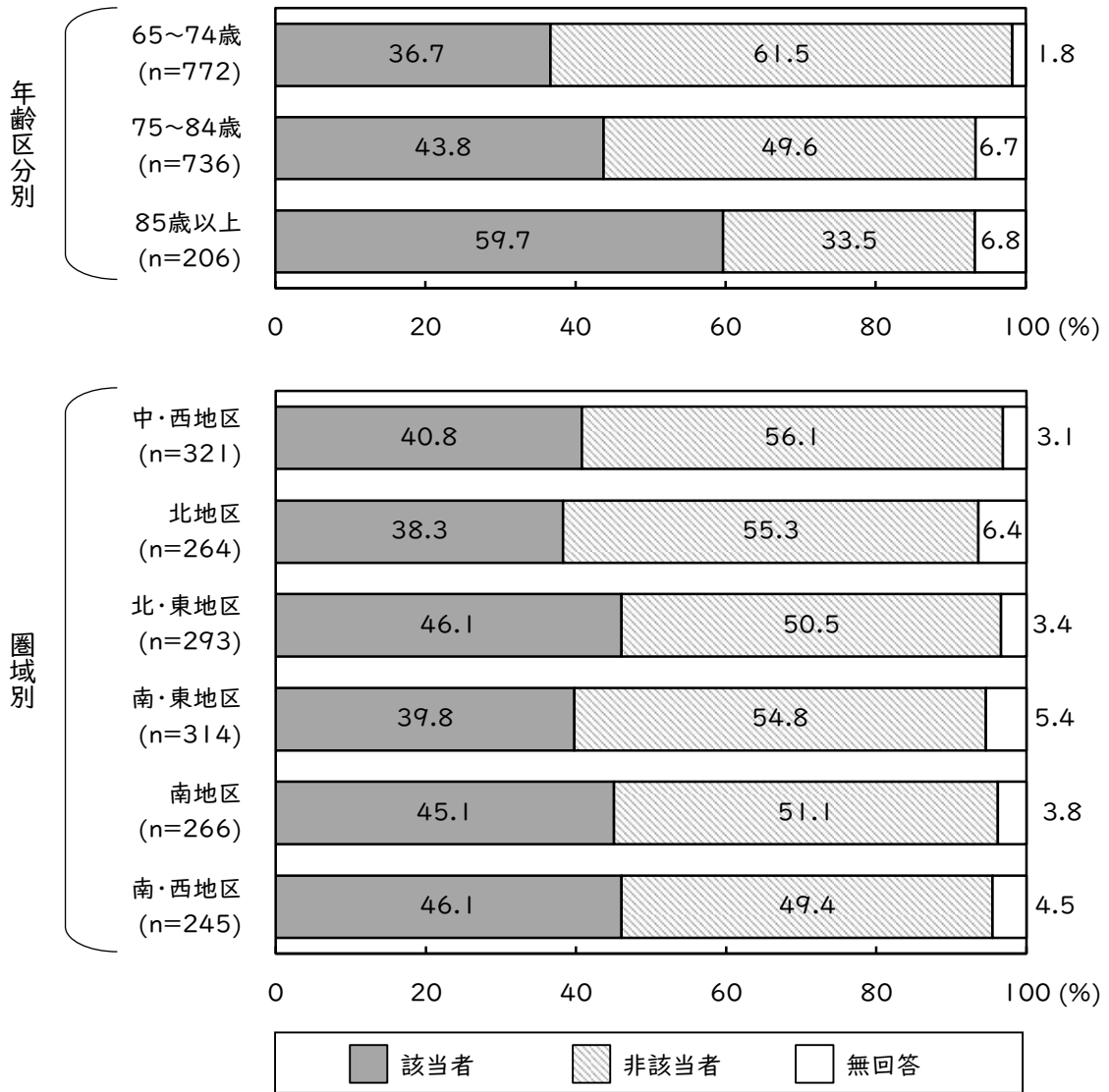
設問番号	設問	はい	いいえ	無回答
問 22	物忘れが多いと感じますか。	42.5	52.8	4.7

「該当者」が42.5%、「非該当者」は52.8%となっており、「該当者」の割合は前回より1.5ポイント増加しています。



「該当者」の割合は、《65～74歳》で36.7%、《75～84歳》で43.8%、《85歳以上》で59.7%と、《75～84歳》では4割台半ば、《85歳以上》では約6割がリスク該当者となっています。

圏域別では《北・東地区》、《南・西地区》での割合が最も高く、46.1%となっています。



## (7) 手段的自立度 (IADL)

### ■ 評価方法

以下の5つの設問について、該当する選択肢を回答した場合（問23～27で「できるし、している」または「できるけどしていない」）を1点とし、合計点が5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価しました（5点満点評価）。

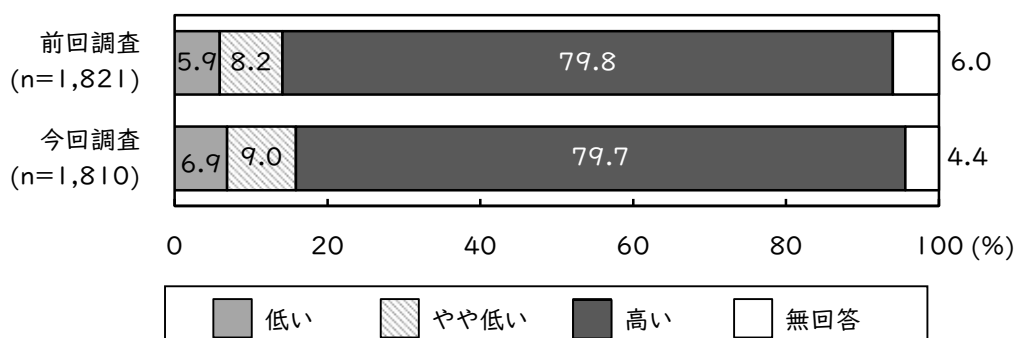
### ■ 評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,810）】

単位：%

設問番号	設問	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答
問23	バスや電車を使って一人で外出していますか。（自家用車でも可）	66.1	22.4	7.8	3.7
問24	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	79.9	12.5	4.5	3.1
問25	自分で食事の用意をしていますか。	66.3	21.6	8.9	3.2
問26	自分で請求書の支払いをしていますか。	78.2	14.0	4.5	3.2
問27	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	79.1	12.8	4.9	3.2

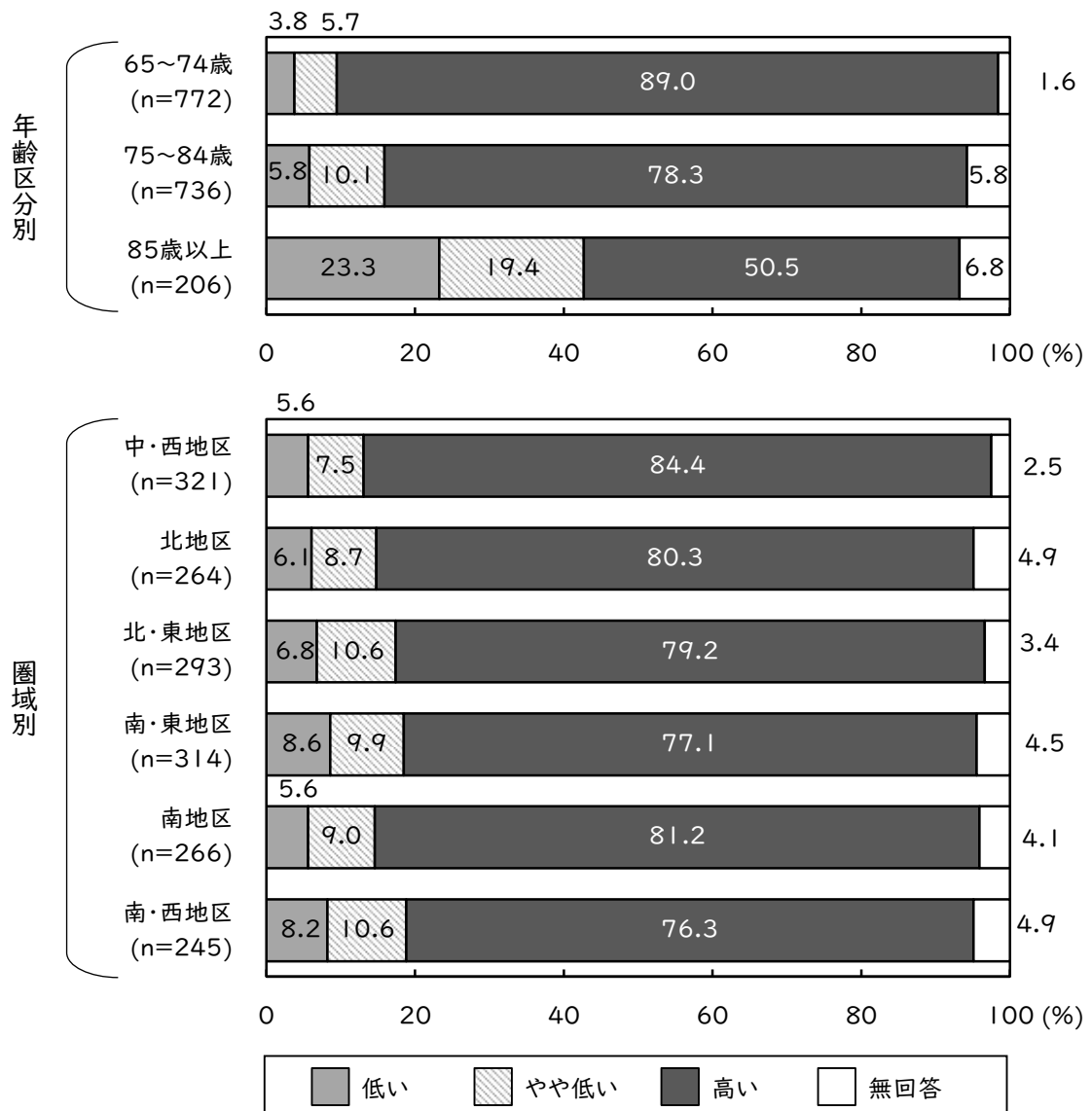
※手段的自立度（IADL）：買物・外出等の日常生活を自分で行っているかどうかに着目し、自立している水準を測る指標。

「低い」は6.9%、「やや低い」は9.0%で、『リスク該当者』（「低い」+「やや低い」）は15.9%となっています。リスク該当者の割合は前回から1.8ポイント増加しています。



『リスク該当者』（「低い」+「やや低い」）の割合は、《65～74 歳》で 9.5%、《75～84 歳》で 15.9%、《85 歳以上》で 42.7%と、《85 歳以上》から急増しています。

圏域別では《南・西地区》での割合が最も高く、18.8%となっています。





## (8) うつ傾向

### ■評価方法

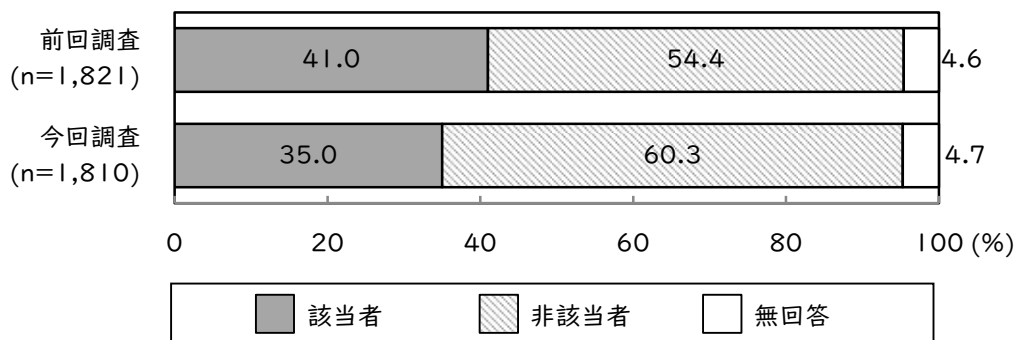
以下の2つの設問中いずれか1つでも該当する選択肢と回答した場合（問 50・51 で「はい」）を、該当者（うつ傾向の高齢者）としました。

### ■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,810）】

単位：%

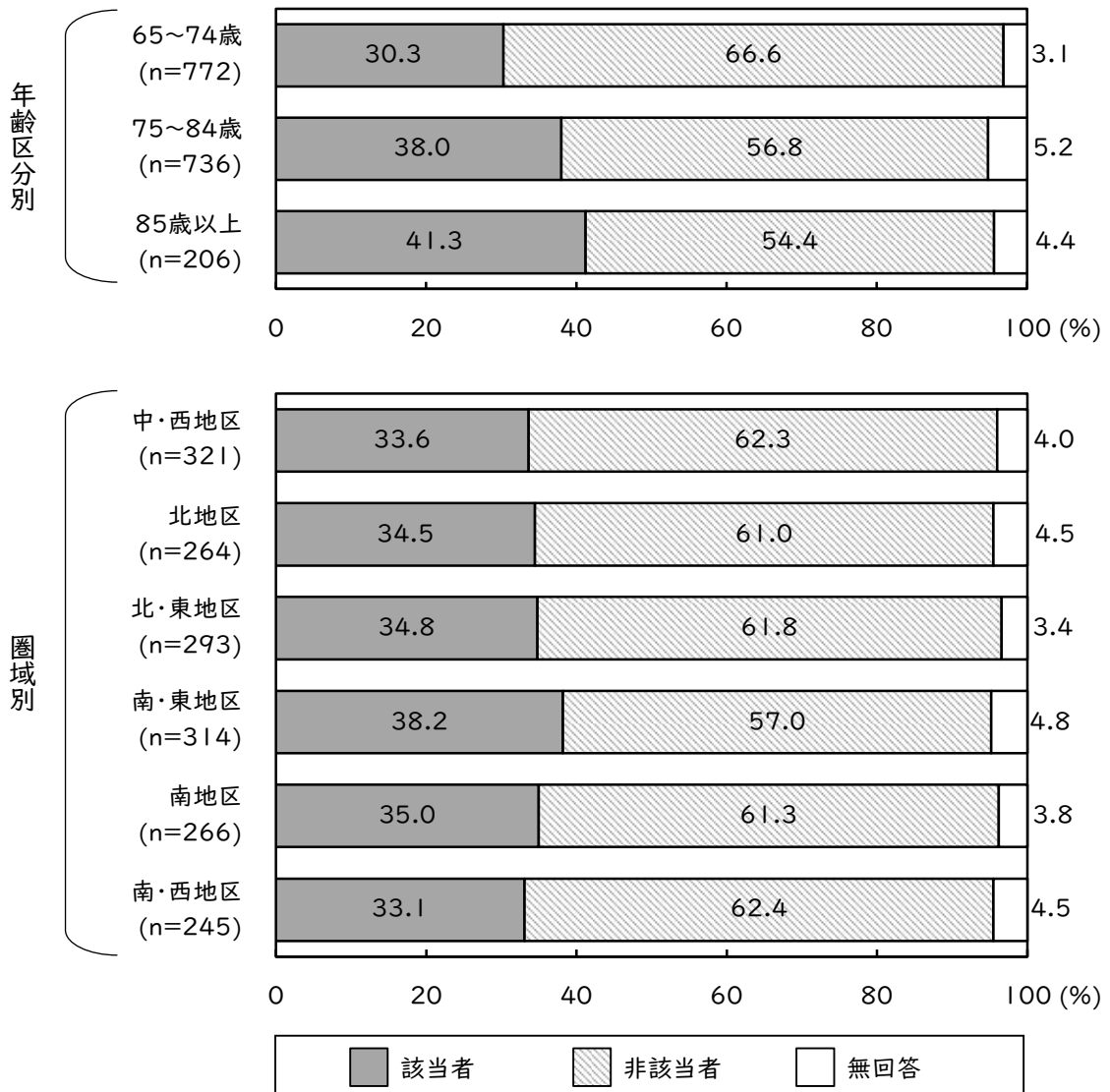
設問 番号	設問	はい	いいえ	無回答
問 50	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	30.7	64.0	5.3
問 51	この一か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	22.9	71.7	5.4

「該当者」が35.0%、「非該当者」は60.3%となっており、「該当者」は前回より6.0ポイント減少しています。



「該当者」の割合は、《65～74歳》で30.3%、《75～84歳》で38.0%、《85歳以上》で41.3%と、85歳以上では4割以上がリスク該当者となっています。

圏域別では《南・東地区》での割合が最も高く、38.2%となっています。



---

一宮市 一般高齢者アンケート  
～第9期一宮市高齢者福祉計画の策定に向けて～  
【調査結果報告書】

発行年月 : 令和5年3月

発行・編集 : 一宮市福祉部高年福祉課

〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号

TEL : (0586) 28-9151

FAX : (0586) 73-1019

E-mail : kounenfukushi@city.ichinomiya.lg.jp

---